

ニ課税ス

第三十五條 賣藥營業者ニシテ行商ヲ爲スモノハ行商税ヲ課ス同受賣者ニシテ行商ヲ爲スモノハ本税ノ外行商税ヲ課ス

第三十六條 賣藥營業者同受賣者ニシテ賣子ヲ出スモノハ賣子ノ人員ニ應シ行商税ヲ其備主ニ課ス

第三十七條 職工ハ家族若クハ傭人弟子ヲ問ハス其業ニ從事スルモノハ各別ニ課税ス

第三十八條 自家ノ農産物又ハ水産物ニ製作ヲ加ヘ販賣スルモノハ職工税ヲ課ス但開店販賣スルモノハ製作ヲ加フルト否トニ拘ハラズ商業税ヲ課ス

第三十九條 職工ニシテ自製ニアラサル物品ヲ混淆販賣スルモノハ職工税ト商業税トヲ併課ス其自製ノ物品ノミヲ開店販賣スルモノハ商業税ヲ課ス

第四十條 漁具ニ賦課スルモノニシテ課目二種以上ノ漁具ヲ使用スルモノハ各別ニ課税ス

第四十一條 鑛泉宿ニシテ湯錢ヲ受クルモノハ鑛泉宿税ノ外別ニ湯屋税ヲ課ス

第四十二條 自己ノ便宜ニ依リ休業スルモ其税金ハ尙ホ之ヲ徴收ス

第四十三條 縣税ヲ賦課シタル營業者ニシテ營業税法ニ依リ國税ノ賦課ヲ受クルニ至ル時ハ過納ニ係ル税金ヲ還付ス

第四十四條 左ニ掲クルモノニハ營業税雜種税ヲ賦課セス

- 一 盲人又ハ痲疾者ノ遊藝ヲ以テ生計ヲ爲スモノ
- 二 耕作一途ニ用ユル船
- 三 水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船
- 四 橋梁ニ換フル無賃ノ渡船
- 五 賃錢ヲ受ケサル船橋ノ組織ニ用ユル船
- 六 航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船及パツテラーノ類
- 七 官用ノ船車(官有ニ限ル)
- 八 官廳所用ノ爲メ又ハ武官職務上飼養ノ乘馬
- 九 蕎麥鮓餠餅蔬菜果實ノ類ヲ行商スルモノ
- 十 神佛祭典其他ノ場所ニ於テ木戸錢棧敷代敷物代等ヲ請求セス又ハ慈善ノ爲メニスル演劇興行煙花馬駝及ヒ路傍ニ立テ演技スル角兵衛獅子居合拔祭文讀ノ如キモノ

- 十一 製藥者及ヒ賣藥製造營業者ニ備ハル、職工
- 十二 農事ノ餘暇土方手傳ヲ爲スモノ
- 十三 新聞社並新聞雜誌賣捌所
- 十四 婦女ノ職工
- 十五 滿六十歳以上十四歳未滿ノ職工及ヒ理髮人
- 十六 代書筆耕
- 十七 露店專業ノ者
- 十八 反古買灰買ノ類ニシテ一定ノ店舗ヲ有セサル者

第四章 戸數割

第四十五條 戸數割ハ前年度一月一日現在戸數ニ其年度普通課額ヲ乘シ各市町村當リノ金額ヲ算定シ其金額ニ基キ該市町村會ニ於テ一月一日ヨリ七十日以内ニ各自ノ等級課額ヲ議定スルモノトス市町村會ニ於テ各自ノ等級課額ヲ議定スルニ當リ赤貧ニシテ納税ニ堪ヘスト認ムルモノハ課税セサルコトヲ得

第四十六條 戸數割ハ本籍寄留戸主家族ノ別ナク一戸ヲ構ヘタルモノニ賦課ス

第四十七條 同居同炊スルモノト雖モ經濟ヲ異ニシ獨立ノ生計ヲ營ム實アルモノハ

各別ニ賦課ス

第四十八條 各自課額議定標準期日後縣内市町村へ轉居スルモノハ其年度中既定ノ課額ニ依リ賦課ス

第四十九條 各自課額議定標準期日後新タニ納税義務ヲ生シタルモノハ其年度中普通課額ニ依リ賦課ス

第五十條 各自課額議定標準期日後他府縣ニ轉住シ再ヒ本縣内へ復歸スルモノハ其年度中既定ノ課額ニ依リ賦課ス

第五十一條 左ニ掲クル者ニハ戸數割ヲ賦課セス

- 一 救恤規則ニ依リ救助ヲ受クルモノ

第五章 營業稅附加稅

第五十二條 營業稅附加稅ハ二期ニ分チ國稅納額ニ依リ賦課ス但府縣制第八八條ニ依リ賦課スルモノハ其歩合ニ依ル

第五十三條 營業稅附加稅ハ本稅額ニ異動ヲ生シタル時ハ追徵或ハ還付ス

附 則

第五十四條 此規則ハ明治三十三年度所屬ノ縣稅ヨリ之ヲ施行ス

(7) 罹災救助基金管理及補充規則中改正
 第五條 本基金ノ貯蓄高罹災救助基金法第三條ノ制限ニ對スル不足額ヲ補充スル爲メ明治三十五年以降七ヶ年度間毎年度金貳萬九千五百圓以上ヲ縣稅ヨリ支出シ本基金ニ編入スルモノトス

一、本年七月三十一日知事は罹災救助基金法第十六條及び府縣制第四百十三條に依り、縣令第四十一號罹災救助基金支出規則と告示第百九號罹災救助基金管理及補充規則とを定めたが、本件はその告示第百九號中の一部を改正したものである。

議員等費用
辨償規則中
改正

(8) 縣會議員名譽職參事會費用辨償規則中改正

第六條 名譽職參事會會員ノ縣會開會中ノ手當ハ參事會會員本分ノ額ニ依ル

第七條 縣會議員ニシテ招集ニ應シ廳下ニ滞在スルモ出席セサルトキハ手當半額ヲ給ス

廳下ニ住所ヲ有スル者闕席スルトキハ手當ヲ給セス

第八條 名譽職參事會會員全月出席セサルトキハ月手當ヲ給セス

月ノ中途ニ於テ就職スル者ハ其翌日ヨリ失職又ハ退職シタル者ハ其當日迄日割(其

月ノ現日數ニ依ル)ヲ以テ月手當ヲ給ス

府縣制第七十四條第一項但書ニ依リ補充セラレタル者亦之ニ準ス

第九條 旅費ニ付テハ前各條ノ外内國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

附 則

第十條 此改正規則ハ明治三十三年一月一日ヨリ實施ス

第二 號

職 名	種 別	金 額
縣 會 議 員	日 額	壹 圓 五 拾 錢
名譽職參事會會員	月 額	四 拾 五 圓

決算報告

(9) 明治三十一年度歳入歳出決算報告(一部不承認)

安念十八番の發議に依り、共進會建物運搬費(見積の低額なりし通運會社神戸支店に受負はしめず、見積の高額なる富山市の某に受負はしむ)及び第二中學校敷地買上費(臨時縣會の議決額一坪九拾錢を正當の手續を経ずして一坪壹圓拾錢以上に買上ぐ)は金額に於て差違なきも執行其の當を得ざる爲、縣經濟に大損害を來したるに付、之を會議録

に特筆し、其の他は是認することとした。

(10) 建議(二件)

(一)復舊工事執行に關する件、(二)罹災救助基金管理補充規則中改正發案方の件で、内閣點を付したるものは左にその全文を掲ぐることにする。

復舊工事執行ニ關スル建議

今回徒ラニ緊急ノ名ヲ借リ隨意契約ヲ以テ請負ヲ命ゼラレタル明治三十二年度水害復舊工事ハ設計簡易ニシテ而カモ施行上容易ナル期節ニ拘ハラズ竣工期限頗ル長ク之レヲ競争入札ニ附スルノ餘日ナキモノト認ムルヲ得ズ而已ナラズ曩キニ特命請負ヲ以テ施行シタル成績甚ダ粗惡ニシテ信用スルヲ得ザル請負人ニ特命シタルハ甚ダ失當ナル處置ニシテ縣經濟ヲ顧ミザルモノト信ズ依テ昨日ヲ以テ締結セラレタル緊急工事ニ對スル隨意契約ヲ取消シ更ニ競争入札ニ附セラレンコトヲ望ム
右本會ノ決議ニ依リ及建議候也

明治三十二年十二月五日

富山縣會議長代理

副議長 黒田次郎右衛門

富山縣知事 金尾稜殿殿

特殊事項

土木工事隨意契約の攻撃

隨意契約の
大攻撃

開會第二日たる十二月五日緊急動議として、當局が本年の水害復舊費中縣會成立以前に於て、貳拾六萬圓の緊急工事を専決處分し、竣工期日を翌年三月二十日として昨四日隨意契約を締結し、且其の受負者中には急防締切の時に於て失態を生じたものもあるといふことが提出せられ、石黒十九番が主となりて、大に當局を攻撃した。之に對して津田參與員が辯明に努めしも、質問續出して「收賄の事實あらば自白すべし」などの罵聲も起り、結局「復舊工事隨意契約取消の建議説」成立し、即日之を知事に提出した。之に對して同月十九日金尾知事は一場の説明を爲し、「隨意契約を取消し、競争入札に付すべしとの建議は採用し難し。又緊急工事中緊急ならざるものありとの意見あるも、之は縣のみならず土木監督署も認めしものである。次に假締切に不正工事ありしとの非難あるも、本年は特に之に對し鄭重なる検査を爲し、中には手直し又は歩引を爲さしめたものもある。終りに本件に付諸君が熱心に調査し、事實を摘發して當局者の將來を警戒せらるゝは本官の深く謝する所で、今後下僚を督勵して縣民の委託に辜負せざらんことを期する云々」

と述べたが、其の態度傲慢にして議員を眼中に置かざるものゝ如く、答辯終るや否や身を反らして退席した。武内二十一番は、尙質問の終らざるに退席するは不親切である。議會を蔑視したものである。議長より更に呼戻しの手續を爲すべきであると述べたが、關野議長は「滿場の求めなきが故に其の手續をすることが出来ない。」と告げて次の日程に入つた。

五五、明治三十三年一月臨時縣會

本會は明治三十三年一月六日開會、同月十二日閉會した。議長は關野善次郎、議員席次は前會に同じく、知事は金尾稜殿であつた。工費査定都合にて前會に提案の運びに至らなかつた昨年九月十月の交に起つた水害土木費金百拾餘萬圓を決議し、神通川馳越工事も起工せらるゝことゝなつた。

議 件

議事件名は明治三十二年度歳入歳出追加豫算二件 同上歳出豫算變更 水害土木費充用縣債借入及償還方法 明治三十三年度歳入歳出追加豫算二件 縣有不動産交換(否

開閉

議事件名

追加豫算

決) 議及六件 建議二件であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治三十二年度歳入歳出追加豫算

歳 入 經 常 部

地 租 割 金拾五萬五千五百五拾貳圓四拾七錢五厘

內 郡 市 收 入 金拾五萬五千五百五拾貳圓四拾七錢五厘

但本年地租豫算高金七拾九萬五千六百五拾參圓七拾壹錢六厘、地租壹圓ニ

付金拾九錢五厘

戶 數 割 金貳萬七千九百六拾九圓

內 郡 市 收 入 金貳萬七千九百六拾九圓

但本年總戶數十三萬九千八百四十五戶、一戸ニ付金貳拾錢

經常部合計金拾八萬參千貳拾壹圓四拾七錢五厘

歳 出 經 常 部

土 木 費 金壹萬六千五百七拾八圓四錢五厘

縣 稅 取 扱 費 金千百拾八圓七拾六錢

經常部合計金壹萬七千六百九拾六圓八拾錢五厘

歲 出 臨 時 部

土 木 費 金九萬千四百六拾九圓四拾貳錢四厘

郡市町村土木補助費 金八萬千百參拾五圓七拾五錢

臨時部合計金拾七萬貳千六百五圓拾七錢四厘

歲出總計金拾九萬參百壹圓九拾七錢九厘

歲入出差引不足金七千八百八拾圓五拾錢四厘

是ハ別途提出ノ變更豫算殘金及ヒ前豫算歲入出差引殘金ヲ充用スルモノトス

追加豫算

(2) 明治三十二年度歲入歲出追加豫算

歲 入 經 常 部

地 租 割 金拾四萬四千八百八圓九拾七錢六厘

內 郡 市 收 入 金拾四萬四千八百八圓九拾七錢六厘

但本年地租豫算高金七拾九萬五千六百五拾參圓七拾壹錢六厘、地租壹圓ニ

付金拾八錢貳厘

歲 入 臨 時 部

國 庫 補 助 金 金貳拾壹萬五千圓

縣 債 金六拾貳萬八千七百六拾九圓七拾五錢七厘

臨時部合計金八拾四萬參千七百六拾九圓七拾五錢七厘

歲入總計金九拾八萬八千五百七拾八圓七拾參錢參厘

歲 出 經 常 部

縣 吏 員 費 金壹萬參千九百拾六圓

歲 出 臨 時 部

土 木 費 金九拾貳萬七千七百拾五圓四拾七錢七厘

郡市町村土木補助費 金四萬六千九百四拾七圓貳拾五錢六厘

臨時部合計金九拾七萬四千六百六拾貳圓七拾參錢參厘

歲出總計金九拾八萬八千五百七拾八圓七拾參錢參厘

- 一、神通川の馳越線は、この土木費を以て施行せられたものである。
- 一、本豫算は、縣會の決議に對し、府縣制第八十三條に依り、知事に於て内務大臣の指揮を受け決定したるものである。

(3) 明治三十二年度歳出豫算變更
歳出臨時部

土木費 ——— 前 豫 算 高 變 更 高
金貳拾五萬九千四百五拾五圓參拾六錢七厘 ——— 金貳拾五萬貳千百參拾圓參拾參錢四厘

一、本豫算は縣會成立前府縣制第百四十三條に依り知事の決定したる緊急災害土木費の追加豫算中の變更である。

縣債借入等
方法

(4) 縣債借入及償還方法

一、支 辨 明治三十二年度水害土木費

一、起債額 金六拾貳萬八千七百六拾九圓七拾五錢七厘以內

一、借 入 罹災救助基金金貳萬圓銀行金六拾萬八千七百六拾九圓七拾五錢七厘以內

一、利 率 一ケ年元金の百分の十以內

一、償 還 元金償還は明治三十三年度乃至明治三十九年度の七ケ年間毎年度末、利子支拂は毎年度末

一、本件は縣會の決議に對し、府縣制第八十三條に依り、知事に於て内務大臣の指揮

を受け決定したるものである。

(5) 明治三十三年度歳入歳出追加豫算

歳入 經常部

地 租 割 金拾萬千四拾八圓貳錢貳厘

內 郡 市 收 入 金拾萬千四拾八圓貳錢貳厘

但本年度地租豫算高金七拾九萬五千六百五拾參圓七拾壹錢六厘、地租壹圓

ニ付金拾貳錢七厘

戶 數 割 金參萬五千參百八拾圓七拾八錢五厘

內 郡 市 收 入 金參萬五千參百八拾圓七拾八錢五厘

但本年總戶數十三萬九千八百四十五戶、一戶ニ付金貳拾五錢參厘

經常部合計金拾參萬六千四百貳拾八圓八拾錢七厘

歳入 臨時部

寄 附 金 金貳百圓

歳入總計金拾參萬六千六百貳拾八圓八拾錢七厘

歳出 經常部

縣 稅 取 扱 費 金千四百拾五圓貳拾參錢壹厘
 縣 吏 員 費 金千參百拾壹圓九拾貳錢

經常部合計金貳千七百貳拾七圓拾五錢壹厘

歲 出 臨 時 部

土 木 費 金千參百八拾圓六厘

郡 市 町 村 土 木 費 金壹萬參千四百七拾四圓九拾壹錢八厘

縣 債 費 金拾壹萬八千五百七圓四拾四錢八厘

臨時部合計金拾參萬參千參百六拾貳圓參拾七錢貳厘

歲出總計金拾參萬六千八拾九圓五拾貳錢參厘

歲入出差引殘金五百參拾九圓貳拾八錢四厘

一、本豫算以外に提案せられた同上追加豫算は、本表に併算せられし等の理由にて廢案となつた。

追加豫算

(6) 明治三十三年度歲入歲出追加豫算

歲入經常部は前表に合算することとし、歲出經常部の縣吏員費金千參百拾壹圓九拾貳錢、歲出臨時部の郡市町村土木補助費金壹萬參千四百七拾四圓九拾壹錢八厘は決議の上、

不動産交換

前表に合算することゝなつた。

(7) 縣有不動産交換(否決)

富山市總曲輪縣社日枝神社官有社地二千百十六坪九合四勺(六九八六アール)と、同市山王町富山縣廳敷地の内二千百十六坪九勺とを交換せんとする發案で、これは縣廳を舊城内に建築するに伴ひ、隣接日枝神社敷地を縣廳敷地に編入せんとする爲であつたが、補償料貳千五百圓を要するとの條件付であつたから否決した。

(8) 議及(六件)

土木費に關して左の通り議及した。

(一) 今回ノ工事ハ公入札ヲ以テ請負ヲ命スル事

但水勢變更等萬止ヲ得サルモノハ此限リニアラス

(二) 國庫査定及縣査定工事ノ殘金ハ今回ノ指定工事以外ニ支出スルヲ得サル事

但増破附帶工事ハ此限リニアラス

(三) 庄川通柳瀨前緊急工事第一號ノ施行ヲ止メ以テ該締切工事ヲ存置スル事

(四) 堤防缺壞ニ際スルノ締切工事ハ可成的築堤中ニ包ミ込ムノ方法ヲ以テ施行スル事

(五) 井田山田兩川堤防築造ニ要スル民有地ヲ寄附セサル町村ノ工事ハ其施行ヲ見合ス

議及

事

(六)災害土木費豫算ハ國庫補助下附申受等ノ手續ヲ經ル迄ニハ若干時日ヲ要スルヲ以テ緊急復舊工事ヲ要スル箇所ハ當局者ニ於テ責任ヲ負ヒ規定ノ手續ヲ終ル前起工セラレタシ

(9) 建議(二件)

(一)内務大臣に對して、災害土木補助規定改正の件、(二)知事に對して、神通川岡堤以南の堤防築設方等の豫算發案方の件を建議した。内、圈點を附したものと、全文を左に記すとす。

災害土木補助規定改正ノ義ニ付建議

夫レ本縣ノ連年水害ノ難ヲ受ケ縣經濟頗ル困弊ノ境ニ陥リ民力ノ負擔殆ント其極ニ達シ居ルノ實狀ハ夙ニ閣下ノ明知シ居ラル、所ト相信シ候然ルヲ以テ比年水害ノ爲メニ被ルトコロノ災害土木費ハ悉ク縣費ヲ以テ支辨スルニ足ラス年々國庫補助ヲ仰クノ已ムヲ得サルニ至リ近ク三十一年度ニ於テ僅ニ之ナキヲ得タリシカ如キ狀況ニ有之候就中三十二年九月乃至十月ニ於ケル水害ハ近年稀有ノ大洪水ニシテ其總工費ノ如キハ實ニ百參拾萬圓餘ニ上レリ爲メニ去二十九年以來被リタル水害費支辨ノ爲

建議

メ起シタル縣債八拾萬圓餘ヲ有スルニ拘ハラス復々本年度災害土木費ヲ支辨スル爲メ六拾八萬圓餘ノ縣債ヲ起スノ已ムヲ得サル場合ニ遭遇シ民力凋衰財源枯渴シテ毫モ餘裕ヲ存セス若シ夫レ斯クノ如クニシテ依然進ムアランカ富山縣ハ災害土木費ノ爲メ數年ヲ出テスシテ滅亡ノ期ニ達スルヤモ亦測リ知り得ヘカラサルカト窃ニ憂慮罷在候然ルニ夫ノ明治三十二年四月勅令第六十九號ヲ以テ定メラレタル災害土木費國庫補助規定ニ依レハ府縣ノ災害土木費ニシテ其地租年額十分ノ三ヲ超過スルトキハ國庫ハ其超過額ノ地租額ニ等シキ額ニ達スル迄ハ十分ノ四以内、地租額ヲ超過スルトキハ其超過ノ部分ニ對シテハ十分ノ五以内ヲ補助セラル、ノミニシテ年々巨額ノ災害土木費ヲ要スル本縣ノ如キニ在リテハ殆ント總工費ニ對スル九牛ノ一毛ニ該リ未タ以テ縣經濟ヲ疲弊ノ裡ヨリ救フニ由ナク寧ロ補助制限ノ大ニ緊縮ニ失スルノ嫌有之候就テハ此際災害土木費國庫補助ノ制限規定ヲ改正セラレ以テ此緊縮ヲ解キ府縣ノ實狀ニ照ラシテ相當補助ヲ與フルノ途ヲ開カレ候ハ、恩惠ヲ承クルハ惟リ本縣ノミニアラスト深ク相信居リ候是レ或ハ漫リニ巨額ノ國庫補助ヲ欲スルノ虞レ有之候得共本縣目下ノ實狀ハ全ク國庫補助ニ待ツヨリ他ニ補充ノ支途無之候條希クハ前叙ノ事實ヲ洞察セラレ一日モ早く改正ノ實ヲ舉ケラレンコトヲ茲ニ當會ノ議決ヲ

以テ此段及建議候也

明治三十三年一月十二日

富山縣會議長 關野善次郎

内務大臣侯爵 西郷從道殿

特 殊 事 項

奇現象

一種の奇現象

明治三十三年度追加豫算の議事中、假縣廳舎建築費の削除説が進歩派安念十八番より提出せられて、自由派武内二十一番之に賛成し、採決に至つて一般議員は悉く起立したが、参事會員は一人も同意しない奇現象を呈した。

五六、明治三十三年^{九月}臨時縣會

開 閉

本會は明治三十三年九月二十六日開會、同十月二日閉會した。議長は關野善次郎、議員席次は前會に同じく、知事は檜垣直右であつた。春來數度の水害、高岡市並に出町の大震災、庄川の改良並に河川法實施に伴へる費用の要求及び監獄費國庫支辨の結果、其の剩餘金を追加歳出に充用せんことを附議したものである。

議 件

議事件名

議事件名は明治三十三年度歳出豫算變更 同上歳入歳出追加豫算 縣有不動産の處分二件 高岡市の國縣里道改修費に關する議及であつた。

議 決 摘 要

豫算變更

(1) 明治三十三年度歳出豫算變更

歳 出 經 常 部

縣 監

獄 費

前 豫 算 高

變 更 豫 算 高

縣 監 獄 修繕費

金五萬六千八百八拾七圓八拾貳錢七厘

金貳萬九千拾六圓參拾參錢參厘

歳 出 臨 時 部

縣 監 獄 建築費

前 豫 算 高

變 更 豫 算 高

金千五百六拾四圓參拾錢七厘

金七百六拾七圓六拾八錢

一、本豫算變更より生ずる剩餘金は金貳萬九千五百五圓拾貳錢貳厘で、これは本年十

月より監獄費が國庫支辨となる結果である。

(2) 明治三十三年度歳入歳出追加豫算

歳入經常部

地租 割 金拾四萬六千四百貳拾八錢四厘

但本年地租豫算高金七拾九萬五千六百五拾參圓七拾壹錢六厘、地租壹圓ニ付拾八錢四厘

戶數 割 金五萬千參百貳拾參圓拾壹錢五厘

但本年總戶數十三萬九千八百四十五戶、一戶ニ付金參拾六錢七厘

國庫下渡金 金參百七拾圓六錢六厘

歳入經常部合計金拾九萬八千九拾參圓四拾六錢五厘

歳入臨時部

繰越金 金四百八拾五圓貳拾貳錢

國庫補助金 金千八拾參圓四拾壹錢

財產賣拂代 金拾五圓八拾錢

歳入臨時部合計金千五百八拾四圓四拾參錢

歳入總計金拾九萬九千六百七拾七圓八拾九錢五厘

歳出經常部

警察費 金貳百八拾壹圓

衛生及病院費 金百六圓五拾九錢

教育費 金五拾四圓

縣稅取扱費 金貳千貳百五拾四圓參拾錢壹厘

歳出經常部合計金貳千六百九拾五圓八拾九錢壹厘

歳出臨時部

警察廳舍建築費 金千九百參拾九圓四拾錢

土木費 金六萬五千四拾參圓貳拾參錢參厘

郡市町村土木補助費 金九千四百九拾六圓五拾八錢五厘

市町村傳染病豫防補助費 金六千五百圓四拾五錢八厘

教育費 金七百貳拾四圓拾八錢五厘

縣廳舍建築費 金參百八拾參圓貳拾六錢五厘

河川改良工事費負擔 金拾四萬貳千圓

歲出臨時部合計金貳拾貳萬六千八百七拾貳錢六厘

歲出總計金貳拾貳萬八千七百八拾參圓壹錢七厘

歲入出差引不足金貳萬九千五百五拾貳錢貳厘

是ハ豫算變更ヨリ生スル殘金ヲ充用

一、歲出臨時部の土木費中、道路橋梁費金貳萬六千七百七拾八圓四拾八錢九厘は、主として高岡市大火後の道路擴張の費用である。

不動産處分

(3) 縣有不動産の處分(二件)

(一)工藝學校の新築移轉と共に、舊校舍建物及び敷地を賣却すべく決議を経たるも、今度高岡市の大火に警察廳舎類焼せしを以て、右賣却を見合せ、一時該警察署廳舎に充用すること。

(二)警察部假廳舎借上の際充用の附屬建物、即ち物置納屋五坪二合五勺、湯沸所二坪、便所二坪五合を賣却すること。

議及

(4) 議 及

今回ノ議案中臨時部土木費ノ内高岡市ノ國縣里道ノ改修費ハ適當ト認ムル處ニ據リテ削減ヲ加ヘ議決セリ若シ地主ニ於テ異議ヲ申立テ該地代ヲ不當トスルカ如キ場合

アリ議決ノ金額以內ニ於テ計畫ノ成功ヲ期シ難キ時ハ止テ得ス該線路中道幅六間トスル計畫ハ之ヲ五間ニ改メ其他ノ線路ト共ニ議決ノ金額以內ニ於テ成功ヲ期シ決シテ豫備費ノ支出ヲ求ムルカ如キコト勿カラシムル事ヲ議及ス

特 殊 事 項

高岡市道路擴張

(1) 高岡市の道路擴張

追加豫算土木費第一讀會に於て、其の道路橋梁費の大部を占むる高岡市大火後の道路擴張費は、餘り類例なき事業であつたので、安念十八番等は知事の説明を要求した。知事出席して、高岡市の道路は狹隘にして富山市と大に徑庭あること、高岡市國道の不完全は彼の火災の際消防器具の運搬等に不都合を來したること、前例は先年富山市の火災に柳町國道を、又氷見水橋等の火災にも道路を取擴めしこと、高岡市の道路擴張は今日を措いて他日に求むべからざること等を述べしに、若林二十八番は、知事の演說中、富山市の道路に關して間違の點あるを注意し、且富山市より申請に係る道路擴張費八千餘圓の補助を本會に提案ありたしと望み、菅野二十三番は、縣經濟窮乏の際、今後も斯かる場合に、縣は之を支出する方針なりやと問ひ、知事は二十八番に對し正誤を爲し、二十三番に對して今後

高岡の如き場合ありて必要とせば支出することあるべきも、必ず之を爲すとは限らずと答へた。次に十八番島二十九番二十八番等より重ねて質問し、知事及び谷井參與員より之に答ふる所あり、第一讀會は了つたが、自進兩派の意見相容れず三日間流會となり、兩派より三名宛の交渉委員を出して遂に双方の意見を折衷したる一個の案を作りて第二讀會を開き、十八番より之を修正説として議及を添へて提出した。赤間四番は道幅に就いて質問し、菅池十七番は原案賛成の意を表したが、この二名を除く大多數にて十八番説に確定した。

工藝學校松樹移植

(2) 工藝學校の松樹移植

工藝學校舊校舍及び敷地賣却延期の議事中、安念十八番は同校舊敷地より松樹を移植したるを咎め、掛飛參與員は新校の風致を添へんがため爲したる。までなりと辯じたが、十八番は肯かず、上席參與員より答辯を聞かんと迫る。鈴木參與員答へて、參與員の答辯は齊しく皆責任あり、且自分よりも、先程來説明せる參與員は事情を知悉してゐるから、復聞きの答辯よりも優ることと思ふと述べ、高田參與員亦移植の松樹中預け品もありたる事情なるが、その校長の取扱は不都合ゆゑ、審議の上、善後の處置を爲さん。また當局に於ても將來は注意せん。と云つたが、十八番は尙無責任なりと難じ、岩間三番は當局の陳謝も

あればさまで追究するに及ばざらんと云ひ、島二十九番は鋸を以て松樹を伐つたのを實見した。答辯は胡魔化しなりと責めた。この時議長は他に異議なしと認めるからとて、この事件を漸く自然消滅に歸せしめた。

五七、明治三十三年十一月通常縣會

本會は明治三十三年十一月十九日開會、同十二月十八日閉會した。議長は會期の終る前日、關野善次郎退いて、菅野新作之に代り、議員席次は前會に同じく、知事は楡垣直右で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百九萬參千五百五拾貳圓餘であつた。

議事件

議事件名は明治三十四年度歳入歳出豫算 同上營業稅雜種稅課目課額 同上特別會計歳入歳出豫算九件 明治三十三年度歳入歳出追加豫算 同上歳出追加豫算(否決) 同上罹災救助基金歳入歳出追加豫算 同上歳出豫算變更(否決) 自明治三十四年度教育費中第三中學校校舍建築費繼續年期及支出方法 自明治三十五年度勸業費中第八回(香川縣主催)關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法 自明治三十四年度勸業費中模範

開閉

議事件名

森林費繼續年期及支出方法(否決) 自明治三十二年勸業費中關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法變更(否決) 明治三十四年度歲出追加豫算 明治三十二年歲入歲出決算報告 寄附土地受領(否決) 縣有財產賣却 第一中學校舊敷地賣却議決取消(否決) 東亞同文書院留學生派遣 縣有財產管理規則 法人建物稅賦課規則 流材稅賦課規則 狩獵稅賦課規則 縣稅賦課規則中改正 慈惠救濟基金管理方法中改正 水災基金管理方法中改正 衛生基金管理方法中改正 縣參事會委任事項 縣會議員名譽職參事會費用辨償規則中改正 縣立學校基本財產蓄積の件諮問 議及六件 建議九件 議長及び名譽職參事會員補充員の選舉であつた。

議決摘要

(1) 明治三十四年度歲入歲出豫算

歲入	經常部	地租	郡收入
		金六拾六萬九千七拾壹圓拾貳錢參厘	金四萬九千九百九拾六圓貳拾五錢

三十四年度豫算

郡市收入

金六拾壹萬九千七拾四圓八拾七錢參厘

但本年地租豫算高金七拾八萬七千六百貳拾七圓六錢五厘(內金六千四百參拾五圓六拾六錢富山市高岡市) 地租壹圓二付市八金七拾八錢六厘町村八金八拾五錢

營業稅	金貳萬壹千百拾參圓八拾六錢
雜稅	金七萬五千貳百九拾四圓六拾貳錢五厘
營業附加稅	金壹萬五千四百八拾參圓六拾八錢參厘
戶數割	金貳拾參萬參千參百四拾九圓九拾七錢八厘
郡收入	金壹萬五千七百七拾八圓貳錢四厘
郡市收入	金貳拾壹萬八千七百七拾壹圓九拾五錢四厘
內	但本年總戶數十三萬八千六百九十八戶(內一萬九千八百八十六戶富山市高岡市) 戶數一付市八金壹圓五拾七錢參厘町村八金壹圓七拾錢
財產收入	金百九拾八圓五拾壹錢五厘
國庫下渡金	金貳萬千六百七拾九圓貳拾貳錢七厘
雜收入	金四萬千八百八拾九圓五拾五錢九厘

內 郡 收 入

金六百貳拾圓五拾參錢九厘

內 郡 市 收 入

金四萬五百六拾九圓貳錢

經常部合計金百七萬七千參百八拾圓五拾七錢

內 郡 收 入

金六萬五千七百九拾四圓八拾壹錢參厘

內 郡 市 收 入

金百壹萬千五百八拾五圓七拾五錢七厘

臨時部

緞 越 金

金五千圓

內 郡 收 入

金參百圓

內 郡 市 收 入

金四千七百圓

國 庫 補 助 金

金壹萬四百五拾壹圓八拾參錢貳厘

財 產 賣 拂 代

金七百貳拾圓

臨時部合計金壹萬六千七百七拾壹圓八拾參錢貳厘

內 郡 收 入

金參百圓

內 郡 市 收 入

金壹萬五千八百七拾壹圓八拾參錢貳厘

歲入總計金百九萬參千五百五拾貳圓四拾錢貳厘

內 郡 收 入

金六萬六千九拾四圓八拾壹錢參厘

內 郡 市 收 入

金百貳萬七千四百五拾七圓五拾八錢九厘

歲 出

經 常 部

警 察 費 金拾貳萬參千八百四拾圓貳拾七錢貳厘

警 察 廳 舍 修 繕 費 金八百八圓六拾九錢

土 木 費 金拾參萬四千貳百五拾七圓參錢九厘

縣 會 議 諸 費 金九千四百圓八錢四厘

衛 生 及 病 院 費 金五千四百九拾圓貳拾五錢七厘

教 育 費 金拾壹萬五千六百七拾七圓四拾四錢九厘

郡 廳 舍 修 繕 費 金四百參拾貳圓貳拾五錢

郡 吏 員 給 料 旅 費 及 廳 中 諸 費 金五萬五千參百五拾參圓六拾五錢八厘

救 育 費 金五百參拾五圓六拾五錢六厘

諸 達 書 及 揭 示 諸 費 金千九百七拾五圓八拾六錢七厘

勸 業 費 金壹萬九千八百九拾七圓五拾貳錢

縣稅取拔費	金壹萬六千六百九拾六圓九錢四厘
縣廳舍修繕費	金五百六圓七拾五錢
衆議院議員選舉費	金百八拾八圓七拾錢
縣吏員費	金貳萬五千五百參拾五圓拾壹錢
縣會議員選舉費	金六拾五圓五拾四錢四厘
行政執行費	金五百圓
財產費	金百五拾圓
豫備費	金壹萬九百拾五圓五拾四錢四厘
內 郡負擔	金千六百六圓九拾貳錢參厘
內 郡市負擔	金九千參百八圓六拾貳錢壹厘
經常部合計	金五拾貳萬貳千貳百貳拾六圓四拾八錢四厘
內 郡負擔	金五萬七千參百九拾貳圓八拾參錢壹厘
內 郡市負擔	金四拾六萬四千八百參拾參圓六拾五錢參厘
臨時部	
警察廳舍建築費	金五千七百九拾貳圓六拾貳錢五厘

土木費	金貳萬千六百四拾四圓六拾錢壹厘
郡市町村土木補助費	金四萬八千貳百壹圓八拾五錢九厘
市町村傳染病豫防補助費	金八千七拾參圓參拾壹錢
教育費	金貳萬四千五拾九圓七拾四錢四厘
教育補助費	金七千貳百五拾貳圓八拾四錢
勸業補助費	金五千五百參拾六圓九拾五錢
勸業補助費	金壹萬九千貳百圓
縣廳舍建築費	金四千六拾圓八拾錢
郡廳舍建築費	金八千七百壹圓九拾八錢貳厘
縣債費	金貳拾參萬九千五百四拾貳圓貳拾八錢九厘
慈惠救濟資金補充費	金五千圓
揭示場建築費	金四拾八圓參拾六錢貳厘
衛生補助費	金四百貳拾壹圓四拾五錢
教育費本年度支出額	金貳萬九千六百參拾壹圓四拾錢
勸業費本年度支出額	金千六百參拾圓四拾貳錢八厘

慈惠事業補助費

金參百圓

河川(庄川)改良工事費負擔

金拾四萬貳千圓

小學校教員恩給金補充費

金貳百貳拾七圓七錢八厘

臨時部合計金五拾七萬千參百貳拾五圓九拾壹錢八厘

內 郡 負 擔 金八千七百壹圓九拾八錢貳厘

內 郡市負擔 金五拾六萬貳千六百貳拾參圓九拾參錢六厘

歲出總計金百九萬參千五百五拾貳圓四拾錢貳厘

內 郡 負 擔 金六萬六千九拾四圓八拾壹錢參厘

內 郡市負擔 金百貳萬七千四百五拾七圓五拾八錢九厘

特別會計豫算

(2) 明治三十四年度特別會計歲入歲出豫算(九件)

歲 入 歲 出

罹災救助基金 金五萬千七百五圓八錢 歲入ニ同シ

慈惠救濟資金 金六千五百六拾四圓七拾五錢六厘 同

水災基金 金百四拾參圓七拾八錢七厘 同

衛生基金 金六拾五圓貳拾六錢八厘 同

追加豫算

小學校教員恩給金 金千七百七拾貳圓六拾貳錢八厘

同

市町村立小學校教員加俸資金 金貳萬六千貳百四拾五圓八拾錢四厘

金壹萬九千四百拾六圓(差引殘高金七千九拾九圓八拾錢四厘)

小學校教員恩給基金 金千貳百七拾九圓拾參錢貳厘

工藝學校基本財產 收入 金千七百五拾五圓參拾九錢

農學校基本財產 收入 金千五百參拾四圓參錢八厘

(3) 明治三十三年度歲入歲出追加豫算

歲 入 經 常 部

地 租 割 金參萬參千八百六拾七圓九拾六錢四厘

但本年地租豫算高金七拾八萬七千六百貳拾七圓六錢五厘地租壹圓ニ付金四錢參厘

戶 數 割 金壹萬貳千貳百五圓四拾貳錢四厘

但本年總戶數十三萬八千六百九十八戶ニ付金八錢八厘

財 產 收 入 金四拾貳圓

經常部合計金四萬六千百拾五圓參拾八錢八厘

歲 入 臨 時 部

繰 越 金 金參百五拾八圓八拾五錢

寄附金 金千五百圓
財產賣拂代 金參百圓

臨時部合計金貳千五百拾八圓八拾五錢

內 郡 收 入 金參百五拾八圓八拾五錢

歲入總計金四萬八千貳百七拾四圓貳拾參錢八厘

內 郡 收 入 金參百五拾八圓八拾五錢

歲出 經常部

郡吏員給料旅費及廳中諸費 金參百五拾八圓八拾五錢

縣 稅 取 扱 費 金四百八拾八圓貳拾壹錢七厘

縣 吏 員 費 金貳百貳拾五圓

經常部合計金千七拾貳圓六錢七厘

內 郡 負 擔 金參百五拾八圓八拾五錢

郡 市 負 擔 金七百拾參圓貳拾壹錢七厘

歲出 臨時部

土 木 費 金貳萬七千參百九拾九圓貳拾錢六厘

追加豫算

郡市町村土木補助費 金壹萬九千七百七拾七圓七拾五錢壹厘

臨時部合計金四萬七千七百七拾六圓九拾五錢七厘

歲出總計金四萬八千貳百四拾九圓貳錢四厘

內 郡 負 擔 金參百五拾八圓八拾五錢

郡 市 負 擔 金四萬七千八百九拾圓拾七錢四厘

(4) 明治三十三年度歲出追加豫算(否決)

歲出臨時部勸業費に於て物產陳列場費金千六百五拾五圓六拾錢を見積り、共進會に於ける農産館を利用して、元第一中學校敷地に物產陳列場を再築せんとするものであつたが、其の計畫は姑息であるとして本件は否決した。

(5) 明治三十三年度罹災救助基金歲入歲出追加豫算

罹災救助基金收入 金壹萬參千八百八拾四圓六拾錢 歲入ニ同ジ
出

豫算變更

(6) 明治三十三年度歲出豫算變更(否決)

歲出臨時部勸業費本年度支出額(關西府縣聯合共進會費)前議決額金貳萬四千七拾五圓八拾貳錢七厘を金貳萬貳千四百貳拾圓貳拾貳錢七厘に變更せんとするものであつた

教育費繼續方法

が否決した。

(7) 自明治三十四年度教育費中第三中學校校舍建築費繼續年期及支出方法	至明治三十七年度	一金七萬七千八拾壹圓九拾錢	總	豫	算	高
-------------------------------------	----------	---------------	---	---	---	---

内 譯

金貳萬九千六百參拾壹圓四拾錢	明治三十四年度支出額
----------------	------------

金貳萬千七百七拾九圓五拾錢	明治三十五年度支出額
---------------	------------

金壹萬六千八百八拾貳圓五拾錢	明治三十六年度支出額
----------------	------------

金九千參百八拾八圓五拾錢	明治三十七年度支出額
--------------	------------

勸業費繼續方法

(8) 自明治三十四年度勸業費中第八回(香川縣主催)關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法

一金參千九百九拾圓八錢七厘	總	豫	算	高
---------------	---	---	---	---

内 譯

金千六百參拾圓四拾貳錢八厘	明治三十四年度支出額
---------------	------------

金千五百五拾九圓六拾五錢九厘	明治三十五年度支出額
----------------	------------

勸業費繼續方法

(9) 自明治三十四年度勸業費中模範森林費繼續年期及支出方法(否決)

至明治三十八年度

勸業費繼續方法變更

本費は總額金壹萬千九百五拾六圓とし、五ヶ年度支出の發案であつたが、五名の調査委員に附託した結果、總額金參千九拾貳圓を明治三十四年度通常豫算に組込み、試験的に之を設置するに決し、本案は否決することとした。而して本案に關聯する通常豫算の三十四年度支出額は知事より之を削除した。

(10) 自明治三十二年勸業費中關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法變更

(否決)

勸業費中關西府縣聯合共進會費前議決額金四萬九千拾四圓九拾參錢を金四萬七千參百五拾九圓參拾參錢に變更せんとするものであつたが、明治三十三年度歳出追加豫算否決の爲否決。

(11) 明治三十四年度歳出追加豫算

一、臨時部教育費に於て、清國留學生二名に對する學資金を、金五百九拾貳圓八拾四錢に決し、通常豫算に編入することとした。

一、同勸業費中模範森林費に於て、金參千九拾貳圓にて林地五十町歩を買上げ、適當の施設を爲すに決し、同じく通常豫算に編入することとした。

寄附土地受領

(12) 寄附土地受領(否決)

- 一、東礪波郡出町大字杉木新村二百六十三番ノ一段別一段二畝四步
 - 一、同郡同町大字太郎丸村字築川島三千三百三十八番ノ一段別二十九步
- 合計一段三畝三步

前記の土地は、明治二十九年元杉木新病院建物敷地等を東礪波郡出町へ拂下の際に附したる條件解除の條件を附し、出町警察署敷地として寄附の義出町より出願に付願出の通り條件を解除し受領すること。

右出町警察署は従來の敷地に建築することに決議したるを以て否決とした。

縣有財産賣却

(13) 縣有財産賣却

射水郡野村大字蓮花寺村所在

- 一、本縣第一區土木出張所舊廳舎 一棟
- 建坪二十七坪五合

此賣却代金參百圓

但附屬建具共

右建物は前記代金を以て第三土木監督所へ賣却すること。

土地賣却取消

(14) 第一中學校舊敷地賣却議決取消(否決)

留學生派遣

曩に賣却の決議を経たる同敷地を物産陳列場の敷地と爲さんが爲、賣却の議決を取消さんとするものであつたが、これは其の必要を認むるも、更に縣會議事堂舊敷地の賣却議決取消をも求めんが爲、共に建議することとして否決した。

(15) 東亞同文書院留學生派遣

明治三十四年度より、在清國南京東亞同文書院へ、縣費を以て、留學生二名を派遣するに決した。

財産管理規則

(16) 縣有財産管理規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ於テ縣有財産ト稱スルハ縣所有ニ屬スル不動産動産ヲ云フ

第二條 縣有財産ノ管理方法ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外總テ此規則ニ依ルモノトス

第三條 縣有財産ハ臺帳ヲ備ヘ其所在數量用途ヲ登載スルモノトス

第四條 縣有財産ノ用途ノ轉換ヲ要スルトキハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘキモノトス

第五條 縣有財産ハ縣參事會ノ議決ヲ經ルニアラサレハ當初所定ノ目的外ニ使用若クハ貸付スルコトヲ得ス

第六條 縣有財産ハ其貸付中借受人ニ於テ他人ニ轉貸スルヲ得サルモノトス

第七條 不動産ノ賣却代金ハ登記前動産ノ賣却代金ハ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムルモノトス

第八條 財産ノ貸付ニハ其財産ノ時價ニ相當スル擔保ヲ徵スルモノトス但公共團體ニ貸付スルモノ及貸付財産ノ時價百圓以内ノモノハ擔保ヲ徵セサルコトヲ得

前項ノ擔保ハ有利國債證券地方債券日本銀行株券勸業銀行株券同銀行債券農工銀行株券同銀行債券若クハ資本金拾萬圓以上ノ株式組織又ハ合資組織ノ確實ナル銀行預金證書若クハ金員ニ限ル

必要ノ場合ニ於テハ知事ハ前項ノ範圍ニ於テ擔保ノ種類ヲ指定スルコトヲ得

第九條 縣有財産貸付ノ契約書ニハ本規則ヲ遵守スヘキ旨ヲ記入スヘシ

第二章 不動産

第十條 不動産ノ賣却貸付ハ競争入札ニ付スヘシ但左ノ場合ニ限り縣參事會ノ議決ヲ經テ隨意契約ヲナスコトヲ得

一、 急施ヲ要スルトキ

二、 價格金五拾圓以内ノモノヲ賣却スルトキ

三、 貸付料年額貳圓以内ノモノヲ貸付スルトキ又ハ貸付期限二ヶ月以内ノモノ

四、 公共ノ用ニ供スルトキ

五、 競争ニ付スルモ入札ナキトキ又ハ再競争ニ付スルモ尙ホ豫定價格ニ達セサルトキ

六、 其他知事ニ於テ競争ヲ不利益ト認ムルトキ

第十一條 不動産ノ貸付ハ期限ヲ定メ相當ノ貸付料ヲ徵收スヘシ貸付料ノ額ハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第十條第四號ノ貸付ニ付テハ縣參事會ノ議決ニ依リ貸付料ヲ徵收セサルコトヲ得

第十二條 不動産ノ貸付期限ハ五ヶ年以内トス

第十三條 不動産ノ貸付料ハ毎年四月前納セシムルモノトス

前項ノ期限後新ニ貸付スルモノニアリテハ其貸付時期ヨリ次回ノ納期マテノ額ヲ又貸付期限一年未滿ノモノニアリテハ貸付料金額ヲ貸付ノ當時前納セシムルモノトス

第十四條 貸付不動産ノ修理其他費用負擔ノ方法ニ付特約ヲ爲ストキハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘキモノトス

第十五條 不動産ノ貸付期限中公共ノ用ニ供スル必要アルトキ又ハ借受人契約ヲ履行セス若クハ借受人カ契約ヲ履行シ得スト認ムルトキハ知事ニ於テ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムルモノトス

第十六條 借受人契約ヲ履行セサル爲メ貸付ノ契約ヲ解キタル場合ニ於テハ既納ノ貸付料ヲ還付セサルモノトス

第十七條 前二條ノ場合ニ於テ借受人損害ヲ受クルコトアルモ之ヲ補償セサルモノトス

第十八條 不動産借受人知事ノ許可ヲ得スシテ其原形ヲ變シ若クハ荒廢ニ歸シ若クハ毀損亡失シタルトキハ其契約ヲ解キ尙ホ其損害ヲ賠償セシムルモノトス但不可抗力ノ原因ニ依ルモノハ此限ニアラス

賠償額ハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第十九條 不動産借受人知事ノ許可ヲ得テ原形ヲ變シタルトキハ自費ヲ以テ原形ニ復シ返還スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

前項ノ許可ハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘキモノトス

第二十條 不動産借受人ハ特ニ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ當初借受ノ契約目

的外ニ使用スルコトヲ得ス

前項ノ許可ハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘキモノトス

第三章 動 産

第二十一條 動産管理ニ關スル方法ハ此規則ニ定ムルモノノ外知事之ヲ定ム

附 則

第二十二條 此規則ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

參事會委任事項

(17) 縣參事會委任事項

府縣制第四十二條ニ依リ縣會ノ權限ニ屬スル左ノ事項ヲ縣參事會ニ委任ス

但縣會開會中ハ此限リニアラス

一、法律命令ノ結果ニ依リ豫算ヲ更正スル事

二、縣會閉會後發見スル歳入歳出豫算ノ違算ヲ更正スル事

三、寄附金ニ關スル歳入歳出豫算追加更正ノ事

四、請願巡查費ニ屬スル歳入歳出豫算追加更正ノ事

五、事業繰越ニ係ル歳入歳出豫算追加更正ノ事

六、臨時ニ生シタル歳入豫算追加更正ノ事

第三篇 縣會史 上

(21) 建議(九件)

内務大臣へ宛つるもの災害土木費國庫補助に關する件、内務遞信兩大臣へ宛つるもの富山直江津間鐵道急設に關する件、知事へ宛つるもの七件、即ち(一)入縣稅(酒類其の他奢侈品)賦課發案の件、(二)西礪波郡役所廳舎買上發案の件、(三)舊工藝學校舎を高岡物産陳列場に充用する件、(四)縣有財産賣却決議取消の件、(五)縣稅支辨若くは補助を與ふる道路堤防等調査の件、(六)縣稅補助に係る堤防道路橋梁に對し郡市町村費を以て土木看守を置かしむる件、(七)水源調査を爲し其の荒廢の大原因を杜塞する件であつた。而して圈點を附せし建議は左に全文を掲ぐることにする。

災害土木費國庫補助ニ關スル建議

謹テ内務大臣文學博士男爵末松謙澄閣下ニ建議ス抑モ我富山縣カ年々出水ノ災害ヲ被リ爲メニ民力ノ困衰ヲ招キタル實狀ハ本會ノ屢々具申スル所ニシテ閣下モ亦夙ニ明察セラル、コト、信ス故ヲ以テ連年水災ノ爲メニ支出スル土木費ハ之ヲ縣費ノ支辨ニ待ツ能ハスシテ國庫補助ヲ仰クノ止ムヲ得サルニ至レリ試ニ最近年度ノ地方負擔ト國庫補助トヲ掲クレハ

年度別	災害費總額	國庫補助	地方負擔
明治二十九年	一、六六六、六九二、一九〇	一、二六一、〇〇〇、〇〇〇	五〇五、六九二、一九〇
明治三十年	九三六、七五八、五二三	七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二三六、七五八、五二三
明治三十二年	一、二七六、二七〇、四二五	三九五、〇〇〇、〇〇〇	八八一、二七〇、四二五

ニシテ之ヲ災害費百圓ニ對スル負擔額ニ對照スレハ左ノ如キ歩合ヲ示セリ

年度別	國庫補助	地方負擔	歩合
明治二十九年	六九六六一	三〇、三三九	地方庫 七分
明治三十年	七四七二六	二五、二七四	地方庫 七分強 地方庫 三分弱
明治三十二年	三〇、九五〇	六九〇五〇	地方庫 三分 地方庫 七分

斯クノ如ク二十九年ニ於テ國庫補助七分ナリシモノカ三十二年ニ至リ地方負擔七分トナリ恰モ主客ノ地位轉倒シタルカ如キ觀アル所以ノモノハ何ソヤ是レ明治三十二年四月勅令第六十九號ヲ以テ災害土木費國庫補助規定ヲ改正セラレタル結果

ナリトス若シ夫レ巨額ノ費用ノ爲メニ隨テ莫大ノ縣債ヲ増シツ、推移セハ我富山縣ハ數年ヲ出テスシテ滅亡センノミ想フテ此ニ至レハ寒心ノ至リニ堪エサルナリ嗚呼八十萬ノ縣民中殊ニ呱呱ノ聲ヲ揚クル赤兒モ將ニ垂死ノ翁媪モ一人數圓ノ負擔ヲ被リツ、アリ夫レ然リ財政ノ窮迫ヲ救フハ實ニ刻下ノ急務ナリト信ス閣下冀クハ縣民ノ窮狀ヲ察シ適當ノ措置ヲ施シ以テ我ヲ滅亡界ヨリ出サシメラレシコトヲ此ニ全會一致ノ希望ヲ代表シ謹テ建議ス新作頓首再拜

明治三十三年十二月 日

富山縣會議長 菅野 新作

內務大臣文學博士男爵 末松謙澄殿

縣有財產賣却決議取消ノ儀ニ付建議

將來縣立學校ノ配置及物產陳列場ノ位置ヲ相スルノ必要アルヲ以テ客年十一月臨時縣會ノ決議ニ係ル舊第一中學校敷地並ニ縣會議事堂敷地ノ賣却決議ヲ取消スノ必要ナルヲ認ム又山王町ノ縣廳舍舊敷地ト舊城内現日枝神社地ト交換スル事トナシ先ニ決議セシ縣廳舊敷地ノ賣却ヲ取消スヘキ必要アルヲ認ム
右本會ノ決議ニ依リ建議候也

明治三十三年十二月二十五日

富山縣會議長 菅野 新作

役員選舉

富山縣知事 檜垣直右殿

(22) 議長及び名譽職參事會員補充員の選舉

十二月十七日黒田副議長は關野議長辭職に付、其の後任を選舉する旨を告げ、投票は指名點呼によりて行はれたが其の結果は左の通りであつた。

〔議長〕 菅野 新作 十九票(當選) 武部 其文 八票

岡本 八平 一票

次に當選議長は名譽職參事會員補充員一名の選舉を同じく投票を以て行つた。

特殊事項

(1) 出席議員入り替りの開會

十一月二十八日開議の始に於て、沼田十六番は、去る二十六日の會議に本員等十名出席し、午前十一時の點檢時間に至るも定數に充たざりしにより、議事規則に依りて退散した。然るに其の後出席したる黒田副議長等五名の議員が會議を開き、流會を告げて退散したことを速記録に明記し、本員等を缺席としたるは事實顛倒も甚しい。満場の意見を聞きたいと述べ、武内二十一番また本員もその出席者の一人であつた。議事規則第九條には

議員入り替り兩度開會

「開議時刻至リ出席議員定數ニ滿タサルトキハ一時間ヲ過キ之ヲ點檢シ尙定數ニ滿タサルトキハ更ニ一時間ヲ經之ヲ點檢スヘシ此場合ニ於テ尙定數ニ充タサルトキハ議長ハ當日開會セサルコトヲ宣告シ退散ヲ命スヘシ但シ本條ノ場合ニ際シ正副議長共尙出席セサルトキハ出席議員自ラ退散シ當日ノ議事ヲ開カサルモノトス」とあり、本員等は午前十一時五分この明文に據つて退散したるに、其の後に來りし副議長等は規則を無視し、會議を開きしは如何と問ひ、黒田八番は開議の時刻たる午前九時乃至午後三時には是非夫れだけのことを爲さねばならぬと信じた譯であると辯じ、赤間四番は之を駁して、議長の見解を問ひしに、議長は當日缺席して事實を知らないが將來注意しては如何と答へ、十六番は速記録を訂正せよと論じ、四番は今後議長に於て規則を勵行ありたしと望み、議長は將來に注意すべく、當日の顛末は追つて取調べ報告すべしと述べて一段落を告げた。

馳越工事遅延の辯明

(2) 神通川馳越工事遅延の事由

土木費議事中本件に關する議員の質問に對し、谷井參與員の答辯に、工費參拾幾萬圓該地は筆數四千百餘筆、反別六十二町步、家屋の移轉は二百四十餘戸、六千二百餘坪、或は一大字全部を失ふ所もあり、富山市街に係る所も數町の町並を打壞さねばならぬ實狀にて、其

の手續言語に絶し、殊に昨年の富山市大火にて、この移轉せしむべき建物に數多の同居人あり、又共進會開催に際し、人氣大に引立ち居る場合に、市の入口たる戸數を一時に動かすことは住民の迷惑一層甚しく、多額の補償を要求する等の事情あり。云々の説明があつた。

勸業諮問會に付問答

(3) 勸業諮問會に關する質問

勸業費一讀會中、石黒十九番は、明治十六年五月太政官布達第十三號並に同年八月農商務省達第八號に依り、置縣以來十八年間勸業諮問會を縣會開會前に必ず開會せしに、本年に限り其の事なかりしは何故かと難詰し、加藤鈴木兩參與員は、本年は聯合共進會等の爲に多忙にして開く能はざりしこと、及び農商務省達は大員より知事に對する訓令にて第三者に及ばざるものであると答辯し、十九番島二十九番と鈴木參與員との間に押問答が續けられた。

高田觀學官の口禍

(4) 高田參與員の失言

十二月四日岩間三番の第一中學校工事不完全なるを攻撃せしに對し、高田參與員は建物の多少粗造になりしは共進會場に用ひる爲、工事を急いだのと、單價の極めて安い爲であつたから、將來學校建築費に對しては、一割引二割引といふが如き削減を加へられぬや

うに希望する。また建物の單價に付いて第三課(學務)が同意したならば、無定見無方針であるといふ非難であつたが、役所の事柄は凡て知事の行爲である。こんな質問が三番の口から出たことは三番の平生にも似合はぬことであると駁し、三番は激怒して人身攻撃をするかと叫んだ。同十四日沼田十六番は之に關し、縣會の決議が不當ならば當局者は再議に付するか、原案を執行するか、の權限あるに拘はらず、當局は決議に同意しながら、建物粗造の罪を縣會に嫁せんとするは解し難い。殊に參與員が三番に對して發せし無禮の言は不都合であるといひ、島二十九番、石黒十九番等之に贊して、知事自ら議場に出て辯明すべしと論ずるに至つた。高田鈴木兩參與員は之に對して釋明したが、翌々十六日關野議長は書記をして當初の會議録を朗讀せしめ、其の答辯の穩かならざる言は將來の注意を求むることゝ宣した。しかし當日、高田參與員は席に在らず、翌十七日出席して前日前議長が缺席判決を與へしは、不當である。人を責むるものは先づ己を正しくせねばならぬ。本員は勿論將來注意すべきも、諸君も亦言語に注意ありたしと述べた。

豫算の趨勢

(5) 豫算の趨勢

本縣の豫算總額は、明治十六年度乃至同二十六年まででは、中間の二十年度より三ヶ年間の貳拾萬圓臺及び二十六年年度の四拾萬圓臺を除けば、總て參拾萬圓臺を往來せしもの

關野議員の被選權

であつたが、明治二十九三十の兩年度には五拾萬圓臺、三十一年度は六拾萬圓臺、三十二年度は八拾萬圓臺に上り、更に今回即ち明治三十三年度は斷然百萬圓を突破するに至つた。

(6) 關野議員の當選無効

關野議員は富山縣報の印刷請負を爲す法人の役員であるから、縣會議員の被選權なきものとして知事より縣參事會の決定に付したが、同會はその被選權あるものとして左の如く決定した。

決定書

決定書

本縣會議員關野善次郎ハ明治三十年六月株式會社富山日報社ノ取締役ニ就職明治三十三年五月二十五日再撰シタルモノナリ而シテ株式會社富山日報社ハ印刷業ヲ營ミ明治二十九年四月以來富山縣廳ノ發行ニ係ル富山縣公報ヲ掲載スル富山縣報ノ印刷請負ヲナスカ故ニ同會社ノ取締役ハ府縣制第六條第九項ノ請負ヲナス法人ノ役員ニ該當スルニ依リ善次郎ヲ被選舉權ナキモノトシ本縣知事ハ府縣制第三十七條第三項ニ依リ本會ノ決定ニ附シタリ

本會ハ審議ノ上説明ヲ與フルト左ノ如シ

府縣制第六條第九項ノ所謂請負トハ重モニ府縣ノ道路橋梁堤防其他建物等土木工事

ノ請負ヲ意味シ府縣ノ令達公布ノ爲メ印刷物ヲ引受クルカ如キモノハ其中ニ包含シ居ラサルハ立法ノ精神ニシテ之ヲ第十四回帝國議會ノ速記録ニ參照セハ沿革自カラ明瞭ナルノミナラス本縣ニ於テモ從來土木工事及材料購入請負規則ノ存スルアリテ特殊ノ取扱ヲナシ其他ノ物品購入ニ就テノ契約ハ其物件數量ヲ明示シ代金ヲ確定セシムルヲ要ス故ニ明治二十四年三月二十四日制定ノ地方會計規則及ヒ現行富山縣會計規則第七章ニ於テモ人夫ノ請負物件ノ賣買貸借ト明記シ格段ナル契約ノ種類ヲ區別セリ今本縣知事ト株式會社富山日報社副社長原政平トノ間ニ締結シタル契約書ヲ閱ミスルニ富山縣報ノ印刷ハ單ニ縣報ニ要スル用紙ノ性質ト其一葉ニ對スル豫定金額ヲ定メ一ケ年間之ヲ印刷スヘシト云フノ合意アルニ外ナラスシテ則チ特定條件ヲ付シタル賣買ノ成立ト看做スヘキモ請負行爲ノ存在ヲ認ムルニ由ナキモノトス况ンヤ株式會社ノ行爲ハ取締役ニ依テ代表セラルヘキモノナレハ該契約書中必ス取締役ノ署名ヲ要ス然ルニ原政平ノ氏名ニハ副社長ノ名義アリテ取締役ノ付記ナキヲ見ルモ該契約ハ直チニ株式會社富山日報社ナル法人ノ役員ヲ拘束スルヲ得サルニ於テヤ故ニ株式會社富山日報社ハ府縣制第六條第九項ノ府縣ノ爲メ請負ヲナス法人ニ該當セサルヤ明カナリ

右ノ理由ナルニ依リ決定スルコト左ノ如シ
本縣會議員關野善次郎ハ被選舉權アルモノトス

富山縣參事會

富山縣知事 檜垣直右

明治三十三年十一月十五日
右の決定を不當として之が取消請求を知事檜垣直右より行政裁判所へ訴へ出で同裁判所は左の通り關野議員の被選舉權を有せざる旨の判決を下した。

判決書

判決書

富山縣知事

原告 檜垣直右

富山縣參事會富山縣知事

被告 檜垣直右

右原告富山縣知事檜垣直右ヨリ被告富山縣參事會議長檜垣直右ニ對スル不當決定取消請求ノ訴々狀ニ就キ審査ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ本件係争ノ富山縣會議員關野善次郎ハ明治三十年六月九日株式會社富山日報社ノ取締役ニ就職明治三十三年九月二十五日再選シタルモノナルコトハ

甲第一號證ノ通ナリ而シテ株式會社富山日報社ハ印刷業ヲ營ミ明治二十九年四月以來富山縣廳發行ニ係ル富山縣公報ヲ掲載セル富山縣報ノ印刷受負ヲ爲シ一个年度毎ニ契約ヲ締結セリ然レハ同會社ノ取締役ハ府縣制第六條第九項ノ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ該當セルカ故ニ善次郎ハ縣會議員ノ被選舉權ヲ有セサル者ナリ依テ明治三十三年十月二十六日善次郎ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ縣參事會ノ決定ニ付シタルニ縣參事會ハ甲第四號證ノ通善次郎ハ被選舉權ヲ有スル者ト決定シタルヲ以テ本訴ヲ提起スルノ止ムヲ得サルニ至レリ而シテ其決定ヲ不當トスル所以ハ第一被告縣參事會ハ府縣制第六條第九項ノ請負トハ重モニ府縣ノ道路橋梁堤防其他建物等土木工事ノ受負ヲ意味シ府縣ノ令達公布ノ爲メ印刷物ヲ引受クルカ如キハ其中ニ包含セスト云フト雖モ請負トハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スルモノナルコトハ民法第六百三十二條ノ規定スル所ニシテ其仕事ノ土木工事は屬スルト土木工事は外ナルトニ於テ徑庭アルコトナキノミナラス府縣ノ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セシメサルハ其ノ地位ヲ利用シテ府縣ノ財務ヲ顧ミス營利ヲ計ルノ虞アルヲ顧慮シテ立法ノ精神ニ徵スルモ縣參事會カ云フ如ク土木工事

ノ請負ニ限ラサルモノナリト信ス第二被告縣參事會ハ本縣知事ト株式會社富山日報社副社長原政平トノ間ニ締結シタル契約書ヲ閱スルニ富山縣報ノ印刷ハ單ニ縣報ニ要スル用紙ノ性質ト其一葉ニ對スル豫定金額トヲ定メ一个年間之ヲ印刷スヘシト云フノ合意アルニ外ナラスシテ則チ特定條件ヲ付シタル賣買ノ成立ト看做スヘキモ請負行爲ノ存在ヲ認ムルニ由ナシト云フト雖モ賣買ハ民法第五百五十五條ニ規定スルカ如ク當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スル契約ニシテ請負契約ノ如ク仕事ノ完成ヲ目的トスルモノニアラス本件富山縣報ノ印刷契約ハ株式會社富山日報社カ富山縣廳ニ對シ富山縣報ヲ印刷スル仕事ノ完成ヲ約シ富山縣廳ハ其ノ仕事ノ結果ニ對シ拂フヘキ縣報一葉ノ金額ヲ定メ併セテ其使用スル用紙ノ性質ヲ約シタルモノニシテ其請負契約ニ屬スルコト明カナルノミナラス該契約書ニ富山縣報印刷請負契約書ト記セルニ依ルモ契約者ノ意思カ受負ニアルヲ知得スルニ餘アリ然ルニ縣參事會ニ於テ強テ賣買契約ト爲シタルハ失當ナリト思惟ス第三被告縣參事會ハ株式會社ノ行爲ハ取締役ニ依テ代表セラルヘキモノナレハ該契約書中必ス取締役ノ署名ヲ要ス然ルニ原政平ノ氏名ニハ副社長ノ名義アリテ取締役ノ附記ナキヲ見ルモ該契約ハ直ニ株式會社富山日報社ナル法人

ノ役員ヲ拘束スルヲ得スト云フト雖モ明治三十二年三月及同三十三年三月即甲第二號證甲第三號證印刷請負契約締結當時ニ於ケル富山日報社ノ取締役ハ六名ニシテ原政平ハ取締役ヲ以テ副社長タリシモノナリ富山日報社ノ代表者ハ社長ニシテ社長故障アル時副社長之ニ代リ會社ヲ代表スヘキハ當然ナルカ故ニ副社長原政平ノ名ヲ以テ締結シタル契約ハ即正當ニ株式會社富山日報社ヲ代表スル資格ヲ有スルモノ、爲シタル契約ナルコトハ毫モ疑義ノ存スル餘地ナキノミナラス甲第五號證甲第六號證ノ通富山日報社カ縣報ヲ印刷シ請負契約ヲ履行シタル事實アル以上ハ契約書ニ署名者ノ如何ハ之ヲ論スルノ價值ナキモノト思惟ス以上三項ノ外尙被告縣參事會ハ本縣土木工事及材料購入規則地方會計規則富山縣會計規則ヲ援用シテ決定書ニ叙スル所アルモ要領ヲ得サルニ依リ之ニ對シ理由ヲ叙述セス右ノ次第ナレハ被告縣參事會ノ決定ハ不當ナリニ付之ヲ取消サレタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ單ニ縣報一葉ニ對スル豫定金額ト紙質トヲ定メタル契約ヲ目シテ請負契約ナリト主張スルモ之レ只一個ノ物件ニ對スル特定ノ賣買契約ニシテ即一種ノ物件調達ニ過キス而シテ府縣制第六條第九項ハ府縣ノ議事機關ニ參與シ事實自己ノ私利ヲ營ムノ虞アルヨリ之ヲ防遏セントスルノ精神ニシテ本件契約ハ縣報

一葉ノ代價ト其紙質トヲ定メタルノミナルヲ以テ事實毫モ私利ヲ營ムノ餘地ヲ存セサルモノナリ故ニ契約書ニ請負ノ二字ヲ冠シアル所以ヲ以テ直ニ之ヲ請負契約ナリトシ其法人ノ役員ニ被選舉權ナシト速斷スルカ如キハ全然法律ノ精神ヲ滅却スル不當ノ解釋ナリト云ハサルヘカラス況ンヤ原告ハ行政上受負ナルモノ、種類ニ付格段ノ規定ヲ設ケ物品賣買貸借ト之ヲ區別スルニ於テオヤ又原告ハ契約當事者ノ名義ニ付陳述スル所アリト雖モ已ニ株式會社ヲ代表スヘキモノハ取締役ニ限ルコトハ商法ノ規定スル所ニシテ設令副社長ノ名義ヲ冠スルモ取締役タル資格ヲ明記セザル契約ナルニヨリ株式會社富山日報社ノ役員ヲ拘束スルノ謂レナシ故ニ被告カ關野善次郎ハ縣會議員ノ被選舉權ヲ有ストノ決定ヲ與ヘタルハ適法ナルニ付原告ノ訴求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
第一被告ハ本件契約ハ或ル物件ニ對スル特定ノ賣買契約ニシテ即一種ノ物件調達ヲ約スルモノニ過キスト云フト雖原告提出ノ甲第三號證ヲ閱スルニ該契約ハ一方富山日報社ニ於テ相手方富山縣廳ニ對シ富山縣報ヲ印刷スルコトヲ請負ヒ富山縣廳ハ右發行ノ都度其報酬トシテ千四百十九部若クハ千十七部ヲ買上クルコトヲ約定シタル

モノナレハ請負契約ナリト謂ハサルヲ得ス第二被告ハ府縣制第六條第九項ハ府縣ノ議事機關ニ參與シ私利ヲ營ムノ虞アルヨリ之ヲ防遏セントスルノ精神ニ出テタルモノニシテ本件ノ如キ事實毫モ私利ヲ營ムノ餘地ナキモノヲ包含スルニアラス故ニ請負ノ文字アレハトテ直ニ之ヲ以テ請負契約ナリト爲スハ法律ヲ誤解スルモノナリト云フト雖同條第九項ニハ單ニ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス云々トノミアリテ別ニ其請負ノ意義ヲ狭メタル法意ノ見ルヘキモノアラサレハ被告主張ノ如ク之ヲ狹義ニ解釋スルヲ得ス第三被告ハ株式會社ヲ代表スヘキモノハ取締役ニ限ルコトハ商法ノ規定スル所ナリ然ルニ該契約ハ副社長ノ名義ヲ冠スルモ取締役タル資格ヲ表示セサルモノナレハ株式會社富山日報社ノ役員ヲ拘束スル謂ハレナシト云フト雖副社長ハ即商法ニ謂フ取締役ニ外ナラサレハ別ニ取締役ノ名義ヲ記セサルモ適法ニ會社ヲ代表シ取結セタルモノト認メサルヘカラス隨テ富山日報社ノ役員タル關野善次郎ハ府縣制第六條第九項府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員トアルニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス依テ判決スルコト左ノ如シ

本件係爭ノ富山縣會議員關野善次郎ハ縣會議員ノ被選舉權ヲ有セサルモノトス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

開閉

議事件名

甲第一號證乃至甲第六號證省略
(明治三十四年四月十二日行政裁判所宣告)

五八 明治三十四年十一月通常縣會

本會は明治三十四年十一月二十一日開會同十二月二十日閉會した。議長は十二月十六日に至り菅野新作退いて翌十七日岡本八平之に代り議員席次は前回に同じく知事は檜垣直右で決議せし翌年度通常豫算總額は金百拾五萬九千七百六拾六圓餘であつた。

議 件

議事件名は明治三十五年度歳入歳出豫算 同上營業稅雜種稅課目課額 同上特別會計歳入歳出豫算十四件 明治三十四年度歳入歳出追加豫算三件 同上歳出豫算追加
自明治三十五年度勸業費中第五回内國勸業博覽會費繼續年期及支出方法 自明治三十四年
至明治三十六年度勸業費中第五回内國勸業博覽會費繼續年期及支出方法 至明治三十七年
度教育費中魚津中學校建築費繼續年期及支出方法變更 縣有土地賣却 東亞同文書院
留學生増員 有給縣吏員治療料等給與規則 有給縣吏員退職給與金遺族扶助料
規則 土木縣債規則中改正二件 縣稅賦課規則中改正 營造物管理規則 營造物使用

料徴收細則 明治三十三年度歳入歳出決算報告(一部不承認) 議及七件 建議十二件
議長副議長及び名譽職參事會員補充員の選舉であつた。

議決摘要

三十五年度
豫算

(1) 明治三十五年度歳入歳出豫算

地租	金六拾九萬參千七百五拾五圓八拾貳錢九厘
郡收	金四萬六千九百四拾八圓七拾壹錢七厘
市收	金六拾四萬六千八百七圓拾壹錢貳厘
營業稅	金貳萬參千五百五拾八圓拾壹錢七厘
雜稅	金八萬參百五拾九圓五拾六錢
地租	金六拾九萬參千七百五拾五圓八拾貳錢九厘
郡收	金四萬六千九百四拾八圓七拾壹錢七厘
市收	金六拾四萬六千八百七圓拾壹錢貳厘
營業稅	金貳萬參千五百五拾八圓拾壹錢七厘
雜稅	金八萬參百五拾九圓五拾六錢

但本年地租豫算高金七拾八萬八千七百八拾九圓拾六錢壹厘(内金六千參百拾圓五拾五錢貳厘富山市高岡市) 地租壹圓ニ付市ハ金八拾貳錢町村ハ金八拾八錢

營業稅附加稅 金壹萬九千六百八拾八圓九拾九錢四厘

但本稅金八萬參千參百四拾參圓四拾五錢貳厘ノ十分ノ二三

戶數	金貳拾四萬貳千貳百貳拾六圓拾六錢參厘
郡收	金壹萬四千四拾四圓六拾八錢
市收	金貳拾貳萬八千八百八拾壹圓四拾八錢參厘

但本年總戶數十三萬八千八百八十一戶(内一萬八千八百四十一戶富山市高岡市) 戶數一戶ニ付市ハ金壹圓六拾四錢參厘町村ハ金壹圓七拾六錢

財產收 金八百七拾五圓參拾五錢參厘

國庫下渡金 金貳萬貳千七拾壹圓六拾貳錢五厘

河川收 金參拾七圓

雜收 金四萬五千五百五拾圓五拾參錢貳厘

郡收 金六百九拾七圓四拾六錢

市收 金四萬八百五拾參圓七錢貳厘

經常部合計金百拾貳萬參千貳百參圓拾七錢參厘

郡收 金六萬千六百九拾圓八拾五錢七厘

郡市收入	金百六萬千五百拾貳圓參拾壹錢六厘
臨時部	
繰越金	金壹萬參千貳百參拾壹圓八拾八錢壹厘
郡市收入	金參百圓
內	
郡市收入	金壹萬貳千九百參拾壹圓八拾八錢壹厘
國庫補助金	金壹萬七百四拾五圓貳錢貳厘
財產賣拂代	金壹萬貳千五百八拾六圓六拾貳錢
臨時部合計金	參萬六千五百六拾參圓五拾貳錢參厘
內	
郡市收入	金參百圓
歲入總計金	百拾五萬九千七百六拾六圓六拾九錢六厘
內	
郡市收入	金六萬千九百九拾四圓八拾五錢七厘
郡市收入	金百九萬七千七百五圓八拾參錢九厘
歲經常部	

警察廳舍修繕費	金拾貳萬九千七百九拾參圓參拾參錢貳厘
警察廳舍修繕費	金千四百五拾九圓參拾四錢參厘
土木費	金九萬五千貳百八拾貳圓七拾參錢貳厘
縣會議諸費	金九千四百六拾六圓九拾壹錢八厘
衛生及病院費	金六千九拾四圓五錢參厘
教育費	金拾貳萬貳千六百參拾五圓四拾錢六厘
郡廳舍修繕費	金七百貳拾九圓八拾參錢五厘
郡役所費	金五萬五千四百九拾七圓九拾四錢四厘
救育費	金五百參圓五拾錢九厘
諸達書及揭示諸費	金千九百五拾五圓八拾錢八厘
勸業費	金貳萬千九百七拾九圓七錢壹厘
縣稅取扱費	金壹萬七千五百六拾四圓七拾八錢參厘
縣廳舍修繕費	金八百六拾八圓四拾錢九厘
衆議院議員選舉費	金貳百八拾壹圓拾九錢壹厘
縣吏員費	金貳萬參千貳百九圓貳拾四錢五厘

河川吏員費	金千七百七拾貳圓五拾貳錢
縣會議員選舉費	金六拾八圓七拾六錢四厘
行政執行費	金五百圓
財產費	金貳百六拾七圓五拾錢
收用審查會費	金八拾四圓七拾五錢
豫備費	金七千參百八拾五圓六拾四錢八厘
內 郡 負擔	金千參百拾參圓貳拾七錢九厘
內 郡市負擔	金六千七拾貳圓參拾六錢九厘
經常部合計	金四拾九萬六千九百圓七拾六錢壹厘
內 郡 負擔	金五萬七千五百四拾壹圓五錢八厘
內 郡市負擔	金四拾參萬九千參百五拾九圓七拾錢參厘
臨時部	
警察廳舍建築費	金千五百五拾圓拾錢六厘
土木費	金貳萬四千六百六拾五圓貳拾八錢參厘
郡市町村土木補助費	金六萬八千七百七拾參圓七拾四錢五厘

市町村傳染病豫防補助費	金五千圓
教育費	金貳萬七千九百五拾九圓五拾五錢
教育補助費	金九千參百五拾貳圓八拾四錢
勸業費	金四千五百貳拾四圓八拾錢
勸業補助費	金貳萬貳千參拾八圓
縣廳舍建築費	金貳千五百參拾八圓
郡廳舍費	金四千四百四拾九圓七拾九錢九厘
縣債費	金貳拾八萬貳千九百六拾四圓八錢六厘
慈惠救濟資金補充費	金五千圓
罹災救助基金補充費	金貳萬九千五百圓
衛生補助費	金四百貳拾壹圓四拾五錢
教育費本年度支出額	金貳萬千七百七拾九圓五拾錢
勸業費本年度支出額	金七千貳拾四圓六拾五錢九厘
慈惠事業補助費	金參百圓
河川改良工事費負擔	金拾四萬貳千圓

特別會計豫算

小學校教員恩給金補充費	金四百七拾四圓拾壹錢七厘		
河川臺帳調製費	金參千七百五拾圓		
臨時部合計金六拾六萬貳千八百六拾五圓九拾參錢五厘			
內			
郡負擔	金四千四百四拾九圓七拾九錢九厘		
郡市負擔	金六拾五萬八千四百拾六圓拾參錢六厘		
歲出總計金百拾五萬九千七百六拾六圓六拾九錢六厘			
內			
郡負擔	金六萬九千九百九拾圓八拾五錢七厘		
郡市負擔	金百九萬七千七百七拾五圓八拾參錢九厘		
(2) 明治三十五年度特別會計歲入歲出豫算(十四件)			
罹災救助基金	金八萬九千七百六圓七拾八錢五厘	歲入ニ同シ	
慈善救濟資金	金七千七百七拾六圓拾六錢四厘	同	
水災基金	金貳百八拾七圓五拾八錢參厘	同	
衛生基金	金百貳拾九圓九拾錢參厘	同	
教育資金	金貳萬貳千百參拾四圓八拾壹錢貳厘	金貳萬八百七拾七圓九錢九厘 (差引殘高金千貳百五拾七圓七拾壹錢參厘)	

追加豫算

市町村立小學校教員加俸資金	金貳萬七千七百貳拾六圓四拾七錢九厘	金壹萬九千四拾參圓四拾錢 (差引殘高金八千六百八拾參圓七錢九厘)
小學校教員恩給基金	金千四百八圓四拾八錢六厘	歲入ニ同シ
小學校教員恩給金	金千九百八拾七圓八拾錢四厘	同
富山縣師範學校基本財產	金百拾貳圓八拾貳錢六厘	同
富山中學校基本財產	金參拾九圓參錢七厘	同
高岡中學校基本財產	金貳拾六圓七拾八錢	同
魚津中學校基本財產	金拾五圓四拾五錢	同
工藝學校基本財產	金千八百九拾九圓八拾八錢	同
農學校基本財產	金千六百七拾圓七拾參錢壹厘	同
(3) 明治三十四年度歲入歲出追加豫算		
歲入經常部		
國庫下渡金	金五拾四圓八拾八錢貳厘	
歲入臨時部		
繰越金	金九千八百貳拾七圓五錢五厘	
歲入合計金九千八百八拾壹圓九拾參錢七厘		

歳出臨時部

警察廳舎建築費 金參百貳拾九圓貳拾八錢九厘
 土木費 金九百四拾貳圓七拾七錢四厘
 郡市町村土木補助費 金八千六百九圓八拾七錢四厘
 臨時部合計金九千八百八拾壹圓九拾參錢七厘

追加豫算

(4) 明治三十四年度歳入歳出追加豫算

歳入臨時部に於て繰越金金八千九百六拾四圓七拾九錢五厘歳出臨時部に於て郡市町村土木補助費金八千六百九圓八拾七錢四厘を決議したが別の追加豫算に合併することとした。

追加豫算

(5) 明治三十四年度歳入歳出追加豫算

歳出臨時部に於て土木費金九百四拾貳圓七拾七錢四厘を決議し別の追加豫算に合併することとした。

追加豫算

(6) 明治三十四年度歳出追加豫算

歳出臨時部 金千貳百參圓貳拾貳錢壹厘
 教育費本年度支出額 金千貳百參圓貳拾貳錢壹厘

勸業費繼續方法

但本歳出ニ對スル歳入ハ本年度歳入歳出差引殘金ヲ以テ充用スルモノトス
 一、この追加は縣會に於て否決したが、知事は内務大臣の指揮を受け、決定したものである。

(7) 自明治三十五年度勸業費中第五回内國勸業博覽會費繼續年期及支出方法
 至明治三十六年度 一金七千五拾圓
 總 豫 算 高

教育費繼續方法變更

自明治三十四年度教育費中魚津中學校建築費繼續年期及支出方法變更
 至明治三十七年度 金五千四百六拾五圓
 金千五百八拾五圓
 明治三十五年度支出額
 明治三十六年度支出額

總 豫 算 高
 前 議 決 額 金七萬七千八拾壹圓九拾錢
 變 更 額 金七萬八千貳百八拾五圓拾貳錢壹厘
 明治三十四年度 金貳萬九千六百參拾壹圓四拾錢
 金參萬八百參拾四圓六拾貳錢壹厘

一、無變更の年度に係るものは省略。
 一、この變更は縣會に於て否決し、知事に於て内務大臣の指揮を受け、決定したものである。

第三章 縣會議事(明治年代)

(9) 縣有土地賣却

富山市總曲輪地内

一、舊第一中學校敷地ノ内坪數三千九十六坪五合

上新川郡大澤野村大字稻代村地内

一、舊監獄外役所敷地段別一町四段六畝十四步

同郡同村大字高内村地内

一、同段別五段一畝十七步

西礪波郡福岡町大字福岡町地内

一、舊社地段別一畝二十三步

右縣有土地は之を賣却すること。

留學生増員

(10) 東亞同文書院留學生増員

清國南京東亞同文書院へ本縣ヨリ派遣ノ留學生ハ本年度ヨリ更ニ二名ヲ増員シ三ヶ年間留學ノ契約ヲ以テ一人ニ付一ヶ月學資金貳拾圓及往復旅費ヲ補助スルモノトス

縣債規則中改正

(11) 土木縣債規則中改正(二件)

(一) 明治三十二年の水害に因り生じたる土木費に充用の同規則中

營造物管理規則

(二) 明治二十九年明治三十年の水害に因り生じたる土木費に充用の同規則中
右何れも「第十六條ノ二本公債ハ縣經營ノ都合ニ依リ證書額以内ヲ以テ購入銷却ヲ爲スコトアルヘシ」を追加した。

(12) 營造物管理規則

第一條 縣ニ屬スル營造物ハ法令ニ別段ノ規定アルモノノ外本規則ニ依リ管理ス

第二條 營造物ヲ組成スル縣有財産ハ其用ヲ廢スルニアラサレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第三條 營造物ハ法令又ハ其性質ニ依リ定マリタル目的外ニ使用ヲ爲シ又ハ使用ヲ爲サシムルコトヲ得ス但其目的ヲ達スルニ妨ケナキトキハ此限ニアラス

第四條 法令又ハ其性質ニ依リ一般ニ使用ヲ許シタルモノノ外營造物ノ使用ヲ爲サントスル者ハ縣知事ノ許可ヲ受クヘキモノトス

前條但書ニ依リ營造物ヲ使用シ又ハ其使用ヲ許可スルトキハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘシ但使用期間六ヶ月以内ノモノハ縣知事ニ於テ專決ス

第五條 營造物ノ使用ヲ許可スルトキハ五年以内ニ於テ期間ヲ定ム可シ但期間滿了ノ際更新スルコトヲ妨ケス

第六條 營造物ヲ使用スル者ハ法令又ハ其性質ニ依リ認許セラレタル用方ニ從フ可シ其許可ヲ受ケテ使用スル者ハ指定シタル用方ニ從フコトヲ要ス
營造物ノ管理上必要ナル用方ノ制限ハ縣知事之ヲ定ム

第七條 營造物ノ使用權ハ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ移轉スルコトヲ得ス
使用權ヲ承繼シタル者ハ之レニ伴フ義務ヲ承繼ス

第八條 營造物ヲ使用スル者ハ左ノ義務ヲ負擔スルモノトス

- 一、營造物ニ損害ナキ様充分ノ注意ヲ爲スコト
- 二、指定ノ使用方法ニ依リ營造物ニ定著シテ工作物ヲ設ケ又ハ營造物ニ變更ヲ生セシメタルモノハ使用權消滅ノトキ原狀ニ回復スルコト但縣ハ原狀回復ノ義務ヲ免除シ無償ニテ附著物ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得
- 三、故意又ハ過失ニ依リ營造物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ縣ノ撰擇ニ從ヒ原狀回復又ハ損害賠償ノ責ニ任スルコト此場合ニ於テ原狀回復ノ方法又ハ損害賠償ノ金額ハ縣ノ指定スル所ニ依ル
- 四、前各號ノ義務ヲ指定ノ期間内ニ履行セス又ハ履行スルモ不充分ナル場合ニ於テ縣又ハ縣ノ命シタル第三者ノ爲シタル代執行ノ費用ヲ負擔スルコト

五、前各號ノ外縣知事ニ於テ特ニ命シタル負擔

數人共同シテ使用スル場合ハ前項各號ノ義務ハ連帶ヲ以テ之ヲ負擔スヘシ

第九條 前條第一項第二號但書及第三號ノ處分ヲ爲ストキハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘシ

第十條 公益ノ爲メ必要ナリト認ムルトキハ縣知事ニ於テ何時ニテモ營造物ノ使用ヲ停止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ使用者カ損害ヲ被ムルコトアルモ縣ハ賠償ノ責ニ任セス

第十一條 左ノ場合ニ於テハ縣知事ハ何時ニテモ使用ノ許可ヲ取消スコトヲ得

- 一、第六條又ハ第八條ニ違背シタルトキ
- 二、第七條ノ規定ニ依ラスシテ第三者ニ使用ヲ爲サシメタルトキ
- 三、使用料ヲ徵スル場合ニ於テ納期限内之ヲ完納セザルトキ

附 則

第十二條 此規則ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第十三條 此規則施行前ヨリ第四條ニ依リ許可ヲ受ク可キ營造物ヲ使用スル者ハ施行後六ヶ月以内ニ更ニ許可ヲ受ク可シ

前項ノ期限内ニ使用出願ヲ爲サ、ルトキハ從前ノ許可ハ効力ヲ失フモノトス出願スルモ許可ヲ得サリシ場合亦同シ

(13) 明治三十三年度歳入歳出決算報告(一部不承認)

調査委員五名を選挙し、審議の上左の意見を附することとした。

一、支出の認定すべからざるもの、(イ)歳出經常部勸業費中勸業諮問會の開期を遅延し、資格喪失の會員に旅費日當金百四拾九圓六拾錢を支拂ひたること。(ロ)同上縣吏員費中物品運搬費金參拾貳圓八拾錢を財産費若しくは土木費と混同支拂したること。(ハ)同上勸業費中森林調査の諸雇給料及び臨時部土木費中堤防修築費の人夫賃支出に錯誤あること。

二、將來の注意を促すもの、(イ)決議を無視したるもの二件、(ロ)監督宜しきを得ざるもの二件、(ハ)濫費に涉るもの四件、(ニ)注意を缺きたるもの四件を指摘した。

(14) 議及(七件)

(一)經常部土木費治水堤防費を以てする修繕着手順序の件、(二)臨時部郡市町村土木補助費中、道路橋梁補助費を郡市へ配當する金額の件、(三)同上費氷見町能登國境間熊無越の改修は、縣支辨豫定線に則り改修せしむる件、(四)臨時部教育費中、師範學校男子部敷地

買入費は、富山市の遊園地を候補地と認めし義に付、同市をして八清樓及び園内の建築物を移轉せしむる件、(五)臨時部教育費補助費中、實業教育補助費分配方の件、(六)臨時部勸業補助費中、水産獎勵補助費及び内外交通調査補助費の内譯方の件、(七)臨時部縣債費中、臨時繰上償還の償却方若しくは災害充用方の件を議及した。

(15) 建議(十二件)

内務大臣へ二件即ち、(一)富山直江津間鐵道敷設方の件、(二)災害土木費國庫補助規定改正方の件、知事へ十件即ち、(一)魚津中學校敷地變更の件、(二)郡市町村土木補助費中へ指定改修費追加(氷見町能登國界間道路改修を町村事業に移すこと、並に八尾町飛驒角川間道路開鑿費、城端町飛驒國界間道路の開鑿測量費)發案の件、(三)臨時部勸業補助費へ醸造組合等九ヶ所に對する補助費追加發案の件、(四)明治二十七年縣令第七十一號改正發案の件、(五)國縣の行政事務區分を明確にする件、(六)神通河口(岩瀬港口)浚渫の件、(七)不用材料(橋梁架換の古材等)取締の件、(八)高岡警察署新築の件、(九)私設鐵道停車場中樞要なる通路(出町、福野、戸出、福光、城端等)縣稅支辨修繕の件、(一〇)高岡市より高岡中學校及び工藝學校に至る道路を縣稅支辨にて修繕若しくは改修の件を建議した。

(16) 議長副議長及び縣參事會員補充員の選舉

十二月六日菅野議長投票を以て副議長の選挙を行ひ次に連記投票を以て縣參事會員補充員六名の選挙を行った。副議長の票數は左の通り。

〔副議長〕 荒木文平 二十一票(當選) 無効二票

同月十六日菅野議長辭職に付翌十七日荒木副議長投票を以て後任選挙を行ったが其の結果は左の通りであつた。

〔議長〕 岡本八平 二十票(當選)

津田三郎岩間菊太郎武部其文室林彌三郎高安健三郎中居清平 各一票

特殊事項

議員の發言取消

石黒議員の發言取消

十二月四日氷見郡役所を新築後買上ぐる豫算に就いて島二十九番は「買上とせずして新築としては如何」と問ひ荒井參與員は「縣に於て建築せば雜費を要して却つて不經濟である。已に郡會に於ても其の建築を決し居ることゆゑ愈新築成れば府縣制の明文に依り縣參事會の決議を経て買上ぐることにしたい。」と述べた。之に對し石黒十九番は「其の買上は相場師的の仕方である。」と難じて議長から發言の取消を命ぜられた。

閉閉

五九、明治三十五年九月臨時縣會

本會は明治三十五年九月一日開會同月七日閉會した。議長は岡本八平議員席次は前會に同じく知事は小倉久で主として本年七月前後の水害に因る復舊費を決議した。

議件

議事件名

議事件名は明治三十五年度歳入歳出追加豫算 同上罹災救助基金歳入歳出豫算變更追加 水害復舊土木費充用縣債借入及償還方法 自明治三十五年度至明治三十六年度土木費繼續年期及支出方法 議及六件 元庄川新庄川間道幅の件に關する建議であつた。

議決摘要

追加豫算

(1) 明治三十五年度歳入歳出追加豫算

歳入	經常部	地租	割	金九萬四千六百五拾四圓六拾九錢九厘
----	-----	----	---	-------------------

但本年地租豫算高金七拾八萬八千七百八拾九圓拾六錢壹厘地租壹圓ニ付金拾貳錢

戸數割 金參萬參千參百參拾壹圓四拾四錢

但本年總戸數十三萬八千八百八十一戸、戸數一戸ニ付金貳拾四錢

經常部合計金拾貳萬七千九百八拾六圓拾參錢九厘

歳入臨時部

線越金 金六百九拾六圓貳拾參錢九厘

國庫補助金 金貳萬貳千參拾四圓參拾五錢壹厘

縣債 金拾四萬九千圓

臨時部合計。金拾七萬七千七百參拾圓五拾九錢

歳入總計。金貳拾九萬九千七百拾六圓七拾貳錢九厘

歳出經常部

縣稅取扱費 金千參百參拾參圓貳拾五錢八厘

歳出臨時部

土木費 金貳拾參萬七千七百貳圓七拾壹錢八厘

郡市町村土木補助費 金貳萬六千六百九拾壹圓七拾貳錢六厘

縣債費 金九百參拾七圓五拾錢

豫算變更追加

縣債借入等方法

土木費本年度支出額 金參萬參千五拾壹圓五拾貳錢七厘

臨時部合計。金貳拾九萬八千參百八拾參圓四拾七錢壹厘

歳出總計。金貳拾九萬九千七百拾六圓七拾貳錢九厘

一、本豫算中。印を附したるは、知事に於て内務大臣の指揮を受け、決定したるものである。

(2) 明治三十五年度罹災救助基金歳入歳出豫算變更追加

歳出の雜出に於て、公債購入費より金七萬五千圓を減じ、土木費貸出金七萬五千圓を追加した。

(3) 縣債借入及償還方法

一、支辨 水害復舊土木費

一、起債額 金拾四萬九千圓以内

一、借入 明治三十五年度に於て罹災救助基金より金七萬五千圓、銀行より金七萬四千圓以内

一、利率 罹災救助基金の分は一ヶ年元金の百分の五、銀行の分は一ヶ年元金の百分の十以内

土木費繼續
方法

一、償還 元金償還は、罹災救助基金の分は明治三十九年度に於て、銀行の分は明

治三十七年度明治三十八年度の二ケ年間

利子支拂は毎年度九月三月に借入金に對する總額

一、銀行よりの借入金七萬四千圓以内及び明治三十八年度償還額は、知事に於て内務大臣の指揮を受け、決定したるものである。

(4) 自明治三十五年度 土木費中道路橋梁費繼續年期及支出方法
至明治三十六年度

一金六萬貳千參百四圓七拾四錢四厘

總 算 高

内 譯

金參萬參千五拾壹圓五拾貳錢七厘

明治三十五年度支出額

金貳萬九千貳百五拾參圓貳拾壹錢七厘

明治三十六年度支出額

一、本費は、庄川改良工事施行に伴ひ實施を要する縣道改修事業費である。

(5) 議及(六件)

土木工事施行の順序方法に關し、左の諸件を議及した。

一、支辨各川復舊工事に關し、各川の緩急を計り權衡を得せしむること。

二、復舊工事の位置設計は、適當の改良を要するも、彼のデレーキ氏の計畫になる霞堤

議及

を全廢し、單に直形堤のみを造るは、危險なるに付念査を要すること。

三、難工事の箇所を直ちに起工するは、徒に費用を膨脹せしむるのみなれば、時機を見計ふべきこと。

四、工事は公入札に附し、殘餘金は各川を通じて急なるものに使用すべきこと。

五、決議箇所にして、難易緩急を生じたる場合は、便宜取捨すること。

六、馳越工事を急速完成し、架橋の如き期日を誤らざるやう監督すること。

(6) 建議

今回決議に係る二ケ年繼續道路橋梁改修費、即ち元庄川より新庄川に至る約四丁の道幅五間を、七間の設計に改められんことを望む件を建議した。

六〇、明治三十五年十一月通常縣會

本會は明治三十五年十一月二十日開會、同十二月十九日閉會した。議長は岡本八平、議員席次は前會に同じく、知事は小倉久で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百拾萬貳千百參拾壹圓餘であつた。

開閉

建議

議 件

議事件名

議事件名は明治三十六年度歳入歳出豫算 同上營業稅雜種稅課目課額 同上特別會計歳入歳出豫算十四件 自明治三十六年度教育費繼續年期及支出方法 自明治三十五年度至明治四十年度教育費繼續年期及支出方法變更 明治三十五年度歳入歳出追加豫算 同上小學校教員恩給金歳入歳出追加豫算 明治三十四年度歳入歳出決算報告 土地買收(否決) 縣有土地無償讓與 縣有土地建物賣却(否決) 有給縣吏員退隱料退職給與金遺族扶助料給與規則中改正 罹災救助基金管理及補充規則中改正 縣稅賦課規則中改正 法人建物稅賦課規則中改正 流材稅賦課規則中改正 議及三件 建議九件であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治三十六年度歳入歳出豫算

歲 入 經 常 部

三十六年度豫算

地 租 割 金六拾參萬千四百六拾圓參錢七厘

內 郡 收 入 金四萬八千參拾七圓九拾七錢

郡 市 收 入 金五拾八萬參千四百貳拾貳圓六錢七厘

但本年度地租豫算高金七拾九萬參千七百七拾壹圓五拾貳錢(內金六千貳百六拾參圓八拾貳錢富山市高岡市)地租壹圓=付市八金七拾參錢五厘町村八金七拾九錢六厘

營 業 稅 金參萬五百八拾五圓四錢貳厘

雜 種 稅 金八萬九千九百九拾圓七拾錢

營 業 稅 附 加 稅 金壹萬九千百貳拾五圓貳拾參錢壹厘

但本稅金八萬參千五百拾參圓拾七錢八厘ノ十分ノ二三

戶 數 割 金貳拾壹萬七千貳百參拾貳圓四拾錢

內 郡 收 入 金壹萬四千四百七拾八圓貳拾四錢

郡 市 收 入 金貳拾萬貳千七百五拾四圓拾六錢

但本年總戶數十三萬七千九百二十八戶(內一萬七千二百七十六戶富山市高岡市)戶數一戶=付市八金壹圓四拾七錢町村八金壹圓五拾九錢

財 產 收 入	金四拾九圓貳拾八錢五厘
國 庫 下 渡 金	金貳萬貳千貳百八拾七圓七拾九錢參厘
河 川 收 入	金參百九圓六拾貳錢六厘
雜 收 入	金五萬四千四百六拾圓四拾七錢七厘
內 郡 收 入	金百五拾八圓六拾壹錢
內 郡 市 收 入	金五萬千參百壹圓八拾六錢七厘
經常部合計金	金百六萬貳千五百四拾九圓拾貳錢六厘
內 郡 收 入	金六萬貳千六百七拾四圓八拾貳錢
內 郡 市 收 入	金九拾九萬九千八百七拾四圓參拾錢六厘
繰 越 金	金壹千圓
內 郡 收 入	金參百圓
內 郡 市 收 入	金七百圓
國 庫 補 助 金	金參萬千四百貳拾六圓七錢六厘
財 產 賣 拂 代	金七千五百五拾六圓六拾六錢

臨時部合計金參萬九千五百八拾貳圓七拾貳錢六厘

內 郡 收 入	金參百圓
內 郡 市 收 入	金參萬九千貳百八拾貳圓七拾貳錢六厘
歲入總計金	金百拾萬貳千百參拾壹圓八拾五錢貳厘
內 郡 收 入	金六萬貳千九百七拾四圓八拾貳錢
內 郡 市 收 入	金百參萬九千五百五拾七圓參錢貳厘

經常部

警 察 費	金拾參萬貳千四百四拾貳錢五厘
警 察 廳 舍 修 繕 費	金千四百八拾圓五拾九錢五厘
土 木 費	金拾萬八千貳百拾六圓五錢九厘
縣 會 議 諸 費	金九千貳百參拾壹圓七拾參錢九厘
衛 生 及 病 院 費	金五千六百七拾貳圓八拾八錢
教 育 費	金拾參萬千五百七拾七圓八拾參錢
郡 廳 舍 修 繕 費	金七百圓壹錢八厘

郡役所費	金五萬五千七百拾八圓參拾七錢四厘
救育費	金四百五拾八圓貳拾七錢貳厘
諸達書及揭示諸費	金千六百九拾五圓參錢八厘
勸業費	金貳萬九百九拾八圓四拾貳錢九厘
縣稅取扱費	金壹萬六千九百六拾四圓九拾貳錢貳厘
縣廳舍修繕費	金千八拾圓
衆議院議員選舉費	金百四拾九圓七錢
縣吏員費	金貳萬貳千六百五拾七圓七拾八錢五厘
河川管理費	金千七百七拾八圓七錢
縣會議員選舉費	金百貳拾五圓拾四錢五厘
行政執行費	金五百圓
財產費	金百八拾五圓
收用審查會費	金八拾四圓七拾五錢
統計報告費	金五百五拾圓
豫備費	金八千四百七拾圓五拾參錢壹厘

內郡負擔	金千七百六拾圓參拾八錢貳厘
內郡市負擔	金六千七百拾圓拾四錢九厘
經常部合計	金五拾壹萬九千八百七拾八圓九拾參錢貳厘

內郡負擔	金五萬八千七百七拾八圓七拾七錢四厘
內郡市負擔	金四拾六萬千七百圓拾五錢八厘
臨時部	

警察廳舍建築費	金五百七圓七拾七錢六厘
土木費	金九千參百八拾六圓拾九錢
郡市町村土木補助費	金參萬千參百四拾八圓七拾參錢四厘
市町村傳染病豫防補助費	金四千圓
教育費	金四萬貳千六百參拾九圓六拾四錢四厘
教育補助費	金九千參百五拾貳圓八拾四錢
勸業補助費	金千四百八圓八拾錢
勸業補助費	金壹萬七千八百八拾圓
縣廳舍建築費	金四百八拾圓五拾壹錢

郡 廳 舍 費	金四千七百九拾六圓四錢六厘
縣 債 費	金貳拾四萬五千七百七拾貳圓七拾貳錢參厘
慈惠救濟資金補充費	金五千圓
罹災救助基金補充費	金壹萬五千圓
衛生補助費	金四百貳拾壹圓四拾五錢
教育費本年度支出額	金壹萬六千八百八拾貳圓五拾錢
勸業費本年度支出額	金五千圓
慈惠事業補助費	金百五拾圓
河川改良工事費負擔	金拾四萬貳千圓
小學校教員恩給金補充費	金九百參拾五圓拾九錢七厘
土木費本年度支出額	金貳萬九千貳百五拾參圓貳拾壹錢七厘
諸達書及揭示諸費	金參拾七圓貳拾九錢參厘
臨時部合計金五拾八萬貳千貳百五拾貳圓九拾貳錢	
內 郡 負 擔	金四千七百九拾六圓四錢六厘
郡 市 負 擔	金五拾七萬七千四百五拾六圓八拾七錢四厘

特別會計豫算

歲出總計金百拾萬貳千百參拾壹圓八拾五錢貳厘

內 郡 負 擔	金六萬貳千九百七拾四圓八拾貳錢	入	歲	出
郡 市 負 擔	金百參萬九千五百五拾七圓參錢貳厘	入	歲	出
(2) 明治三十六年度特別會計歲入歲出豫算(十四件)				
罹災救助基金	金八萬四千貳百九拾九圓拾六錢參厘	入	歲	出
慈惠救濟資金	金八千貳百九拾九圓七拾錢七厘	入	同	同
水災基金	金貳百九拾八圓參拾貳錢壹厘	入	同	同
衛生基金	金百貳圓六拾九錢八厘	入	同	同
教育資金	金貳萬參千八百四拾四圓七拾錢貳厘	入	同	同
市町村立小學校教員加俸資金	金參萬五千六百四拾五圓八拾四錢參厘	入	同	同
小學校教員恩給基金	金千六百六拾五圓四拾七錢五厘	入	同	同
小學校教員恩給金	金貳千七百九圓貳拾壹錢	入	同	同
富山縣師範學校基本財產	金百四拾八圓貳錢壹厘	入	同	同

金壹萬五千九百壹圓八拾四錢五厘
(差引殘高金七千九百四拾貳圓八拾五錢七厘)
金壹萬七千參百四拾參圓參拾錢
(差引殘高金壹萬八千參百貳圓五拾四錢參厘)
歲入二同ジ

教育費繼續
方法

縣立富山中學校基本財産	金貳拾參圓五拾貳錢四厘	同
縣立高岡中學校基本財産	金貳拾參圓參拾貳錢四厘	同
縣立魚津中學校基本財産	金拾五圓四拾五錢	同
縣立工藝學校基本財産	金千九百圓四拾參錢九厘	同
縣立農學校基本財産	金八百貳拾四圓貳拾七錢八厘	同

(3) 自明治三十六年度教育費繼續年期及支出方法(否決)
至明治四十年度

師範學校高等女學校高岡中學校工藝學校農學校の建築費として五ヶ年間に金拾九萬貳百參拾四圓五錢參厘を支出せんとするものであつたが否決した。

勸業費繼續
方法變更

(4) 自明治三十五年度勸業費中第五回内國勸業博覽會費繼續年期及支出方法變更
至明治三十六年度

總 豫 算 高	金七千五百八拾五圓	前 議 決 額	金壹萬四百六拾五圓
明治三十六年度支出額	金千五百八拾五圓	變 更 額	金五千圓

一、無變更の年度に係るものは省略。

(5) 明治三十五年度歳入歳出追加豫算

歳 入 臨 時 部

追加豫算

繰 越 金 金五千八百四拾參圓七拾九錢四厘

歳 出 臨 時 部

郡市町村土木補助費 金四千八百貳拾九圓貳拾九錢八厘

小學校教員恩給金補充費 金千拾四圓四拾九錢六厘

臨時部合計金五千八百四拾參圓七拾九錢四厘

一、郡市町村土木補助費は、本年五月乃至八月に於ける水害の急防費である。

(6) 明治三十五年度小學校教員恩給金歳入歳出追加豫算

歳 入 (收 入) 金千拾四圓四拾九錢六厘

歳 出 (支 出) 金千拾四圓四拾九錢六厘

(7) 土地買収(否決)

富山市東田地方村地内(遊園地)に於て、段別五町五段二畝十一歩を二ヶ年事業として買上げ、師範學校敷地とするの發案であつたが、不適當の箇所と認め否決した。

(8) 縣有土地無償讓與

井波町地内東礪波郡役所舊敷地段別二段二十歩は、元井波町より寄附せしものゝ處、不用に歸したるに付、同町へ無償にて讓與するに決した。

土地讓與

土地買収

追加豫算

議及

(9) 縣有土地建物賣却(否決)

別途伏木測候所移轉の案を立て、伏木町地内同敷地段別四畝十歩及び同建物二棟外に門扉柵を賣却せんとするものであつたが、移轉案否決の結果として否決となつた。

(10) 議及(三件)

(一)警察費の巡査俸給は來年度上半期に此度の修正決議を施行し、下半期に至り餘裕を生ぜば、原案の要求額を標準とし執行するも差支なきこと。(二)郡市町村土木補助費の道路橋梁補助費は、前年來の例に依り郡市配當額を定め、尙道路橋梁の現状維持以外に必要止むを得ざる道路の改修に補助すること。(三)勸業補助費に於て、模範工場補助金は、同合資會社が參萬圓の株金全額拂込及び參萬圓以上の事業に着手するを條件とすること。

(11) 建議(九件)

内務大臣へ宛てたるものは、稻田被害地租免租及び延納を請ふ件。知事へ宛てたるものは、(一)富山市有遊園地と元縣會議事堂敷地と交換の件、(二)縣立學校の經濟を緊縮整理の件、(三)町村立小學校設備を成るべく猶豫する件、(四)高岡市の古城公園を縣費にて保存經營の方法を講ずる件、(五)仲仕業代書業畜犬の三種に對し、明治三十六年度より課稅方發案の件、(六)貸家稅を明治三十七年度より課稅方發案の件、(七)師範學校高岡中

建議

學校工藝學校農學校の四校に於て明治三十六年度に是非設備を要する費用發案方の件、(八)罹災救助基金管理及補充規則中改正方發案の件で、内閣點附の建議は左に全文を掲ぐることとした。(建議書は内務大臣へ一通、知事へ五通)

建議書

稻田被害地々租免租及延納之義建議

富山縣會議長岡本八平富山縣會ノ決議ヲ具シ内務大臣男爵内海忠勝閣下ニ建議ス
本春以來氣候不順ノ爲メ本縣内唯一ノ生産物タル稻作田ニ稻熱病ヲ發生シ其害全縣ニ蔓延シ稻田地トシテ害ヲ蒙ラザルモノ殆ンド之レ無ク遂ニ縣下各郡ニ於ケル被害地ハ收穫皆無ノ作付段別三千二百十五町三段二十三歩ヲ見ルニ至リ尙ホ一步作ノモノ一千二百二十二町餘歩ニ及ビ其他五歩作ニ滿タザルモノ少カラズ平年作ノモノハ全縣皆無ノ有様ニテ爲メニ縣下多數ノ農民ハ今ヤ自己ノ食糧ヲ得ルニ途ナク屋傾キ壁落チ雨漏ルモ之レカ修理ヲ爲スヲ得ス止ム無ク妻子離散シテ他郷ニ出ルモノ續々踵ヲ接シ老幼相抱キテ饑ヲ訴フルモノアリ茲ニ於テ官民共ニ苦心經營之レカ救濟ノ途ヲ講ズト雖モ到底多數ノ窮民ヲ賑恤スルヲ得ザルニ至リ町村トシテ自治機關ノ經營ヲ爲ス資力缺乏シ今ヤ既ニ小學校ヲ休止シ道路堤防モ缺壞スルニ委シ正ニ命脈絶エナントスル窮境ニ在ルモノアリ若シ此儘ニ放任センカ餓莩野ニ充ツル慘狀ヲ見ル

ニ至ルハ當然延イテ町村爲政ノ機關モ之レヲ休止スルコトノ止ムヲ得サルヤ必セリ
茲ヲ以テ目下舉ツテ善後ノ策ヲ講ジツ、アル現狀ニシテ到底法定ノ地租ヲ納入スル
ヲ得ザルハ當然ニ付閣下ハ此ノ窮狀ニ鑑ミ收穫皆無地ニ對シテハ地租ヲ全免シ五分
以下ノ收穫地ニ對シテハ地租ノ延納ヲ許ス事ニ相當御處置アラシム事ヲ望ム
右建議候也

明治三十五年十二月二十九日

富山縣會議長 岡本 八平

内務大臣男爵 内海 忠勝 殿

一、翌年三月二十日 天皇 皇后兩陛下より御救恤金貳千圓下賜。

特殊事項

議員の入獄

(1) 赤間四番の入獄
同議員は財産隠匿事件にて、開會以前より久しく監獄に繋がれ十二月十二日漸く豫審
免訴となり、其の以後僅かに數日出席した。またこの頃關口二十七番も何事か入獄缺
席した。

視學官拘引

(2) 高田視學官の拘引

本縣の教科書審査問題に關し、收賄瀆職の嫌疑を以て、十二月十九日參與員たる視學官
高田雄種は、千石町の假寓にて東京地方裁判所豫審判事の囑托を受けたる富山警察署員
に拘引せられ、直ちに東京へ護送さるゝの事件が突發した。恰も縣會の最終日であつた
が、この出來事が極秘に付せられてゐた爲、議場の問題とならなかつたことは縣廳側の幸
であつた。因にこの日同一事件にて、富山中學校長黒川雲登も同じく令狀を執行せられ
て東京へ護送、兩人共に休職を命ぜられた。又當時同委員たりし縣視學根岸貫、同清水基
治も轉任先たる靜岡三重の兩縣にて拘引せらるゝに至つた。本縣の教科書審査會は、昨
明治三十四年一月十六日午後四時、富山市千歳館に各委員を封じ込め、巡查二人立番を爲
し、嚴重なる警戒の下に、會期一週間に於て同月二十三日終了したに拘はらず、斯かる不祥事
を見たるは意外である。審査員は書記官鈴木隆(一日間のみ出席)を委員長とし、高田
黒川根岸清水の外、師範學校長赤木萬次郎、同校教諭大井民吾、同木下竹次、郡視學荒木心一、
同梅野安房を委員としたもので、所謂教科書事件として當時全國的に教育界を震撼せし
めし大事件であつた。

議員の放言

(3) 島議員の放言

島二十九番勸業費一讀會に於て、其の各項に涉り當局の施設を攻撃したる後要するに

虎熊の渾名

富山縣の勸業は其の全體を削り、畜産改良費一項を残し、馬鹿勸業としては如何、馬は、皮は太鼓を貼るべく、肉は食ふべく、又軍馬、農馬等の利用あり。鹿は、角は角細工とすべく、肉は食ふべく、皮は恩田の煙草入として有名なり。宜しく馬と鹿とを養ふべし。云々と罵倒し、終りに馬鹿は漢語で讀むとへんなことなる故、假名を附けて置いて貰ひたいと。而してこの頃藤田十八番亦之に劣らず、共に議場に咆哮して、當局や反對派議員を震駭せしめ、島は虎、藤田は熊の綽號を付せられ、當時それが餘りにも有名であつた。

六一、明治三十六年十月臨時縣會

閉會

本會は明治三十六年十月十二日開會、同月十八日閉會した。議員改選後の初會なるを以て、議員席次を定め、議長に大橋十右衛門當選し、知事は李家隆介で、本年の水害復舊費等を決議した。

議 件

議事件名

議事件名は議員席次の抽籤 議長副議長の選舉 名譽職參事會員同補充員の選舉
明治三十六年度歳出豫算變更 同上歳入歳出追加豫算二件 自明治三十六年度勸業費中
至明治三十七年度勸業費中

聖路易博覽會費繼續年期及支出方法 不動産賣却 議及數件であつた。

議 決 摘 要

席次抽籤

(1) 議員席次の抽籤

一 番 押田喜訓	二 番 田中清文	三 番 藤田久信
四 番 松田春太郎	五 番 岩井藤三郎	六 番 江本信好
七 番 中田太七郎	八 番 羽根平三郎	九 番 加藤甚右衛門
十 番 金武 央	十一番 大橋十右衛門	十二番 笹岡貞次
十三番 菅池岩吉	十四番 伊東忠二	十五番 數井孝次
十六番 伊東祐賢	十七番 和泉善六	十八番 藤村幸太郎
十九番 石黒準太郎	二十番 清水幸太郎	二十一番 寺島松右衛門
二十二番 三鍋磯右衛門	二十三番 森丘覺平	二十四番 上田又一
二十五番 松田久次郎	二十六番 田村民井	二十七番 北 六一郎
二十八番 正木善一郎	二十九番 松島與信	三十番 黒田銀次郎
三十一番 矢後孫人		

(異動) 三番藤田久信明治三十八年七月辭職、安井幸治同年九月補缺。二十六番田村民井明治三十八年七月辭職、淺尾清太郎同年八月補缺。

議長副議長選舉

(2) 議長副議長の選舉

十月十四日午後年長議員數井十五番議長席に就き、假議長の選舉を宣告し、多數の意見に依り指名選舉とすることとし、大橋十一番を指名した。十一番代つて議長席に着き、先づ選舉立會人二名を指名し、投票を以て議長選舉を行ひ、當選議長に依つて副議長を指名した。その結果は左の通りである。

[議長] 大橋十右衛門 十八票(當選) 田中清文 一票

[副議長] 田中清文 指名(當選)

豫算變更

(3) 明治三十六年度歳出豫算變更

歳出經常部	前議決豫算高	變更豫算高
歳出臨時部	前議決豫算高	變更豫算高
縣吏員費	金貳萬參千拾參圓拾壹錢貳厘	金貳萬貳千六百五拾七圓七拾八錢五厘

議員



東北善兵衛



黒田銀次郎



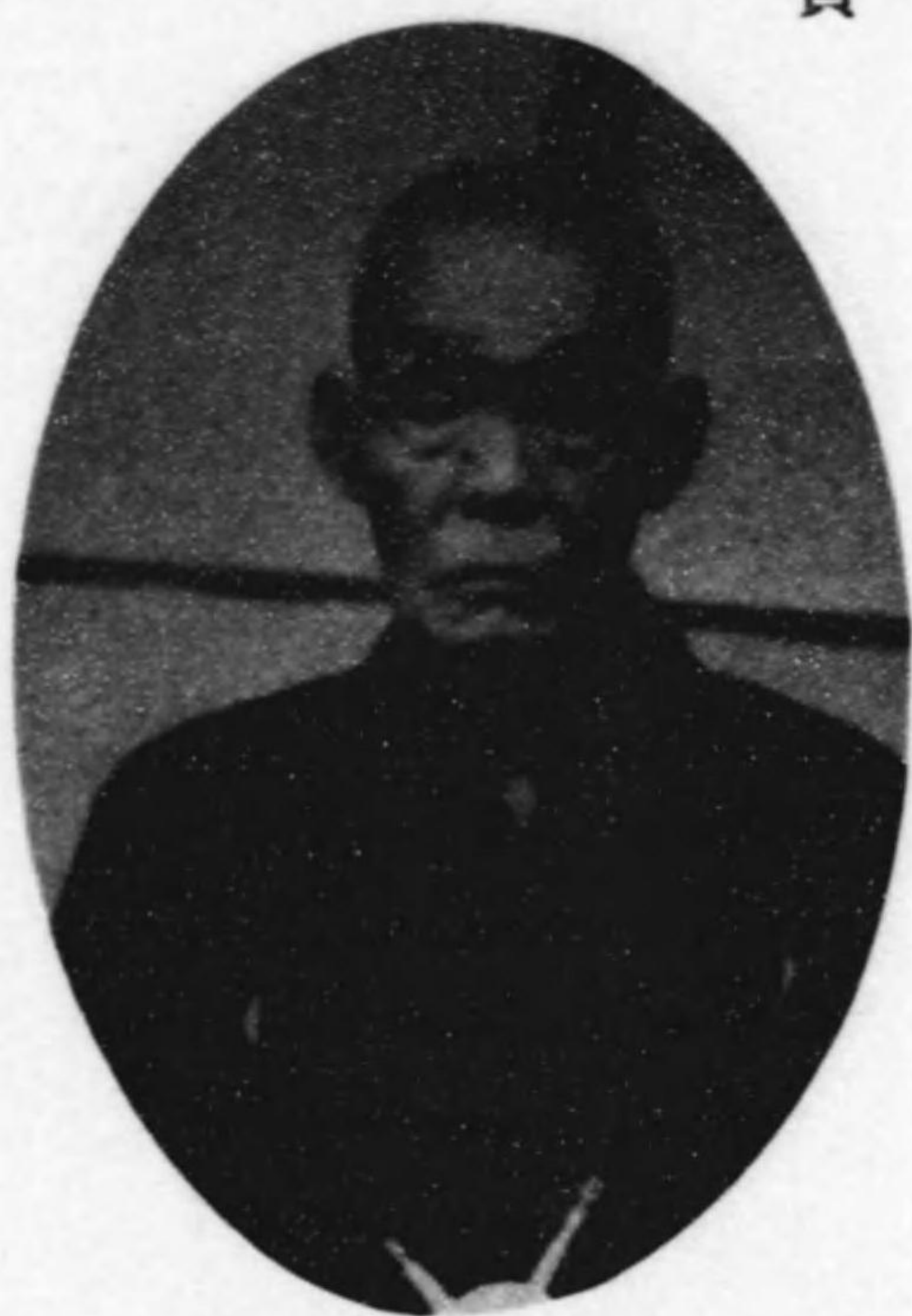
菅池岩吉



三鍋磯右衛門



押田喜訓



伊東忠二



松田春太郎



松田久次郎

議 員

追加豫算

土 木 費	金貳拾六萬九千貳百貳圓四拾參錢六厘	土 木 費	金五萬九千八拾壹圓九拾六錢貳厘
郡市町村土木補助費	金七萬百參拾貳圓七拾七錢壹厘	郡市町村土木補助費	金貳萬六千八百八拾貳圓八拾貳錢貳厘
教 育 費	金五萬八千四拾壹圓六拾四錢四厘	勸業費本年度支出額	金千貳百四拾六圓六拾錢五厘
縣 債 費	金貳拾四萬五千七百七拾貳圓七拾貳錢參厘		
(4) 明治三十六年度歲入歲出追加豫算			
歲 入 臨 時 部	金四萬貳千六百六拾七圓六錢六厘	歲 出 臨 時 部	金五萬九千八拾壹圓九拾六錢貳厘
線 越 金	金參拾貳圓八錢參厘	衛生及病院費	金百九拾貳圓五拾錢
國 庫 補 助 金	金參拾貳圓八錢參厘		
臨時部合計金	四萬九千九百九拾九圓四錢九厘		

追加豫算

臨時部合計金八萬七千貳百拾壹圓參拾八錢九厘
歲出總計金八萬七千四百參圓八拾八錢九厘

歲入出差引不足金八萬參千四百四圓七拾四錢は、前豫算變更より生ずる殘金を充用。

(5) 明治三十六年度歲入歲出追加豫算

歲入 臨時部

繰越 金 參千九拾壹圓拾四錢八厘

歲出 臨時部

土木費 金 六百參拾五圓貳拾參錢貳厘

郡市町村土木補助費 金 貳千四百五拾五圓九拾壹錢六厘

合計金參千九拾壹圓拾四錢八厘

勸業費繼續方法

(6) 自明治三十六年度勸業費中聖路易博覽會費繼續年期及支出方法

一金貳千貳拾六圓參拾參錢九厘

總 豫 算 高

内 譯

金千貳百四拾六圓六拾錢五厘

明治三十六年度

金七百七拾九圓七拾參錢四厘

明治三十七年度

不動産賣却

(7) 不動産賣却

富山停車場敷地内の富山消毒所(建坪五十坪)を賣却せんとする提案であつたが、折角建てたものであるからと云ふ理由で否決した。

(8) 議及(數件)

(一) 土木費・土木補助費の内、若し緊要にして來年度を待つべからざるものあらば、次回の通常會の劈頭に發案せらるべきこと。(二) 三十二年度の殘金を使用するもの、如き其の筋の認可を要するもの、若し認可せられざる場合は、參事會に諮りて臨機の處分あるべきこと。(三) 土木補助費の補助のみにて十分ならず、止むを得ざるときは臨機の處分あるべきこと。(四) 縣當局者は神通川に屬すと稱する茶蔕樹堤の如き、未だ所屬の一定せざるものあるも、今回は一時縣支辨として馳越工事を完了したる上區域を定むべきこと等の議及をした。

特殊事項

兩派の軋轢

(1) 兩派の軋轢

今回の議員改選には、進派(憲政本黨)十九名、政派(政友會)十一名當選し、役員選舉の日、

午前、政派は年長議長松田二十五番を擁して進派の獨占選舉を妨げんとし、同派の藤村十八番等は、進派推薦の大橋十一番が縣廳の印刷受負を爲す富山日報社の重役で議員の資格なきものであると論じ、進派の藤田三番は、知事の當選證書を有する十一番は何等資格に缺くるものでないと駁し、滿場殺氣紛々、彼叫べば是應じ、遂に政派總立となり、袂を連ねて退場した。かくて午後は進派の獨舞臺で役員選舉を行ふこととなり、夫れより本議會中、政派議員の多數は殆ど出席せずして、只藤村十八番岩井五番の兩人が、地方問題の關係上、特に出席したに過ぎなかつた。

退場命令

(2) 退場命令

十月十六日午後の會議中、政派の藤村十八番が忽然と現はれ來て發言を求め、一昨日の松田年長假議長が閉會を宣告したるに云々と論じ出した。議長はそは議題外であるから、と中止を命じたけれども聽かず、議長は遂に十八番に退場を命じた。

六三、明治三十六年十一月通常縣會

開閉

本會は明治三十六年十一月十日開會、十二月九日閉會した。議長は大橋十右衛門、議員席次は前會と同じく、知事は李家隆介で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百拾六萬貳千

參百參拾五圓餘であつた。

議 件

議事件名は明治三十七年度歳入歳出豫算 同上歳入歳出追加豫算三件 同上特別會計歳入歳出豫算十四件 自明治三十七年度至明治三十八年度土木費中道路橋梁費繼續年期及支出方法 營業稅雜種稅課目課額中改正 縣稅賦課規則中改正 明治三十六年度歳入歳出追加豫算 同上(再議) 縣有不動産の處分三件 富山縣整理公債規則 明治三十五年度歳入歳出決算報告 議及八件 建議六件であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治三十七年度歳入歳出豫算

地	租	割	金六拾五萬七千八百七拾五圓九拾貳錢九厘
郡	收	入	金四萬九百拾參圓七拾九錢四厘
內	入		
第三篇	縣會史	上	

三十七年度
豫算

議事件名

郡市收入

金六拾壹萬六千九百六拾貳圓拾參錢五厘

但本年地租豫算高金七拾九萬參千拾圓四拾五錢六厘(內金六千貳百六圓七拾參錢壹厘富山市高岡市)地租壹圓二付市八金七拾七錢八厘町村八金八拾參錢

營業稅 金參萬四千六拾貳圓參拾七錢壹厘

雜種稅 金八萬九千貳百圓九拾七錢

營業稅附加稅 金壹萬九千八百參拾六圓貳拾參錢七厘

但國稅金八萬六千貳百四拾四圓五拾壹錢ノ十分ノ二三

戶數割 金貳拾貳萬五千六百四拾六圓六拾八錢貳厘

內郡市收入 金壹萬貳千貳百拾九圓四拾九錢八厘

郡市收入 金貳拾壹萬參千四百貳拾七圓拾八錢四厘

但本年總戶數十三萬七千六百六十四戶(內一萬七千三百六十五戶富山市高岡市)戶數一戶二付市八金壹圓五拾五錢六厘町村八金壹圓六拾五錢八厘

財產收入 金六拾八圓六拾四錢

國庫下渡金 金貳萬參千貳百九拾九圓八拾壹錢四厘

河川收入 金五百七拾參圓七拾壹錢五厘

雜收入 金六萬八千九百五拾六圓參拾六錢九厘

內郡市收入 金百五拾七圓五錢四厘

郡市收入 金六萬八千七百九拾九圓參拾壹錢五厘

經常部合計金百拾壹萬九千五百貳拾四圓七拾貳錢七厘

內郡市收入 金五萬參千貳百九拾圓參拾四錢六厘

郡市收入 金百六萬六千貳百參拾圓參拾八錢壹厘

臨時部

線越金 金壹萬貳百八拾圓七拾五錢五厘

內郡市收入 金參千百拾參圓七拾貳錢九厘

郡市收入 金七千百六拾七圓貳錢六厘

國庫補助金 金參萬貳千五百參拾參圓八拾六錢貳厘

臨時部合計金四萬貳千八百拾四圓六拾壹錢七厘

內郡市收入 金參千百拾參圓七拾貳錢九厘

郡市收入 金參萬九千七百圓八拾八錢八厘

歲入總計金百拾六萬貳千參百參拾五圓參拾四錢四厘

內 郡 收 入 金五萬六千四百四圓七錢五厘
 郡 市 收 入 金百拾萬五千九百參拾壹圓貳拾六錢九厘

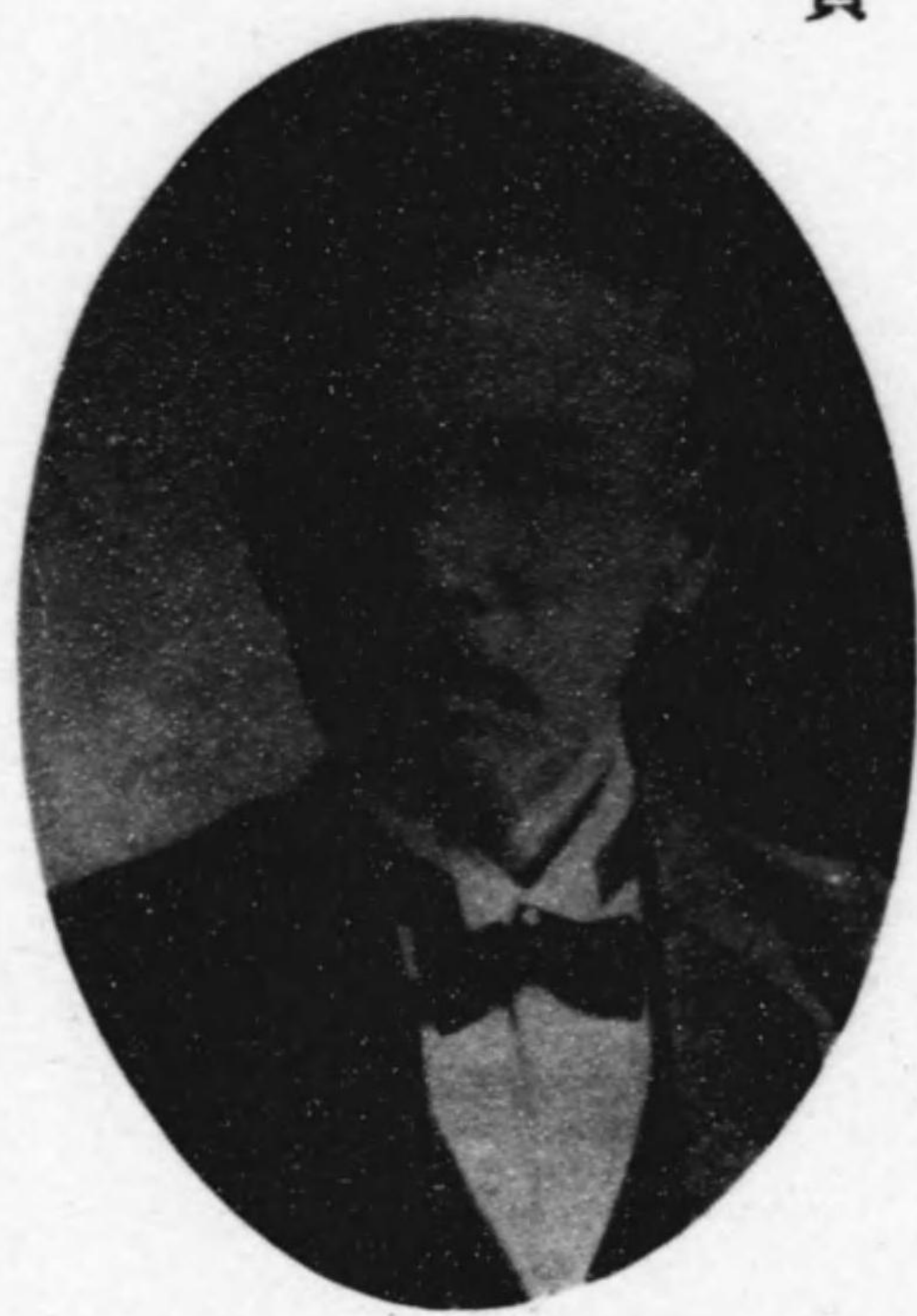
歲 出 常 部

警 察 費	金拾參萬四千貳百九拾參圓五拾五錢九厘
警 察 廳 舍 修 繕 費	金千四拾壹圓七拾四錢貳厘
土 木 費	金拾壹萬貳千參百六拾九圓貳拾四錢七厘
縣 會 議 諸 費	金八千貳百五拾七圓四拾錢六厘
衛 生 及 檢 徵 費	金五千五百九拾壹圓七拾七錢八厘
教 育 費	金拾貳萬八千六百八拾五圓七拾六錢
郡 廳 舍 修 繕 費	金六百五拾八圓六拾六錢九厘
郡 役 所 費	金五萬四千四百貳拾圓四拾錢六厘
救 育 費	金參百七拾五圓貳拾壹錢參厘
諸 達 書 及 揭 示 諸 費	金千五百拾貳圓五拾四錢

議 員



伊東東祐賢



數井孝次郎



田村民井



淺尾清太郎

員 議



金武央



江本信好



和泉善六



清水幸太郎

勸業費	金參萬九千百貳圓拾五錢六厘
縣稅取扱費	金壹萬八千九百拾七圓五拾參錢五厘
縣廳舍修繕費	金七百九拾五圓五拾錢
衆議院議員選舉費	金百四拾九圓七錢
縣吏員費	金貳萬七百四圓七拾四錢
河川管理費	金千百拾參圓六拾四錢
縣會議員選舉費	金四拾壹圓六拾六錢
行政執行費	金貳百圓
財產費	金百八拾五圓
收用審查會費	金八拾四圓七拾參錢
統計費	金六百參拾參圓參拾錢
豫備費	金九千四百九拾貳圓拾七錢壹厘
內郡負擔	金千圓
郡市負擔	金八千四百九拾貳圓拾七錢壹厘

經常部合計金五拾參萬八千六百貳拾五圓八拾貳錢貳厘

內	郡	負	擔	金五萬六千七拾九圓七錢五厘
郡	市	負	擔	金四拾八萬貳千五百四拾六圓七拾四錢七厘
臨時部				
警察廳舍建築費				金五千參百九拾四圓六拾七錢
土木費				金參萬千五百九拾六圓貳拾九錢
郡市町村土木補助費				金參萬六千七百貳拾貳圓七拾錢六厘
市町村傳染病豫防補助費				金參千五百九拾四圓參拾壹錢參厘
教育費				金五萬四千四百六拾貳圓六拾四錢七厘
教育補助費				金五千參百五拾貳圓八拾四錢
勸業費				金千參百八拾圓八拾四錢
勸業補助費				金壹萬七千四百八拾圓
縣廳舍建築費				金百五拾八圓參拾錢
郡廳舍建築費				金參百貳拾五圓
縣債費				金貳拾六萬貳千九百參圓貳拾六錢參厘
慈惠救濟資金補充費				金五千圓

罹災救助基金補充費	金壹萬圓				
衛生補助費	金四百貳拾壹圓四拾五錢				
教育費本年度支出額	金九千參百八拾八圓五拾錢				
慈惠事業補助費	金貳百圓				
小學校教員恩給金補充費	金貳千五拾五圓六拾四錢五厘				
河川改良工事費負擔	金拾四萬貳千圓				
勸業費本年度支出額	金七百七拾九圓七拾參錢四厘				
土木費本年度支出額	金參萬四千四百九拾參圓參拾貳錢四厘				
臨時部合計金六拾貳萬參千七百九圓五拾貳錢貳厘					
內	郡	負	擔	金參百貳拾五圓	
內	郡	市	負	擔	金六拾貳萬參千參百八拾四圓五拾貳錢貳厘
歲出總計金百拾六萬貳千參百參拾五圓參拾四錢四厘					
內	郡	負	擔	金五萬六千四百四圓七錢五厘	
內	郡	市	負	擔	金百拾萬五千九百參拾壹圓貳拾六錢九厘

(2) 明治三十七年度歲入歲出追加豫算(三件)

特別會計豫算

孰れも決議の上通常豫算へ合算せしものに付記載を省略する。

(3) 明治三十七年度特別會計歳入歳出豫算(十四件)

項目	歳入	歳出
罹災救助基金	金五萬壹千參百貳拾貳圓參錢參厘	同
慈惠救濟資金	金八千六拾圓五拾八錢	同
水災基金	金貳百八圓四錢六厘	同
衛生基金	金九拾參圓拾壹錢九厘	同
教育資金	金貳萬貳千八百六拾七圓七拾七錢九厘	同
市町村立小學校教員加俸資金	金四萬參千參拾七圓拾七錢壹厘	同
小學校教員恩給基金	金千八百七拾貳圓七拾壹錢八厘	同
小學校教員恩給金	金參千九百七拾九圓七拾四錢貳厘	同
富山縣師範學校基本財産	金貳百貳拾參圓拾錢九厘	同
縣立富山中學校基本財産	金參拾貳圓六拾九錢	同
縣立高岡中學校基本財産	金貳拾五圓貳拾六錢	同
縣立魚津中學校基本財産	金拾五圓九拾七錢四厘	同

土木費繼續方法

縣立工藝學校基本財産	金九百五拾圓貳錢	同
縣立農學校基本財産	金八百貳拾參圓七拾壹錢六厘	同
(4) 自明治三十七年度至明治三十八年度土木費中道路橋梁費繼續年期及支出方法	一金四萬四千九百五拾九圓參拾五錢七厘	同
內譯		總豫算高

追加豫算

金參萬四千四百九拾參圓參拾貳錢四厘	明治三十七年度支出額
金壹萬四百六拾六圓參錢參厘	明治三十八年度支出額
(5) 明治三十六年度歳入歳出追加豫算(再議)	
歳入 經常部	金拾萬九千四百參拾五圓四拾四錢參厘
地租 割	但本年度地租豫算高金七拾九萬參千拾圓四拾五錢六厘地租壹圓ニ付金拾參錢八厘
戸割	金參萬七千四百四拾五圓七拾七錢貳厘
但本年度總戸數十三萬七千六百六十四戸戸數一戸ニ付金貳拾七錢參厘	
經常部合計金拾四萬六千八百八拾壹圓貳拾壹錢五厘	

歳入臨時部

國庫補助金 金五圓
財產賣拂代 金千貳百拾九圓五錢

臨時部合計金千貳百貳拾四圓五錢

歲入總計金拾四萬八千五百五圓貳拾六錢五厘

歲出 經常部

衛生及病院費 金參拾圓

縣稅取扱費 金千四百九拾七圓八拾壹錢壹厘

經常部合計金千五百貳拾七圓八拾壹錢壹厘

歲出 臨時部

土木費 金壹萬八千貳百九拾六圓貳拾四錢六厘

郡市町村土木補助費 金七千九百六拾壹圓七拾八錢九厘

教育費 金貳百貳拾參圓六拾九錢

縣債費 金拾萬百貳拾六圓

臨時部合計金拾四萬六千六百七圓七拾貳錢五厘

歲出總計金拾四萬八千八百參拾五圓五拾五錢六厘

不動産處分

歲入出差引不足額金參拾圓貳拾九錢壹厘

但前豫算歲入出差引殘金ヲ充用ス

一、本豫算は一旦決議せしものであるが、郡市町村土木補助費中治水堤防費補助の河川堤防費補助減額は、指定箇所の記事を執行するに適當ならざる議決として、右金額の異動に伴ふ歲入と共に、府縣制第八十三條に依り、再議に付せられ決議したものである。

(6) 縣有不動産の處分(三件)

(一) 建物無償讓與

東礪波郡福野町大字福野町

一、農學校舊建物 十一棟

此建坪二百四十六坪七合五勺

右の建物は、新築に係る農學校の竣功に伴ひ、不用に歸するに付、無償を以て福野町へ讓與のこと。

(二) 建物賣却

富山停車場敷地内

第三篇 縣會史上

議 員



次 貞 岡 筱



一 又 田 上



郎 一 六 北



郎 三 藤 井 岩

則 整理公債規

第三章 縣會議事(明治年代)

一、 富山消毒所 建坪五十坪

右は、金參百圓を以て、大日本武徳會富山支部へ賣却のこと。

(三) 土地賣却

上新川郡奥田村大字西稻荷村地内

一、 師範學校舊農業場用地 坪數千六百七十一坪

右は賣却のこと。

(7) 富山縣整理公債規則 抄

第一條 本公債ハ從前發行ノ七分利付公債及借入金ヲ償還整理スルカ爲ニ募集スルモノトス

第二條 本公債ハ總額八拾八萬七千五百圓以内ニ於テ財政ノ便宜ヲ計リ隨時之ヲ發行スルモノトス

第三條 本公債ノ利子ハ年六分以内トス

第四條 本公債ノ價格ハ額面金額以上トス

第五條 本公債證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓五拾圓ノ四種トス但應募引受人又ハ所有者ノ望ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

議 員



安井幸治



松浦勝太郎



羽根平三郎



藤永義治

議 及

建 議

本公債證書ノ様式ハ豫メ之ヲ告示ス

第六條 本公債ハ明治四十六年度迄ニ財政ノ都合ニ依リ抽籤ヲ以テ償還スルモノトス

以下第七條乃至第二十七條は省略。

(8) 議及(八件)

土木費に關するもの四件、郡市町村土木補助費に關するもの二件、勸業費及び勸業補助費に關するもの各一件を議及した。

(9) 建議(六件)

内務大臣宛のもの一件は「富山縣存置の件」で、これは當時行政及び財政整理の結果、府縣廢合を行ひ、本縣及び福井縣を廢して、石川縣に合併せらるゝとの風評專らなりし爲、之を提出したもので、知事宛のもの五件は、(一)農學校授業料徴收方發案の件、(二)水産機關の獎勵方發案の件、(三)明治二十七年縣令第七十一號(河川堤防道路海岸の修築補助に關する規定)改正の件、(四)神通川改良工事の實効を擧ぐる件、(五)縣有財産整理の件であつた。

特 殊 事 項

假議長選舉

入念の假議長選舉

十一月十七日正副議長共に缺席に付、中田年長議員議長席に就き、假議長選舉を行ふ旨を宣告した。指名投票の兩説出で、投票説に決し、數井十五番五票、森丘二十三番三票、其の他一二票のもの數名、何れも過半数を得ず、決選投票を行つたが、數井森丘また各九票で、年長者たる數井議員が當選と決した。

六三、明治三十七年十一月通常縣會

本會は明治三十七年十一月一日開會、同月三十日閉會した。議長は大橋十右衛門議員、席次は前會と同じく、知事は李家隆介で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百六萬七千貳百拾貳圓餘であつた。

閉 閉

議 件

議事件名

議事件名は明治三十八年度歳入歳出豫算 同上歳出追加豫算 同上特別會計歳入歳

出豫算十五件 東亞同文書院留學生學資補助 自明治三十八年度 至明治三十九年度 土木費繼續年期及支出方法變更 明治三十七年度歳入歳出追加豫算二件 富山縣會議規則改正 富山縣會傍聽人取締規則改正 縣會議員名譽職參事會費辨償規則改正 縣有土地建物處分常願寺川水源地に砂防工事施行の件諮問 明治三十六年度歳入歳出決算報告 議及八件 建議六件 出征陸海軍の慰問であつた。

議 決 摘 要

三十八年度豫算

(1) 明治三十八年度歳入歳出豫算

歲 入	經 常 部	地 租	地 割	郡 市 收 入	郡 市 收 入
			金五拾五萬千七百六圓五拾六錢貳厘	金參萬九千參百四拾七圓九拾九錢貳厘	金五拾壹萬貳千參百五拾八圓五拾七錢
					但本年地租豫算高金七拾九萬參千貳拾四圓七拾貳錢貳厘(內金六千六百拾四圓八拾九錢富山市高岡市) 地租壹圓二付市金六拾四錢六厘町村金

六拾九錢六厘

營業稅 金參萬四千八百八拾參圓九拾參錢貳厘

雜種稅 金九萬七千六百貳拾四圓七拾壹錢參厘

營業稅附加稅 金貳萬千八百九拾五圓八拾九錢四厘

但本稅金九萬五千九拾九圓五拾四錢ノ十分ノ二三

戶數割 金拾八萬八千七百四圓九拾九錢八厘

內郡市收入 金壹萬貳千六拾貳圓六拾參錢貳厘

郡市收入 金拾七萬六千六百四拾貳圓參拾六錢六厘

但本年總戶數十三萬六千八百二十六戶(內一萬七千三百九十四戶富山市

高岡市)戶數一戶ニ付市金壹圓貳拾九錢壹厘町村金壹圓參拾九錢貳厘

財產收入 金貳百五拾四圓五拾五錢貳厘

內郡市收入 金貳圓

內郡市收入 金貳百五拾貳圓五拾五錢貳厘

國庫下渡金 金貳萬貳千八百拾四圓貳拾貳錢壹厘

河川收入 金七百七拾四圓參拾壹錢參厘

雜收入 金拾萬參千四百貳拾七圓四拾六錢五厘

內郡市收入 金百五拾參圓六錢

內郡市收入 金拾萬參千貳百七拾四圓四拾錢五厘

經常部合計金百貳萬千參百八拾六圓六拾五錢

內郡市收入 金五萬千五百六拾五圓六拾八錢四厘

內郡市收入 金九拾六萬九千八百貳拾圓九拾六錢六厘

臨時部

綠越金 金參萬六千參百五拾九圓九拾參錢貳厘

內郡市收入 金四千四百參拾四圓四拾六錢八厘

內郡市收入 金參萬千九百貳拾五圓四拾六錢四厘

國庫補助金 金九千參百九拾五圓六拾九錢貳厘

財產賣却代 金七拾圓

臨時部合計金四萬五千八百貳拾五圓六拾貳錢四厘

內郡市收入 金四千四百參拾四圓四拾六錢八厘

內郡市收入 金四萬千參百九拾壹圓拾五錢六厘

歲入總計金百六萬七千貳百拾貳圓貳拾七錢四厘

內 郡 收 入

金五萬六千圓拾五錢貳厘

金百壹萬千貳百拾貳圓拾貳錢貳厘

郡 市 收 入

歲 經 常 部 出

警 察 費

金拾參萬參千九百七拾九圓八拾八錢八厘

警 察 廳 舍 修 繕 費

金千六百六拾圓四拾四錢六厘

土 木 費

金拾參萬百參拾九圓五拾錢貳厘

縣 會 議 諸 費

金九千九百四拾圓貳拾四錢四厘

衛 生 及 檢 徵 費

金五千參拾九圓七拾壹錢貳厘

教 育 費

金拾貳萬七千八百五拾八圓七拾錢貳厘

郡 廳 舍 修 繕 費

金五百八拾六圓拾九錢五厘

郡 役 所 費

金五萬四千八百八拾壹圓參拾錢七厘

救 育 費

金參百貳拾四圓六拾七錢八厘

諸 達 書 及 揭 示 諸 費

金千參百八圓貳錢貳厘

勸 業 費

金六萬八千九拾四圓八拾參錢

縣 稅 取 扱 費

金壹萬七千六百九拾貳圓拾五錢

縣 廳 舍 修 繕 費

金六百參拾參圓五拾錢

衆 議 院 議 員 選 舉 費

金百四拾九圓七錢

縣 吏 員 費

金貳萬千九百六拾參圓參拾錢

河 川 管 理 費

金千百拾參圓六拾錢

縣 會 議 員 選 舉 費

金四拾壹圓六拾六錢

行 政 執 行 費

金貳百圓

財 產 費

金參百四拾九圓四拾六錢

收 用 審 查 會 費

金八拾四圓七拾參錢

統 計 費

金六百貳拾四圓參拾錢

豫 備 費

金壹萬圓

內

郡 負 擔

金千圓

郡 市 負 擔

金九千圓

經常部合計金五拾八萬五千九百六拾五圓貳拾九錢六厘

內 郡 負 擔	金五萬五千七百六拾七圓五拾錢貳厘
郡 市 負 擔	金五拾參萬百九拾七圓七拾九錢四厘
臨時部	
警察廳舍建築費	金貳千四百八拾八圓
土木費	金貳萬五千九百六圓五錢七厘
郡市町村土木補助費	金壹萬四千貳圓貳拾七錢四厘
市町村傳染病豫防補助費	金千八百圓
教育費	金壹萬四千六百八拾貳圓貳拾錢
教育補助費	金壹萬百五拾貳圓八拾四錢
勸業補助費	金千百貳拾參圓六拾四錢
勸業補助費	金壹萬八千六百六拾圓
郡廳舍建築費	金貳百參拾貳圓六拾五錢
縣債費	金貳拾參萬八千八百貳拾貳圓四拾參錢貳厘
罹災救助基金補充費	金壹萬圓
衛生補助費	金四百貳拾壹圓四拾五錢

追加豫算
特別會計豫算

慈惠事業補助費	金參百圓
小學校教員恩給金補充費	金貳千九百拾壹圓拾六錢九厘
河川改良工事費負擔	金拾參萬九千六百五拾四圓貳拾六錢六厘
教育費本年度支出額	金六拾圓
諸達書及揭示諸費	金參拾圓
臨時部合計金四拾八萬千貳百四拾六圓九拾七錢八厘	
內 郡 負 擔	金貳百參拾貳圓六拾五錢
郡 市 負 擔	金四拾八萬千拾四圓參拾貳錢八厘
歲出總計金百六萬七千貳百拾貳圓貳拾七錢四厘	
內 郡 負 擔	金五萬六千圓拾五錢貳厘
郡 市 負 擔	金百壹萬千貳百拾貳圓拾貳錢貳厘
(2) 明治三十八年度歲出追加豫算	
決議の上通常豫算へ合算せしものに付記載を省略する。	
(3) 明治三十八年度特別會計歲入歲出豫算(十五件)	
入	出

罹災救助基金	金八萬參千參百五拾五圓四拾四錢	歲入ニ同シ
慈惠救濟資金	金參千七拾貳圓六錢壹厘	同
水災基金	金貳百貳拾貳圓拾四錢八厘	同
衛生基金	金九拾九圓四厘	同
教育資金	金貳萬六千七百五拾九圓九拾貳錢參厘	同
市町村立小學校教員加俸資金	金五萬八千百五拾五圓四拾錢八厘	同
小學校教員恩給基金	金千九百九拾參圓七錢貳厘	同
小學校教員恩給金	金五千四圓九拾八錢	同
富山縣師範學校基本財産	金百四拾五圓貳拾八錢九厘	同
縣立富山中學校基本財産	金參拾九圓四拾參錢	同
縣立高岡中學校基本財産	金參拾圓九拾參錢參厘	同
縣立魚津中學校基本財産	金貳拾壹圓五拾參錢	同
縣立高等女學校基本財産	金拾貳圓參拾參錢	同
縣立工藝學校基本財産	金千百拾五圓四拾四錢	同
縣立農學校基本財産	金千百六拾五圓五拾錢九厘	同

留學生學資補助

土木費繼續方法變更

追加豫算

(4) 東亞同文書院留學生學資補助
 本縣より派遣せし在上海の同留學生は、明治三十七年度限りにて卒業歸縣に付、更に二名を派遣し、明治三十八年九月より三ヶ年間留學の契約を以て、一人一ヶ月學資金貳拾圓及び往復旅費を補助することとした。

- (5) 自明治三十八年度土木費繼續年期及支出方法中變更
 一、自明治三十九年度至明治四十年度トス
 一、明治三十八年度ノ支出額ヲ明治三十九年度ニ、明治三十九年度ノ支出額ヲ明治四十年度ニ繰下グ
 (6) 明治三十七年度歲入歲出追加豫算

歲入 臨時部	金八千百拾七圓參拾四錢四厘
歲出 臨時部	金六百四拾八圓
土木費	金七千四百六拾九圓參拾四錢四厘
郡市町村土木補助費	金七千四百六拾九圓參拾四錢四厘
歲出合計	金八千百拾七圓參拾四錢四厘

第三章 縣會議事(明治年代)

(7) 明治三十七年度歳入歳出追加豫算

歳入臨時部	歳出臨時部
越金	越金
金四千貳百四拾參圓	金四千貳百四拾參圓
土費	土費
金四千貳百四拾參圓	金四千貳百四拾參圓

縣會議規則

(8) 富山縣會々議規則(改正)

第一章 通則

第一條 會議ハ午前九時ニ始メ午後三時ニ終ル但時宜ニ依リ議長之ヲ伸縮ス

第二條 會議ノ開閉ハ號鈴ヲ以テ之ヲ報ス

第三條 議員ノ席次ハ改選後ノ初回ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ一改選期間据置クモ
ノトス

補缺議員ハ前任者ノ席次ヲ襲クモノトス

補缺ニ依リ同時ニ選舉セラレタルモノ一選舉區ニ二名以上アルトキハ其議員ノ席
次ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 大祭日祝日及日曜日ハ休會スルモノトス但都合ニ依リ會議ヲ開クノ必要ア

ルトキハ議長ニ於テ豫メ之ヲ宣告スヘシ

第五條 改選後ノ初會ニ於テ議長副議長ヲ選舉スル場合ニ於ケル議長ノ職務ハ出席
議員中ノ年長者之ヲ行フ但年長者二人以上アルトキハ抽籤ニ依ル

前項ノ規定ハ議長副議長共缺員ノ爲メ其選舉ヲ行フ場合若クハ議長副議長共故障
アル爲メ臨時ニ假議長ヲ選舉スル場合ニ之ヲ適用ス

第六條 會議中議題外ニ起リタル事件ハ議長之ヲ決ス但事重大ナリト認ムルトキハ
會議ノ議ニ附スルコトアルヘシ

第七條 會議中ハ議長及議員ノ氏名ヲ稱ヘスシテ議長ハ職名議員ハ席次ノ番號ヲ呼
フヘシ

第八條 開議時刻一時間ヲ過キ議長副議長共ニ出席セサルトキハ假議長ヲ互選シ議
事ヲ開クヘシ

第九條 開議時刻ニ至リ出席議員定數ニ滿タサルトキハ一時間ヲ過キ之ヲ點檢シ尙
定數ニ滿タサルトキハ更ニ二時間ヲ經之ヲ點檢スヘシ此場合ニ於テ尙定數ニ滿タ
サルトキハ議長ハ當日開議セサルコトヲ宣告シ退散ヲ命スヘシ但本條ノ場合ニ際
シ議長副議長共ニ出席セサルトキハ出席議員自ラ退散シ當日ノ會議ヲ開カサルモ

ノトス

第十條 此規則ハ議員三分ノ一以上ノ請求アルニアラサレハ改正ノ議ニ附スルコトヲ得ス

第十一條 此規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス若シ議員三名以上ノ異議アルトキハ會議ノ決スル所ニ依ル

第一章 議事日程

第十二條 議長ハ會議ノ終リニ於テ次回ノ議事日程ヲ報告スヘシ

第十三條 緊急事件ニ付開議ノ動議ヲ起スモノアルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ議長ハ討議ヲ用キスシテ會議ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

知事又ハ其委任若クハ囑托ヲ受ケタル官吏ノ請求アリタルトキ亦同シ

第十四條 議事日程ニ定メタル事件ニシテ當日開議シ得サルトキ又ハ其事件ノ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其日程ヲ定メ報告スヘシ

第十五條 日程ニ定メタル事件ヲ議了シタルトキハ議長ハ日程ノ追加ヲ爲スコトヲ得

第十六條 議事日程ヲ定メ又ハ之ヲ變更シ若シクハ追加シタルトキハ知事ニ報告ス

ヘシ

第三章 會議

第十七條 議案又ハ報告書ハ議長之ヲ議員ニ頒布ス

第十八條 會議ヲ開クトキハ議長ハ諸般ノ報告ヲ爲シ然ル後議事日程ニ入り修正意見提出ノ順序ニ依リ其説明ヲ爲サシムヘシ

第十九條 議長ハ會議ニ附スル議案ヲ開議前書記ヲシテ朗讀セシムヘシ但議長ノ意見ニ依リ便宜本條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 會議ハ第一讀會第二讀會第三讀會ニ區別ス但議決ノ緊急ヲ要スルモノ又ハ簡易ノ議題ハ會議ノ議決ニ依リ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトアルヘシ

第一讀會ニ於テハ議案ニ對シ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決議ス若シ第二讀會ヲ開クヘカラスト議決スルトキハ其議案ハ消滅スルモノトス

第二讀會ニ於テハ議案ノ逐條又ハ逐項ニ就キ決議ス若シ否決スルトキハ其條項ハ消滅スルモノトス但議長ノ意見又ハ議員二名以上ノ求メニ依リ逐條又ハ逐項審議

ノ順序ヲ變更シ若クハ數條數項ヲ聯貫シテ會議ノ議ニ附スルコトヲ得

第三讀會ニ於テハ全案又ハ條項ニ就キ議決ス

説明ヲ求メ及參事會ノ意見ヲ報告スルハ第一讀會ニ於テ之ヲ爲スヘシ但止ムヲ得サル場合ニ於テハ説明ニ限り議長ノ許可ヲ經テ第二讀會以下ニ於テモ之ヲ求ムルコトヲ得

第四章 動議及建議

第二十一條 動議及建議ハ其案ヲ具シ定規ノ賛成者ト連署シ議長ニ提出スヘシ但簡易ノ事項ハ議長ノ許可ヲ受ケ口頭ヲ以テ陳述スルコトヲ得

第二十二條 第一讀會第二讀會及順序ヲ省略シタル讀會ニ於テ賛成ナキモノ及第三讀會ニ於テ五名以上ノ賛成ナキ動議ハ議題ト爲スコトヲ得ス

建議ハ五名以上ノ賛成アルニアラサレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第二十三條 動議ノ否決セシモノハ同讀會ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第二十四條 否決シタル建議ハ其會期內ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第五章 發言及討議

第二十五條 發言セント欲スルモノハ起立シテ議長ヲ呼ヒ自己ノ番號ヲ告ケ議長ノ許可ヲ俟テ發言スヘシ若シ同時ニ二人以上發言ヲ求ムルトキハ議長ハ其一人ヲシテ發言セシムヘシ但豫メ賛成反對ノ意志ヲ表シテ發言ヲ求ムルノ通告アリタル時

ハ其順序ニ依リ賛否交互ニ發言ヲ許スヘシ

凡ソ討論問答其他ノ發言ト雖モ議長ニ向テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 一議題未タ議了セサル間ハ他ノ議題ニ就キ發言スルコトヲ得ス

第二十七條 動議及建議ノ議題トナラサルモノハ之ヲ駁スルコトヲ得ス

第二十八條 發言及討議ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第二十九條 議長自ラ討議ニ與ラントスルトキハ副議長ヲシテ議長席ニ就カシメ議

席ニ於テ發言スヘシ其議題ノ採決アル迄ハ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第三十條 辯論未タ終ラスト雖モ議長ニ於テ論旨盡キタリト認ムルトキハ討論ノ

終結ヲ宣告ス若シ議員三名以上ノ異議アルトキハ討論ヲ用キスシテ會議ノ決ヲ採

ルヘシ

第六章 決 議

第三十一條 議長採決ヲ爲サントスルトキハ採決ニ附スヘキ議題ヲ宣告スヘシ議長宣告ノ後議員ハ其議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第三十二條 修正ノ動議ハ原案ニ先チ採決スヘシ

修正ノ動議數個アル場合ニ於テハ原案ニ最モ遠キモノヨリ順次採決スヘシ若シ其

順序ニ就キ異議ヲ唱フルモノアリテ賛成者アルトキハ討論ヲ用キスシテ可否ヲ決スヘシ

第三十三條 採決宣告ノ際議席ニアラサル議員ハ決議ニ加ハルコトヲ得ス
第三十四條 議案朗讀ノ後暫クシテ發言ナキトキハ議長ハ全會異議ナキモノトシテ決定スルコトヲ得

第三十五條 議席ニ在ル議員ハ可否ノ數ニ加ハラサルコトヲ得ス

第三十六條 可否ヲ決スルノ法ハ起立投票ノ二種トシ議長便宜其一ヲ用フ

第三十七條 可否ノ數ハ書記ヲシテ之ヲ計算セシメ議長之ヲ宣告ス

第三十八條 議員ハ可否ヲ表シタル後ニ於テ意見ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第七章 小會議

第三十九條 小會議ハ第二讀會以下ニ於テ議論數派ニ岐レ敦レモ過半数ニ至ラサルトキ之ヲ開ク

第四十條 小會議ニ於テ纏リタル説ハ更ニ本會議ノ議ニ付スヘシ但此場合ニ於テ他ノ異説ヲ發スルコトヲ得ス

第四十一條 小會議ハ傍聽ヲ禁ス

第八章 審査委員

第四十二條 議案又ハ報告書ノ性質ニ依リ特ニ審査ヲ要スルトキハ會議ノ議決ニ依リ審査委員ヲ設クルコトヲ得

審査委員ノ數ハ奇數トシ内一人ハ發議者ヲ加フヘシ但其員數ハ會議ノ議決ニ依ル

第四十三條 委員ハ發議者ノ外議員ノ互選ニ依ル但會議ノ議決ニ依リ便宜議長ニ其指名ヲ委托スルコトヲ得

第四十四條 審査委員ノ權限ハ其委托ヲ受ケタル事件ノ外ニ出ルコトヲ得ス

第四十五條 審査委員會ニ於テハ委員長ヲ互選シ委員會ノ會議ヲ整理シ其秩序ヲ保持ス

第四十六條 審査委員會ノ決議ハ定數ノ過半数ニ依ルヘシ其可否同數ナル場合ニ於テハ委員長之ヲ決ス

第四十七條 委員會ノ決議ハ委員長ヨリ會議ニ報告スヘシ

第九章 會議錄及速記錄

第四十八條 會議錄ニ署名スヘキ議員ノ數ヲ三名ト定ム

會議錄ハ之ヲ調製シタル書記ヲモ署名セシムヘシ

第四十九條 議長ハ會議録ノ外速記者ヲシテ速記録ヲ作ラシムヘシ但臨時會ニ在リテハ書記ヲシテ議事筆記ヲ作ラシメ速記録ニ代フルコトヲ得

第五十條 府縣制第五十九條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ會議録及速記録ニ記載セス

第十章 議場ノ秩序

第五十一條 議員出席シタルトキハ議長室ニ備ヘアル出席簿ニ捺印スヘシ

關席スル時ハ開會時刻前ニ其事由ヲ議長ニ届出ツヘシ

第五十二條 開議後出席シタル議員ハ議長ニ遲參ノ理由ヲ告ケテ着席スヘシ

議席ヲ離ル、場合ニ於テモ亦同シ

第五十三條 議場ニ入ルモノハ洋服若クハ羽織袴ヲ着用スヘシ

第五十四條 會議中ハ議員相私語シ或ハ吸煙スヘカラス

第五十五條 凡テ秩序ニ關スル問題ハ議長之ヲ決ス但議長ハ會議ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

一、本規則中第五條は、内務大臣の更正に係るものである。

(9) 富山縣會傍聽人取締規則(改正)

縣會傍聽人
取締規則

第一條 會議ノ傍聽ヲ爲サント欲スルモノハ其住所氏名ヲ記シタル名刺ヲ受付係ニ差出シ傍聽券ヲ受ケ入場シ退場ノ節ハ之ヲ返納スヘシ但年齡滿二十歲以上ノモノニ限ル

第二條 傍聽人多數ナルトキハ其人員ヲ制限スルコトアルヘシ

第三條 傍聽人傍聽席ニ在テハ靜肅ヲ主トシ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、帽子又ハ外套ノ類ヲ着用スヘカラス

二、傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス

三、飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス

四、會議ノ言論ニ對シ可否ヲ爲スヘカラス

五、互ニ相談話シ其他喧騒ニ涉ルノ言動ヲ爲スヘカラス

六、受付係ノ許可ヲ經テ僅少ノ物品ハ之ヲ携帯スルコトヲ得但受付係ニ於テ其物品ノ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四條 左ニ記載シタルモノハ傍聽ヲ禁ス

一、瘋癲白痴者

二、銘酊者

第三篇 縣會史上

縣會議員等
費用辨償規
則

- 三、兇器其他凶險ト認ムル物品ヲ携帯スル者
- 四、他人ノ厭忌スヘキ疾病ニ罹ル者
- 五、被豫戒命令者

第五條 議長ヨリ傍聽禁止ノ命アルトキハ勿論小會議ノ宣告アルトキハ直ニ退場スヘシ

第六條 着席退席及前各條ニ定ムルモノ、外總テ受付係ノ指揮ニ從フヘシ

(10) 縣會議員名譽職參事會員費用辨償規則(改正)

第一條 縣會議員名譽職參事會員ノ費用辨償ハ左ノ二種ヲ以テス

一、旅費

一、手當

第二條 旅費ハ參會及閉會歸郷ノ時之ヲ支給ス

名譽職參事會員ニシテ法令ニ基キ旅行スル時ハ旅費ヲ支給ス

第三條 前條第二項ノ旅行ニ在リテハ出發前順路及發着年月日ヲ知事ニ届出ルヲ要ス

第四條 凡テ會議ノアルヘキ日ニ旅行スルトキハ其日ノ日當宿泊料ヲ支給セス

第五條 旅費ハ別表第一號ノ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第六條 縣廳所在地ヲ距ル一里未滿ノ地ニ住所ヲ有スル者ハ參會歸郷ノ旅費ヲ支給セス

第七條 手當ハ別表第二號ノ定額ニ依ル但縣廳所在地ニ住所ヲ有スル者ノ手當ハ半額トス

第八條 名譽職參事會員ニハ議長副議長議員ノ手當ヲ支給セス

第九條 名譽職參事會員ノ手當ハ其當選シタル當月分ヨリ支給ス但名譽職參事會員補充員ヨリ名譽職參事會員ニ就職シタル時ハ其就職ノ當月分ヨリ支給ス

失職退職死亡ノ場合ハ其當月分迄支給ス

第十條 職務及住所ノ異動ニ伴ヒ手當ノ支給額ニ異動ヲ生シタル時ハ額ノ多キ一方ニ依リ支給ス

第十一條 縣會ノ招集ニ應セサル者及在職中縣會ノ招集ナキ時ハ手當ヲ支給セス

第十二條 通常縣會臨時縣會ヲ問ハス出席日數開會日數ノ半ニ至ラサル者ニハ事故ノ如何ニ拘ハラス手當ノ半額ヲ支給ス

第十三條 議長副議長議員ノ手當ハ左ノ方法ニ依リ支給ス但一年度内中途ニ當選シ

タル者ハ當選後開會ノ縣會ヨリ支給ス

一、通常縣會ニハ閉會ノ際年手當ノ三分ノ二

二、臨時縣會ニハ閉會ノ際年手當ノ六分ノ一宛

三、臨時縣會ノ招集三回以上ナル時ハ新タニ當選ノ者ニ限り閉會ノ際年手當ノ六分ノ一

四、一年度内臨時縣會ノ招集一回ナル時若クハ臨時縣會ノ招集ナキ場合ハ其年度末ニ殘額ヲ精算支給ス

五、通常縣會閉會後精算時期到達前失職退職死亡ノ者ニハ通常縣會後臨時縣會ノ招集ナキ場合ニ限り其年度末ニ殘額ヲ精算支給ス

第十四條 名譽職參事會員全月出席セサル時ハ事故ノ何タルヲ問ハス月手當ヲ支給セス

第十五條 名譽職參事會員ノ手當ハ毎月下旬ニ之ヲ支給ス

第十六條 名譽職參事會員失職退職死亡ノ場合及府縣制第七十四條第一項但書ニ依リ補充セラレタル者ノ手當ハ其時々之ヲ支給ス

第十七條 旅費ニ付テハ本規則ニ定ムルモノ、外内國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

附 則

第十八條 此規則ハ明治三十八年四月一日ヨリ實施ス

第一號

旅 費 額

種	汽 車	船	車	宿 泊	日
目	賃	賃	賃	料	當
標 準	一 哩ニ付	一 海里ニ付	一 里ニ付	一 夜ニ付	一 日ニ付
金 額	五 錢	五 錢	貳 拾 錢	壹 圓 貳 拾 錢	八 拾 錢

第二號

手 當

職 名	議 長	副 議 長
種 別	同	同
金 額	貳 百 圓	百 七 拾 圓

第三章 縣會議事(明治年代)

議 員

名譽職參事會員

府縣制第七十四條第一項
但書ニ依リ臨時補充ノ者

日	月	同	額	額
			百五拾圓	四拾五圓
			貳圓五拾錢	

八四八

一、△印は參圓の決議なりしを、内務大臣に於て更正許可のものである。

(11) 縣有土地建物處分

縣立農學校々舎新築に伴ひ、左記の建物及び土地不用に屬するに由り、無償を以て元寄附者福野町へ讓與すること。

東礪波郡福野町大字福野村

一 縣立農學校舊校舍 一棟

此坪數四十坪 價格金六拾圓

一 同舊校舍敷地 一反七畝八步八合三勺三才

此價格金參百拾壹圓參拾錢

但福野町大字福野村字畑島八百四十八番地ノ二合併郡村宅地七反七畝二歩ノ内

(12) 諮問

土地等處分

諮問

議及

常願寺川水源地ニ國庫補助ヲ受ケ明治三十八年度ニ於テハ工事費約金壹萬五千圓以內ヲ以テ砂防工事ヲ施行セントス
但本豫算ハ後日縣參事會ニ附議スルコトアルヘシ
(13) 議及(八件)
明治三十八年度歲出經常部に關するものは土木費一件、同臨時部に關するものは警察廳舎建築費土木費教育費教育補助費各一件、勸業補助費二件で、外に支金庫事務取扱に關するもの一件を議及した。

建議

(14) 建議(六件)

(一) 本年十月縣令第五十三號補正の件、(二) 縣立學校通路改修の件、(三) 常願寺川水利上の件、(四) 預金利率一定の件、(五) 道路(泊町より長野縣に通ずる荒砥越)開鑿の件、(六) 米穀検査施行に關する件を建議した。

出征軍慰問

(15) 出征陸海軍の慰問

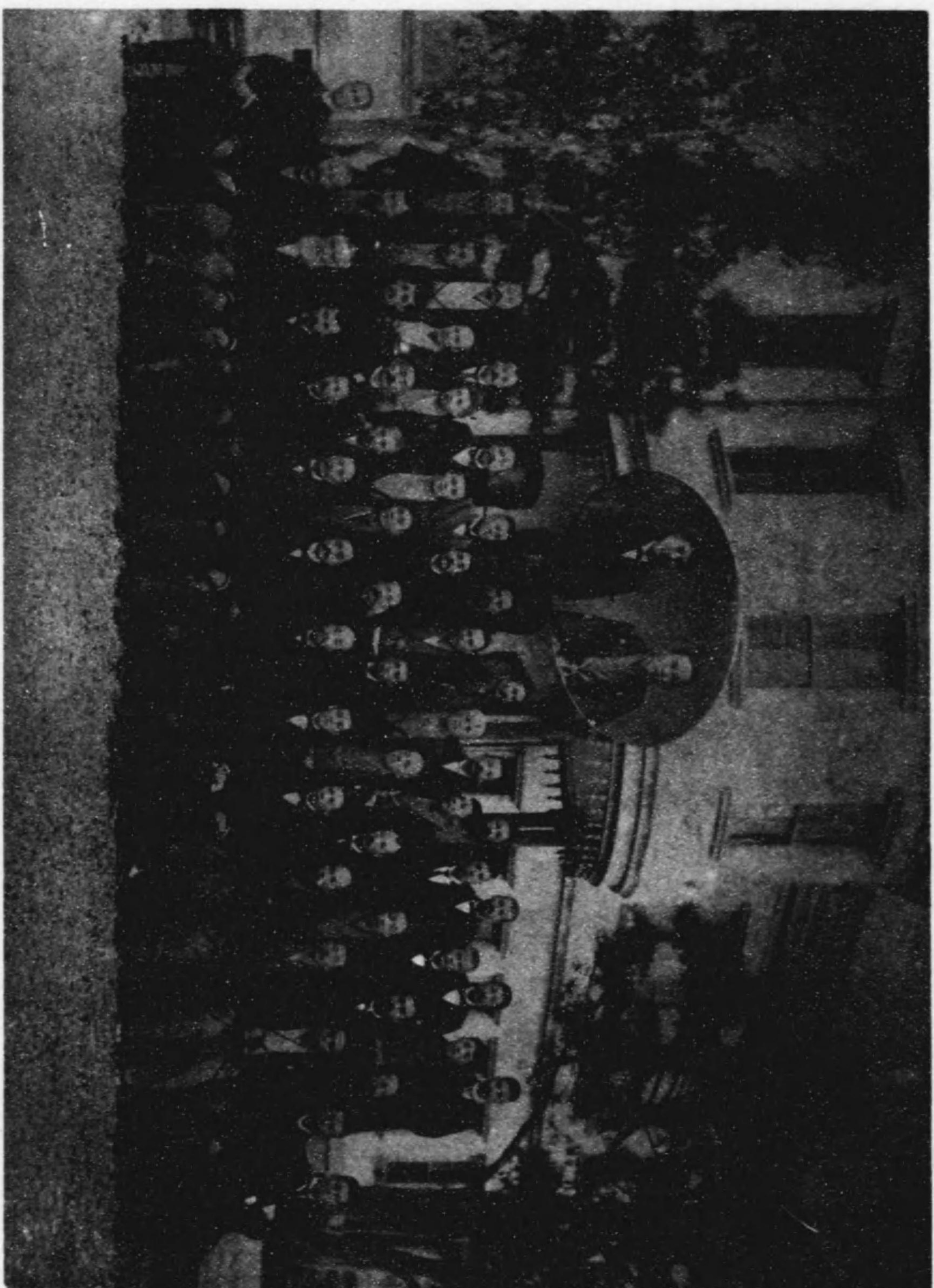
會期の始に於て滿場一致の決議に依り、大山滿洲軍總司令官、黒木第一軍、奥第二軍、野津第四軍の各司令官、東郷聯合艦隊司令長官、乃木第三軍司令官、大島第九師團長に對し、議長名を以て慰問狀を發した。

特殊事項

議長知事等の陳謝

(1) 議長知事等の陳謝

土木費及び縣吏員費の第一讀會に於て、石黒十九番より土木出張所廢止の結果如何の質問に對し、田中參與員は、河川主任吏員は私宅に於て受負人と會見せねばならぬことあり、官紀維持の上にも大に關係を有す。云々と答へたことから問題が起つた。藤田三番は、官紀上如何はしとは聞捨にならぬ。斯かる事を確認せし以上は如何なる處置を爲せしか、又其の事實を詳述せよと迫り、石黒十九番松島二十九番亦之に賛した。然るに田中參與員の答辯甚だ宜しきを失し、事態愈々面倒に陥つたが、鈴木參與員の辯明に依つて漸く事なきを得た。續いて之に關聯する速記録を田中寺崎の兩參與員が變造したことより、又々速記録審査委員五名を議長指名にせんとの説が出で、更に議長も責任者であるからとて選舉説が主張せられ、議長もまたその指名を謝絶した。依つて年長議員中田七番より押田一番藤田三番藤村十八番石黒十九番松島二十九番を指名し、其の結果として、議長は書類管理の不注意を陳謝し、知事は參與員中説明不良の爲、議事の妨を爲し且速記録を慣例と異なる範圍に於て加筆修補せし點は將來深く注意する旨を陳謝し、寺崎參與員亦



員 議 會 縣 月九年六十三治明自
月九年十四治明至

議事堂建築
の問答

陳謝の意を表して局を結ぶことになつた。尙其の後土木費第二讀會に於て、田中參與員も辯明の序を以てこの件に關し、敢て惡意を以てせしにあらざる旨を述べて陳謝する所があつた。

(2) 縣會議事堂建築の問答

十一月十一日縣會議費第一讀會に於て、藤田三番は、縣會議事堂を何時まで借屋住居にするか、富山縣貧なりと雖夫れ位の力なしとは云ふべからず。寧ろ我が國有史以來の征戰記念として大議事堂を建築しては如何と質問し、鈴木參與員は之に答へて、實は提案の豫定なりしも、時局の爲之を差控へたのである。又戰役記念にと云ふ説なるが、當局者は其處までは考へ居らずと、巧に三番の擲論に酬いた。翌日の富山日報は「縣會傍聽餘録」にこの質問を捉へて左の記事を載せた。

三番云く記念議事堂を建て、其上に分捕大砲でも飾るべしと、傍聽者云く、大砲ならば議員の分で澤山だ、三番(藤田)・十九番(石黒)の十二吋砲、二十六番(田村)・二十九番(松島)の二十八吋砲、三十番(黒田)の機關砲、此上に分捕大砲と來ては參與員は堪まるまい。

六四、明治三十八年十一月通常縣會

議員の力量
評

本會は明治三十八年十一月一日開會同月三十日閉會した。議長は大橋十右衛門議員
席次は前會に同じく、知事は李家隆介で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百七萬四千七
百九拾四圓餘であつた。

議 件

議事件名

議事件名は明治三十九年度歳入歳出豫算 同上歳入歳出追加豫算 同上特別會計歳
入歳出豫算十五件 明治三十八年度歳出豫算變更 同上歳入歳出追加豫算 自明治三十
九年度勸業費中戰役記念森林費繼續年及支出方法 自明治三十九年度勸業費中第九回(三
重縣開催)關西府縣聯合共進會費繼續年及支出方法 自明治三十四年度教育費繼續年
期及支出方法中變更(否決) 自明治三十九年度土木費繼續年及支出方法中變更 營業
稅雜種稅課目課額中改正 縣稅賦課規則中改正 法人建物稅賦課規則中改正 明治三
十七年度歳入歳出決算報告 議及五件 建議三件 名譽職參事會員補充員の選舉であ
つた。

議 決 摘 要

三十九年度
豫算

(1) 明治三十九年度歳入歳出豫算

地	租	割	金五拾四萬八千六百六拾九圓五拾九錢四厘
內	郡	收 入	金四萬貳千五百六拾八圓九拾六錢貳厘
	郡	市 收 入	金五拾萬六千百圓六拾參錢貳厘
			但本年地租豫算高金七拾九萬四千五百六圓四拾八錢七厘(內金六千九 拾貳圓參拾八錢、富山市、高岡市)、地租壹圓ニ付市金六拾參錢七厘、町村金六 拾九錢壹厘
營	業	稅	金參萬四千四百拾九圓參拾四錢參厘
雜	種	稅	金九萬八千九百拾九圓拾四錢六厘
營	業	稅 附 加 稅	金壹萬九千八百貳拾貳圓六錢八厘
戶	數	割	但國稅金九萬九千百拾圓參拾四錢ノ十分ノ二
內	郡	收 入	金拾七萬貳千四百七拾八圓貳拾貳錢四厘
			金壹萬貳千八百六拾八圓九拾五錢六厘

郡市收入

金拾五萬九千六百九圓貳拾六錢八厘

但本年總戶數十二萬五千二百八十二戶(內六千二百二十五戶高岡市)戶數一戶二付市壹圓貳拾七錢四厘町村壹圓參拾八錢貳厘

家屋稅 金壹萬四千九百七拾六圓九拾壹錢七厘

但本年富山市總坪數二十五萬三千二百坪一坪二付五錢九厘九毛

財產收入 金參百八拾壹圓六拾五錢

內 郡收 金貳圓

內 郡市收入 金參百七拾九圓六拾五錢

國庫下渡金 金貳萬參千五百八拾參圓貳拾九錢

河川收入 金八百六拾圓參拾七錢

雜收 金拾萬八千貳百七拾參圓七拾壹錢壹厘

內 郡收 金貳百五拾參圓八錢

內 郡市收入 金拾萬八千貳拾圓六拾參錢壹厘

經常部合計金百貳萬貳千參百八拾四圓參拾壹錢參厘

內 郡收 金五萬五千六百九拾貳圓九拾九錢八厘

郡市收入 金九拾六萬六千六百九拾壹圓參拾壹錢五厘

臨時部

繰越金 金參萬貳千七百八拾參圓四拾五錢貳厘

內 郡收 金六拾壹圓九錢貳厘

內 郡市收入 金參萬貳千七百貳拾貳圓參拾六錢

國庫補助金 金壹萬九千四百八拾六圓七拾貳錢

財產賣却代 金參拾九圓九拾七錢

公債證書償還金 金百圓

臨時部合計金五萬貳千四百拾圓拾四錢貳厘

內 郡收 金六拾壹圓九錢貳厘

內 郡市收入 金五萬貳千參百四拾九圓五錢

歲入總計金百七萬四千七百九拾四圓四拾五錢五厘

內 郡收 金五萬五千七百五拾四圓九錢

內 郡市收入 金百壹萬九千四拾圓參拾六錢五厘

歲出

經常部

警察廳舍修繕費	金拾參萬七千六百五拾八圓五拾參錢
警察廳舍修繕費	金千五百八拾五圓六拾五錢
土木費	金拾壹萬千貳百貳拾八圓貳拾八錢
縣會議諸費	金九千九百參拾參圓拾貳錢
衛生及檢徵費	金四千七百拾參圓四拾九錢
教育費	金拾貳萬七千五百七拾九圓
郡廳舍修繕費	金四百七拾四圓拾八錢
郡役所費	金五萬參千九百九拾圓貳拾八錢
救育費	金參百參圓壹錢
諸達書及揭示諸費	金千貳百六圓貳拾七錢
勸業費	金七萬四千百參拾壹圓四拾五錢
縣稅取扱費	金壹萬八千六拾九圓貳拾八錢九厘
縣廳舍修繕費	金七百六拾參圓五拾錢
衆議院議員選舉費	金百四拾九圓七錢

縣吏員費	金參萬千五拾四圓貳拾四錢
河川管理費	金千百拾參圓六拾錢
縣會議員選舉費	金四拾壹圓六拾六錢
行政執行費	金貳百圓
財產費	金參百四拾九圓四拾六錢
收用審查會費	金八拾四圓七拾參錢
統計費	金六百拾八圓八拾貳錢
豫備費	金壹萬圓
內 郡負擔	金千圓
內 郡市負擔	金九千圓
經常部合計金	五拾八萬五千貳百四拾七圓六拾貳錢九厘
內 郡負擔	金五萬五千四百六拾四圓四拾六錢
內 郡市負擔	金五拾貳萬九千七百八拾參圓拾六錢九厘
警察廳舍建築費	金參千參百四拾六圓參拾八錢
臨時部	

土木補助費	金參萬七千貳百五拾九圓九拾九錢
郡市町村土木補助費	金壹萬四千圓
市町村傳染病豫防補助費	金千八百圓
教育費	金壹萬四百九拾圓貳拾五錢
教育補助費	金壹萬貳千六拾圓
勸業補助費	金五千八百拾五圓六拾壹錢
勸業補助費	金壹萬七千六拾圓
郡廳舍建築費	金貳百八拾九圓六拾參錢
縣債費	金貳拾九萬九百四拾八圓六拾壹錢
衛生補助費	金四百貳拾壹圓四拾五錢
慈善事業補助費	金參百圓
小學校教員恩給金補充費	金六千貳百參拾圓貳錢
河川改良工事負擔費	金七萬千圓
教育費本年度支出額	金九千參百貳拾八圓五拾錢
縣廳舍建築費	金千七拾五圓七拾錢

追加豫算

特別會計豫算

勸業費本年度支出額	金八千百貳拾圓六拾八錢六厘
臨時部合計金四拾八萬九千五百四拾六圓八拾貳錢六厘	
內 郡 負擔	金貳百八拾九圓六拾參錢
內 郡市負擔	金四拾八萬九千貳百五拾七圓九拾九錢六厘
歲出總計金百七萬四千七百九拾四圓四拾五錢五厘	
內 郡 負擔	金五萬五千七百五拾四圓九錢
內 郡市負擔	金百壹萬九千四拾圓參拾六錢五厘
(2) 明治三十九年度歲入歲出追加豫算	
歲入總計金九百六拾貳圓、歲出總計金壹萬四百貳拾六圓貳拾錢を決議したが、通常豫算へ合算することにしたから記載を省略する。	
(3) 明治三十九年度特別會計歲入歲出豫算(十五件)	
罹災救助基金	歲入 金四萬參千參百拾四圓七拾六錢八厘
慈惠救濟資金	歲入 金參千貳百參拾四圓四拾七錢
水災基金	歲入 金貳百四拾五圓
同	同
同	同

衛生基金	金百九圓貳拾五錢	同
教育基金	金壹萬五千七百七拾參圓九拾壹錢八厘	同
市町村立小學校教員加俸資金	金五萬七千壹圓七拾六錢	同
小學校教員恩給基金	金貳千貳拾貳圓	同
小學校教員恩給金	金八千四百八拾九圓九拾壹錢	同
富山縣師範學校基本財產	金百四拾七圓六拾錢	同
縣立富山中學校基本財產	金參拾九圓六拾八錢	同
縣立高岡中學校基本財產	金貳拾參圓八拾壹錢	同
縣立魚津中學校基本財產	金貳拾五圓四錢	同
縣立高等女學校基本財產	金拾貳圓參拾參錢	同
縣立工藝學校基本財產	金千百貳拾四圓貳錢	同
縣立農學校基本財產	金千參百拾四圓參拾七錢	同
(4) 明治三十八年度歲出豫算變更		同
歲出臨時部		同
歲入二同ジ	金壹萬九千七百五拾七圓四拾錢 (差引殘高參萬七千貳百四拾四圓參拾六錢)	同

豫算變更

追加豫算

勸業補助費	金壹萬八千六百六拾圓	既定豫算高	變更豫算高
(5) 明治三十八年度歲入歲出追加豫算			金壹萬八千六百六拾圓
歲入經常部			
地租	金拾六萬四千四百六拾貳圓八拾四錢參厘		
但本年度地租豫算高金七拾九萬四千五百六圓四拾八錢七厘地租壹圓二付金貳拾錢七厘			
戶數	金五萬六千貳百四拾七圓六錢四厘		
但本年度總戶數十三萬六千五百二十二戶一戶二付金四拾壹錢貳厘			
雜收	金四百七拾圓		
經常部合計金貳拾貳萬千七百七拾九圓九拾錢七厘			
歲出經常部			
土木費	金貳萬四千參百七拾五圓		
勸業費	金九百六拾四圓四拾四錢		
縣稅取扱費	金貳千貳百四拾九圓八拾八錢		

經常部合計金貳萬七千五百八拾九圓參拾貳錢

歲出臨時部

土 費 金拾七萬千六百參拾四圓六拾九錢

郡市町村土木補助費 金貳萬貳千四百七拾參圓九拾九錢六厘

臨時部合計金拾九萬四千八百八圓六拾八錢六厘

歲出總計金貳拾貳萬千六百九拾八圓六厘

歲入出差引不足金五百拾八圓九錢九厘

不足金ハ別途提出ニ係ル豫算變更ヨリ生ズル殘金ヲ充用スルモノトス

勸業費繼續方法

(6) 自明治三十九年度勸業費中戰役記念森林費繼續年期及支出方法

一金拾貳萬貳千八百八拾八圓六拾貳錢 總 豫 算 高

內 譯

金五千八百七拾六圓九拾八錢 明治三十九年度支出額

金參千四百六拾七圓六拾四錢 明治四十年年度支出額

金參千七百五拾七圓參拾四錢 明治四十一年度支出額

金參千九百四拾七圓參拾四錢 明治四十二年度支出額

金四千貳百八拾五圓參拾四錢 明治四十三年度支出額

金四千五百四拾參圓參拾四錢 明治四十四年度支出額

金四千六百貳拾五圓參拾四錢 自明治四十五年度各年度支出額

金四千六百參拾七圓參拾四錢 自明治四十六年度各年度支出額

金四千六百四拾九圓參拾四錢 自明治四十七年度各年度支出額

金四千六百六拾壹圓參拾四錢 自明治四十八年度各年度支出額

金四千八百六拾壹圓參拾四錢 自明治四十九年度各年度支出額

金四千八百七拾參圓參拾四錢 自明治五十年度各年度支出額

金四千八百八拾五圓參拾四錢 自明治五十一年度各年度支出額

金五千貳百五圓參拾四錢 自明治五十二年度各年度支出額

金五千貳百拾七圓參拾四錢 自明治五十三年度各年度支出額

金五千百九拾圓五拾五錢 自明治五十四年度各年度支出額

金五千百貳拾九圓四拾五錢 自明治五十五年度各年度支出額

金五千參拾參圓參拾五錢 自明治五十六年度各年度支出額

金四千參百七拾壹圓八拾五錢 自明治五十七年度各年度支出額

勸業費繼續
方法

(7) 自明治三十九年度勸業費中第九回(三重縣主催)關西府縣聯合共進會費繼續年
期及支出方法

一金四千參百七拾九圓八拾錢參厘

總 豫 算 高

内 譯

金貳千貳百四拾參圓七拾錢六厘

明治三十九年度支出額

金貳千百參拾六圓九錢七厘

明治四十年支出額

教育費繼續
方法變更

(8) 自明治三十四年度教育費繼續年期及支出方法中變更(否決)
至明治三十九年度

本案は年期及び支出を一ケ年度延長するものなりしも否決。

土木費繼續
方法變更

(9) 自明治三十九年度土木費繼續年期及支出方法中變更
至明治四十年度

一、年期ヲ自明治四十年度トス
至明治四十二年度

一、明治三十九年度ノ支出額ヲ明治四十年度ニ明治四十年支出額ヲ明治四十一年
年度ニ繰下グ

縣稅賦課規
則中改正

(10) 縣稅賦課規則中改正

明治三十三年一月縣令第二號の同規則中一部改正を加へたもので、明治三十九年度よ
り富山市内の家屋に對し、其の所有者に家屋稅(年稅)を賦課することゝなつた。

議 及

(11) 議及(五件)

明治三十八年度追加豫算に關するもの二件(勸業費一件、都市町村土木補助費一件)、明
治三十九年度豫算に關するもの三件(勸業費一件、警察廳舎建築費一件、慈惠救助費一件)
を議及した。

建 議

(12) 建議(三件)

(一) 魚津中學校繼續費の件、(二) 高岡停車場高岡中學校間道路改修費の件、(三) 高等女學
校兼任校長手當に關し發案を求むる件を建議した。

特 殊 事 項

徹夜の開會

(1) 徹夜の開會

最終日たる十一月三十日には、毎會の例に依り議事夜半に至り、午後十一時四十五分に
閉會したが、本會は尙その前日たる二十九日に於ても午後より夜を徹して、翌拂曉に至つ
て休憩したのは、異例であつた。

好評の參與
員

(2) 鈴木參與員の好評

參與員書記官鈴木隆は明治三十二年以來、通常六回、臨時三回、計九回の縣會に參與し、本

會を限りとして他へ轉任した。圓轉滑脱議員の鋭鋒を柳に風と巧に受け流し、此の人一たび起てば如何に險惡なる空氣も忽ち緩和して議場は春風駘蕩の情景を呈するを常とし、一般より名參與員として賞讃されてゐた。

(3) 藤田議員の瀆職

議員藤田久信は縣參事會員として瀆職法に觸れ、本年七月三十一日、富山地方裁判所に於て重禁錮二ヶ月罰金拾圓に處し、滿二ヶ年刑の執行を猶豫するの判決を受けた。同人はこの判決に先だちて同二十九日縣會議員の職を辭した。

六五、明治三十九年十一月通常縣會

本會は明治三十九年十一月十五日開會、同十二月十四日閉會した。議長は大橋十右衛門、議員席次は前會に同じく、知事は川上親晴で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百參萬千六拾圓餘であつた。

議 件

議事件名は明治四十年年度歳入歳出豫算 同上特別會計歳入歳出豫算十七件 明治三

議事件名

開 閉

議員の瀆職

四十年年度豫算

十九年度歳入歳出追加豫算 自明治三十九年度勸業費中第九回關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法變更 自明治四十年年度教育費中新設高等女學校建築費繼續年期及支出方法 自明治四十二年度土木費中堤防改築費繼續年期及支出方法 自明治四十二年度縣會議事堂建築費繼續年期及支出方法(否決) 營業稅雜種稅課目課額中改正 縣稅賦課規則中改正 明治三十八年度歳入歳出決算報告 議及七件 米穀検査所建築の件建議 名譽職縣參事會員補充員(六名)の選舉であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治四十年年度歳入歳出豫算

歲 入	經 常 部	地 租	郡 市 收 入
金五拾壹萬五百拾八圓貳拾六錢參厘	金四拾六萬七千百六拾壹圓六拾參錢七厘	金四拾六萬七千百六拾壹圓六拾參錢七厘	但本年地租豫算高金七拾九萬四千四百九拾貳圓五拾八錢(內金六千九百九拾貳圓)

拾圓貳拾九錢富山市高岡市、地租壹圓二付市金五拾八錢八厘町村金六拾四錢參厘

營業稅 金參萬參千五百參拾六圓五拾八錢四厘

雜種稅 金拾萬貳千六百四拾圓五拾五錢四厘

營業稅附加稅 金壹萬九千八百四拾四圓四拾錢四厘

但國稅金九萬九千貳百貳拾貳圓貳錢ノ十分ノ二

營業稅附加稅 金貳百八拾五圓六拾錢

但營業稅金貳千八百五拾六圓ノ十分ノ一

戶數 割 金拾五萬千八百參拾圓四拾貳錢

內郡市收入 金壹萬貳千九百四拾六圓七拾八錢

郡市收入 金拾參萬八千八百八拾參圓六拾四錢

但本年總戶數十一萬七千六百九十八戶、戶數一戶二付町村壹圓貳拾九錢

家屋稅 金貳萬千參百參拾五圓四拾五錢四厘

但本年度富山市負擔額金壹萬參千九百五拾六圓貳拾錢五厘總坪數二十六萬千十坪、一坪二付五錢參厘四毛七

高岡市負擔額金七千參百七拾九圓貳拾四錢九厘、總坪數十六萬八千六百三十坪、一坪二付四錢參厘七毛六

財產收入 金四百八拾八圓六拾錢

內郡市收入 金六圓

內郡市收入 金四百八拾貳圓六拾錢

國庫下渡金 金貳萬七千四拾七圓九錢九厘

河川收入 金七百九拾八圓

雜種收入 金八萬八千七百拾參圓七拾四錢貳厘

內郡市收入 金貳百參拾八圓五拾貳錢七厘

內郡市收入 金八萬八千四百七拾五圓貳拾壹錢五厘

經常部合計金九拾五萬七千參拾八圓七拾貳錢

內郡市收入 金五萬六千五百四拾七圓九拾參錢參厘

內郡市收入 金九拾萬四百九拾圓七拾八錢七厘

臨時部

越時部 金七千七百七拾貳圓六拾六錢

特別會計豫算

郡市負擔	金參拾五萬參千六百拾六圓六錢四厘		
郡負擔	金五萬八千八百參拾六圓六拾錢		
內 郡市負擔	金九拾七萬貳千貳百貳拾參圓五拾參錢八厘		
(2) 明治四十年年度特別會計歲入歲出豫算(十七件)			
羅災救助基金	金四萬五千貳百拾五圓九拾八錢九厘	歲入	同
慈惠救濟資金	金參千四百五拾七圓九拾參錢四厘	歲入	同
水災基金	金貳百六拾貳圓參拾壹錢	歲入	同
衛生基金	金百拾五圓參拾四錢七厘	歲入	同
教育資金	金壹萬六千參百八拾四圓	歲入	同
市町村立小學校教員加俸資金	金四萬六千六百七拾壹圓	歲入	同
小學校教員恩給基金	金貳千百參拾四圓	歲入	同
小學校教員恩給金	金九千四拾八圓八錢八厘	歲入	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百八圓	歲入	同
羅災救助基金	金四萬五千貳百拾五圓九拾八錢九厘	歲入	同
慈惠救濟資金	金參千四百五拾七圓九拾參錢四厘	歲入	同
水災基金	金貳百六拾貳圓參拾壹錢	歲入	同
衛生基金	金百拾五圓參拾四錢七厘	歲入	同
教育資金	金壹萬六千參百八拾四圓	歲入	同
市町村立小學校教員加俸資金	金四萬六千六百七拾壹圓	歲入	同
小學校教員恩給基金	金貳千百參拾四圓	歲入	同
小學校教員恩給金	金九千四拾八圓八錢八厘	歲入	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百八圓	歲入	同
羅災救助基金	金四萬五千貳百拾五圓九拾八錢九厘	歲入	同
慈惠救濟資金	金參千四百五拾七圓九拾參錢四厘	歲入	同
水災基金	金貳百六拾貳圓參拾壹錢	歲入	同
衛生基金	金百拾五圓參拾四錢七厘	歲入	同
教育資金	金壹萬六千參百八拾四圓	歲入	同
市町村立小學校教員加俸資金	金四萬六千六百七拾壹圓	歲入	同
小學校教員恩給基金	金貳千百參拾四圓	歲入	同
小學校教員恩給金	金九千四拾八圓八錢八厘	歲入	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百八圓	歲入	同

追加豫算

縣立富山中學校基本財產	金四拾參圓	同
縣立高岡中學校基本財產	金四拾參圓	同
縣立魚津中學校基本財產	金參拾貳圓	同
縣立高等女學校基本財產	金拾參圓	同
縣立新設高等女學校基本財產	金六圓五拾錢	同
縣立工藝學校基本財產	金四千四拾七圓	同
縣立農學校基本財產	金千參百四拾六圓	同
縣立藥業學校基本財產	金六圓五拾錢	同
(3) 明治三十九年度歲入歲出追加豫算		
歲入 經常部	金七萬七百九圓八拾四錢	
地租 割	金七萬七百九圓八拾四錢	
但本年度地租豫算高金七拾九萬四千四百九拾貳圓五拾八錢地租壹圓ニ付金八錢九厘		
戶數 割	金壹萬參千五百九拾七圓五拾四錢	
但本年度總戶數十二萬三千六百十四戶、一戶ニ付金拾壹錢		

家屋稅 金千貳百貳拾六圓七拾四錢七厘

但本年度富山市總坪數二十六萬千十坪、一坪ニ付金四厘七毛

合計金八萬五千五百參拾四圓拾貳錢七厘

歲出經常部

土木費 金貳萬四千參百七拾五圓

教育費 金四百貳拾圓

縣稅取扱費 金五百九拾貳圓九拾七錢壹厘

經常部計金貳萬五千參百八拾七圓九拾七錢壹厘

歲出臨時部

土木費 金五萬七千四百六拾六圓

教育費 金千五百六拾八圓

英吉利病調查費 金千五拾七圓

臨時部計金六萬九拾壹圓

歲出合計金八萬五千四百七拾八圓九拾七錢壹厘

差引殘金五拾五圓拾五錢六厘

勸業費繼續方法變更

(4) 自明治三十九年度勸業費中第九回關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法
至明治四十年度變更

總豫算高	既定豫算高	變更豫算高
明治三十九年度支出額	金五千參百七拾九圓八拾錢參厘	金五千五百八拾六圓七拾四錢貳厘
明治四十年年度支出額	金參千貳百四拾參圓七拾錢六厘	金參千貳百四拾參圓七拾錢六厘
明治四十年年度支出額	金貳千百參拾六圓九錢七厘	金貳千參百四拾參圓參錢六厘

一、本表既定豫算高は、明治三十八年通常縣會の決議を明治三十九年九月縣參事會に於て變更したものである。

教育費繼續方法

(5) 自明治四十年年度教育費中新設高等女學校建築費繼續年期及支出方法
至明治四十三年度

總豫算高	既定豫算高	變更豫算高
一金七萬七拾貳圓		

內譯	明治四十年度支出額	明治四十一年度支出額	明治四十二年度支出額	明治四十三年度支出額
金參千四拾參圓				
金貳萬貳千七百四拾五圓				
金貳萬四千參百貳拾六圓				
金貳萬五百九拾八圓				

(6) 自明治四十年度土木費中堤防改築費繼續年及支出方法
 一金四萬五千八百五拾七圓五拾錢
 總 豫 算 高

内 譯

金六千八百圓 明治四十年支出額
 金貳萬貳千四百四拾圓 明治四十一年支出額
 金壹萬六千六百拾七圓五拾錢 明治四十二年支出額

一、本繼續年及自明治四十年度至明治四十一年度の發案を修正したものである。

(7) 縣稅賦課規則中改正

この改正に依つて、高岡市にも明治四十年度より家屋稅を賦課することゝなつた。

(8) 議及(七件)

明治三十九年度追加豫算土木費に關し一件、明治四十年度豫算に關し五件(勸業費二件、郡市町村土木補助費一件、教育補助費一件、慈善事業補助費一件)、自明治四十年度教育費繼續年及支出方法に關し一件の議及をした。至明治四十三年度教育

建議

(9) 建議

米穀検査所建築費提案方を建議した。

開會閉

六六、明治四十年十月臨時縣會

本會は明治四十年十月七日開會翌八日閉會した。議員改選の爲その席次を定め議長に大橋十右衛門當選し、知事は川上親晴であつた。

議 件

議事件名は議員席次の抽籤 議長、副議長の選舉 名譽職參事會員、同補充員の選舉であつた。

議 決 摘 要

議員席次

(1) 議員席次の抽籤

- | | | |
|-------------|-----------------|----------------|
| 一 番 安 井 幸 治 | 二 番 松 浦 勝 太 郎 | 三 番 中 屋 靜 二 |
| 四 番 佐々木 平兵衛 | 五 番 岡 部 長 左 衛 門 | 六 番 川 瀬 八 郎 |
| 七 番 武 田 久 作 | 八 番 野 崎 源 七 郎 | 九 番 齊 藤 宗 平 |
| 十 番 中 島 榮 吉 | 十一 番 矢 木 安 一 | 十二 番 川 崎 富 次 郎 |

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 十三番 脇坂靜之助 | 十四番 岩田大中 | 十五番 沖田正近 |
| 十六番 畑長三郎 | 十七番 大橋十右衛門 | 十八番 藤田久信 |
| 十九番 森丘覺平 | 二十番 玉生道寧 | 二十一番 石黒準太郎 |
| 二十二番 濱田長次郎 | 二十三番 藤永義治 | 二十四番 増山政次郎 |
| 二十五番 金武央 | 二十六番 川島十作 | 二十七番 島莊次 |
| 二十八番 澤木又八 | 二十九番 根尾宗四郎 | 三十番 富賀見欽十郎 |
| 三十一番 内山逸興 | | |

(異動) 三番中屋靜二明治四十四年二月辭職、加藤甚右衛門同年三月補缺。七番武田久作明治四十一年五月清次郎と改名。十八番藤田久信明治四十四年二月辭職、筱岡貞次同年三月補缺。二十番玉生道寧明治四十四年一月辭職、野村嘉六同年三月補缺。二十六番川島十作明治四十二年一月死亡、百谷傳兵衛同年二月補缺。二十七番島莊次明治四十四年二月辭職、島本正孝同年三月補缺。

正副議長の選舉

(2) 議長、副議長の選舉

十月八日年長議員沖田正近議長席に着き、其の儘假議長に推されて直ちに投票を以て議長選舉を行ひ、次に當選議長に依つて副議長の選舉に入り、議長よりこれを指名するこ

議員



脇坂靜之助



川瀬八郎



中島榮吉



増山政次郎



内山逸興



知長三郎



野村嘉六



川島十作

議員

と、した。其の結果は左の通りである。

〔議長〕 大橋十右衛門 十七票(當選) 沖田正近 三票

金武 央 二票

〔副議長〕 野崎源七郎 指名(當選)

特殊事項

兩派の軋轢

役員選舉に於て兩派の妥協ならず、少數の政派は沖田年長議長を擁して、先づ議長選舉を兩三日延期せんと唱へ、多數の進派は直ちに之を選舉すべしと主張し、議場は一時騷擾を極めたが、採決の末延期説は十三名にて敗れ、佐々木四番、玉生二十番を立會人として投票を行ひ、多數派の大橋十七番議長となりて一瀉千里、副議長名譽職、參事會員、同補充員を悉く議長の指名にて選舉を了した。

六七、明治四十年 十一月 通常縣會

本會は明治四十年十一月五日開會、同十二月四日閉會した。議長は大橋十右衛門議員

役員選舉の軋轢

開閉

席次は前會に同じく、知事は川上親晴で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百拾六萬五千百貳拾壹圓餘であつた。

議 件

議事件名は明治四十一年度歳入歳出豫算 同上特別會計歳入歳出豫算十七件 明治四十一年度歳入歳出追加豫算 自明治四十一年度 至明治四十三年度 教育費中高岡高等女學校建築費繼續年及支出方法變更 自明治四十一年度 至明治四十二年度 縣會議事堂建築費繼續年及支出方法 自明治四十一年度 至明治四十一年度 越中史編纂費繼續年及支出方法 自明治四十一年度 至明治四十二年度 土木費中兵營道路新築費繼續年及支出方法 縣稅賦課規則改正 營業稅雜種稅課目課額改正 慈惠救濟資金管理方法中改正 明治三十九年度歳入歳出決算報告 議及六件 建議八件であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治四十一年度歳入歳出豫算

歲 入 常 部

四十一年度豫算

地 租 割 金六拾貳萬參千百八拾六圓拾六錢七厘

內 郡 收 入 金四萬千八百七拾四圓八拾五錢貳厘

郡 市 收 入 金五拾八萬千參百拾壹圓參拾壹錢五厘

但本年地租豫算高金七拾九萬六千參百拾六圓八拾七錢(內金六千貳百貳

拾五圓參拾參錢貳厘富山市高岡市)地租壹圓ニ付市金七拾參錢町村金七

拾八錢參厘

營 業 稅 金四萬四百七拾貳圓七拾四錢

雜 種 稅 金拾壹萬貳千百八拾八圓六拾八錢

營 業 稅 附加稅 金貳萬貳百拾參圓參拾四錢

但國稅金拾萬千六拾六圓七拾參錢ノ十分ノ二

礦 業 稅 附加稅 金四百六拾四圓四拾貳錢

但礦業稅金四千四百四拾四圓貳拾錢ノ十分ノ一

戶 數 割 金拾八萬貳千參圓六拾五錢貳厘

內 郡 收 入 金壹萬貳千參百拾九圓五拾參錢貳厘

郡 市 收 入 金拾六萬九千六百八拾四圓拾貳錢

但本年總戶數十一萬六千二百二十二戶，戶數一戶二付町村金壹圓五拾六錢六厘

家屋稅 金貳萬六千八百四拾四圓六拾貳錢參厘

但富山市家屋坪數二十六萬二千二百二十三坪，此個數一億百四十五萬四千七百四十個，一個二付壹毛七參，此金壹萬七千五百五拾壹圓六拾七錢

高岡市家屋坪數十七萬三千九百十三坪，此個數六千七百三十四萬二千三百三十七個，一個二付壹毛參八，此金九千貳百九拾貳圓九拾五錢參厘

財產收入 金五百貳拾四圓

內 郡收入 金六圓

內 郡市收入 金五百拾八圓

國庫下渡金 金貳萬七千四拾壹圓八拾錢

河川收入 金千四圓

雜收收入 金八萬七百七拾四圓九拾錢

內 郡收入 金百七拾五圓四拾八錢

內 郡市收入 金八萬五百九拾九圓四拾貳錢

經常部合計金百拾壹萬四千七百拾八圓參拾貳錢貳厘

內 郡收入 金五萬四千參百七拾五圓八拾六錢四厘

內 郡市收入 金百六萬參百四拾貳圓四拾五錢八厘

臨時部

繰越金 金壹萬四百拾貳圓四拾七錢六厘

內 郡收入 金六千參百四拾參圓拾參錢六厘

內 郡市收入 金四千六拾九圓參拾四錢

國庫補助金 金參萬九千六百六拾八圓七錢

財產賣却代 金貳百貳拾參圓

內 郡收入 金四圓

內 郡市收入 金貳百拾九圓

公債證書償還金 金百圓

臨時部合計金五萬四百參圓五拾四錢六厘

內 郡收入 金六千參百四拾七圓拾參錢六厘

內 郡市收入 金四萬四千五拾六圓四拾壹錢

歲入總計金百拾六萬五千百貳拾壹圓八拾六錢八厘

內 郡 收 入 金六萬七百貳拾參圓

郡 市 收 入 金百拾萬四千參百九拾八圓八拾六錢八厘

歲 出

經 常 部

警 察 費 金拾五萬九千四百六拾貳圓

警 察 廳 舍 修 繕 費 金貳千六拾五圓

土 木 費 金拾四萬五千八百五拾壹圓

縣 會 議 諸 費 金九千九百六拾參圓

衛 生 及 檢 徵 費 金八千參百四拾貳圓

教 育 費 金拾六萬七千八百八拾貳圓

郡 廳 舍 修 繕 費 金千九拾貳圓

郡 役 所 費 金五萬八千百貳拾壹圓

救 育 費 金貳百七拾四圓

諸 達 書 及 揭 示 諸 費 金千貳百貳拾壹圓

勸 業 費 金拾參萬參千五百四拾六圓

縣 稅 取 扱 費 金壹萬九千六百六拾壹圓五拾貳錢八厘

縣 廳 舍 修 繕 費 金八百參拾五圓

衆 議 院 議 員 選 舉 費 金貳百圓

縣 吏 員 費 金四萬參千七百五拾七圓

縣 會 議 員 選 舉 費 金百圓

行 政 執 行 費 金貳百圓

財 產 費 金參百四拾九圓

收 用 審 查 會 費 金八拾參圓

統 計 費 金八百九拾九圓

神 社 費 金百參拾圓

豫 備 費 金壹萬圓

內 郡 負 擔 金千圓

郡 市 負 擔 金九千圓

經常部合計金七拾六萬四千參拾參圓五拾貳錢八厘

內	郡	負	擔	金六萬貳百拾參圓	
	郡	市	負	擔	金七拾萬參千八百貳拾圓五拾貳錢八厘
			臨時部		
			警察廳舍建築費	金千六百八拾五圓	
			土木費	金八萬八千八百參拾壹圓	
			郡市町村土木補助費	金貳萬四千七百拾五圓	
			市町村傳染病豫防補助費	金千五百貳拾八圓	
			教育費	金四萬六千參拾九圓	
			教育補助費	金八千六百參拾六圓	
			勸業費	金壹萬千五百四圓	
			勸業補助費	金九千五百圓	
			郡廳舍建築費	金五百拾圓	
			縣債	金八萬千參百參拾四圓	
			衛生補助費	金七百九拾六圓	
			慈善事業補助費	金參百圓	

特別會計豫算

小學校教員恩給金補充費	金六千五拾參圓				
市町村教育補助費	金五百圓				
縣會議事堂建築費本年度支出額	金四萬六千六百八拾六圓				
勸業費本年度支出額	金參千七百五拾七圓參拾四錢				
土木費本年度支出額	金四萬參千四拾九圓				
教育費本年度支出額	金貳萬參千六百參拾圓				
越中史編纂費本年度支出額	金貳千參拾五圓				
臨時部合計金四拾萬千八拾八圓參拾四錢					
內	郡	負	擔	金五百拾圓	
	郡	市	負	擔	金四拾萬五百七拾八圓參拾四錢
歲出總計金百拾六萬五千百貳拾壹圓八拾六錢八厘					
內	郡	負	擔	金六萬七百貳拾參圓	
	郡	市	負	擔	金百拾萬四千參百九拾八圓八拾六錢八厘
(2) 明治四十一年度特別會計歲入歲出豫算(十七件)					
入	歲	出			

罹災救助基金	金五萬四千四百五拾參圓九拾九錢	歲入ニ同シ
慈惠救濟資金	金四萬八百六拾壹圓七拾四錢四厘	同
水災基金	金貳百八拾七圓四拾錢四厘	同
衛生基金	金百貳拾參圓六拾壹錢七厘	同
教育資金	金壹萬四千六百九拾八圓	同
市町村立小學校教員加俸資金	金參萬貳千六百八圓	同
小學校教員恩給基金	金貳千貳百八拾貳圓	同
小學校教員恩給金	金八千八百七拾九圓	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百七拾參圓	同
縣立富山中學校基本財產	金貳百九拾九圓	同
縣立高岡中學校基本財產	金貳百九拾六圓	同
縣立魚津中學校基本財產	金百六拾五圓	同
縣立富山高等女學校基本財產	金參百貳拾五圓	同
縣立高岡高等女學校基本財產	金貳百參拾六圓五拾錢	同
縣立工藝學校基本財產	金參千參百壹圓	同

追加豫算

縣立農學校基本財產	金千五百拾六圓	同
縣立藥業學校基本財產	金六圓五拾錢	同
(3) 明治四十年歲入歲出追加豫算		
歲入經常部		
地租	金九萬九千參百拾壹圓五拾七錢參厘	
但郡市收入		
本年度地租豫算高金七拾九萬四千四百九拾貳圓五拾八錢地租壹圓ニ付金拾貳錢五厘		
戶數	金參萬八千參百六拾九圓五拾四錢八厘	
但郡市收入		
本年度總戶數十一萬七千六百九十八戶一戶ニ付金參拾貳錢六厘		
家屋稅	金五千八百七拾壹圓貳拾五錢八厘	
但本年度富山市總坪數二十六萬千十坪一坪ニ付金壹錢五厘高岡市總坪數十六萬八千六百三十坪一坪ニ付金壹錢壹厘六毛		
經常部計金拾四萬參千五百五拾貳圓參拾七錢九厘		

國庫補助金	金參千七百貳拾七圓
歲入合計金拾四萬七千貳百七拾九圓參拾七錢九厘	
歲出經常部	
土木費	金參萬四千四百五拾五圓
教育費	金參千參百八拾壹圓
縣稅取扱費	金千七百八拾貳圓參拾七錢九厘
經常部計金參萬九千六百拾八圓參拾七錢九厘	
歲出臨時部	
土木費	金六萬四千圓
郡市町村土木補助費	金壹千九百九拾八圓
衛生費	金七千四百五拾四圓
教育費	金千六百拾四圓
土木費本年度支出額	金參萬千七百七拾圓
越中史編纂費本年度支出額	金八百貳拾五圓

教育費繼續方法變更

臨時部計金拾萬七千六百六拾壹圓
歲出合計金拾四萬七千貳百七拾九圓參拾七錢九厘

(4) 自明治四十年至明治四十三年度教育費中高岡高等女學校建築費繼續年期及支出方法變更	既定	豫算高	變更	豫算高
總算高	金七萬七百拾貳圓		金七萬千五百九拾七圓	
明治四十一年度支出額	金貳萬貳千七百四拾五圓		金貳萬參千六百參拾圓	

一、無變更の年度に係るものは省略。

議事堂建築費繼續方法

(5) 自明治四十一年至明治四十二年度縣會議事堂建築費繼續年期及支出方法	總	豫	算	高
內	譯			
金四萬六千六百八拾六圓			明治四十一年度支出額	
金五萬七拾四圓			明治四十二年度支出額	

越中史編纂費繼續方法

(6) 自明治四十年至明治四十二年度越中史編纂費繼續年期及支出方法	總	豫	算	高
內	譯			
金貳千八百六拾圓				

第三章 縣會議事(明治年代)

八九四

金八百貳拾五圓

明治四十年支出額

金貳千參拾五圓

明治四十一年度支出額

土木費繼續
方法

(7) 自明治四十二年
至明治四十二年
度土木費中兵營
道路新築費繼續
年期及支出方法

總算高

一金八萬貳千參百七拾九圓

內譯

金參萬千七百七拾圓

明治四十年支出額

金貳萬六百九圓

明治四十一年度支出額

金參萬圓

明治四十二年支出額

縣稅賦課規
則

(8) 縣稅賦課規則(改正)

全文四十條第一章總則第二章地租割第三章營業稅雜種稅第四章戶數割第五章家屋稅第六章營業稅附加稅第七章鑛業稅附加稅に分ち明治四十一年度より實施することとし
た。而して本規則實施の日より明治三十二年通常會決議に係る縣稅賦課規則明治三十
三年通常會決議に係る法人建物稅賦課規則流材稅賦課規則狩獵稅賦課規則を廢止する
こととした。

議及

(9) 議及(六件)

建議

(10) 建議(八件)

- (一) 慈惠事業補助費分配方の件、(二) 兵營道路修築方の件、(三) 清國留學生定員の件、(四) 慈惠救濟資金下附方の件、(五) 縣立農學校同高岡中學校設備の件、(六) 魚津停車場道路外三道路等改修の件を議及した。
- (一) 東水橋町外四町村に警察分署舟見町に巡查部長派出所設置の件、(二) 町立新湊商船學校を縣立に魚津高等女學校を新設町立石動徒弟學校を工藝學校の分校とする件、(三) 築漁を各河川に設置許可の件、(四) 高岡市氷見町間海老坂峠切下工事實施の件、(五) 富山市覺中町富山監獄間道幅取擴の件、(六) 明治三十七年縣令第五十三號土木費支辨及補助規程中改正の件、(七) 中田橋有澤橋架換及び常願寺川下流架橋の件、(八) 下新川郡角川河身改修の件を建議した。

特殊事項

挨拶の交換

議員招待宴に於ける挨拶の交換

十一月二十二日午後五時より富山ホテルに於て開かれた知事の議員招待會に於ける、知事及び議長の挨拶の交換がいかにも奇抜であつた。一同着席配膳が濟むと知事の挨拶